

01

題材名 「見えないだけ」(第1時/全1時間)

目標 詩の中での言葉の意味や表現の特徴に気づき、それらを生かして朗読することができる。

領域名 言葉

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入	① 題材名「見えないだけ 牟礼慶子」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。	
5分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">詩の特徴を生かして朗読しよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートを配付し、書き込ませる。 声を合わせて読ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の目標を知る。 声を合わせて目標を読む。
展開	③ 音読の練習をさせる。 <ul style="list-style-type: none"> 教科書P.1-2を教師が読む。 「今度はみんなで声を合わせて読んでみよう」 「次は、二行ずつ交代で読んでみよう」 ○垣根など、生徒がなじみのない言葉について意味を説明する。 ④ 好きな言葉や表現をワークシートに抜き出させ、その理由を書かせる。 「詩の中でいいなと思った言葉や表現を、理由とともに書こう。」 ○擬人法(海が眠っている)、対句(1~4、5~10行目)などについての指摘があれば、説明を捕捉させ、効果なども考えさせる。	<ul style="list-style-type: none"> 教師の指示に従いながら、いろいろな方法で詩を音読する。 いいと思った言葉や表現とその理由をワークシートに記入する。
38分	◎ ⑤ 好きな言葉や表現を発表させる。 「友達の発表で初めて気づいたことや、なるほどと思ったことはメモしておこう」	<ul style="list-style-type: none"> 書いたものを発表し合い、必要があればメモを取る。 評価 言葉や表現の特徴と効果に気付くことができているか。(ワークシート)
	⑥ 詩の特徴を生かして朗読させる。 「選んだ言葉や表現のよさが伝わるように工夫して朗読しよう。」 <ul style="list-style-type: none"> 教科書に工夫することを書き込ませ、朗読の練習をさせる。 ○「どんな気持ちを込めるか」「声の強弱」「速さ」などのポイントを示す。どんな工夫の方法があるか、生徒に聞いてみてもよい。 ・ペアになり、自分の工夫点を説明させてから朗読させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 朗読の工夫の仕方を知り、自分なりの読み方を考えてワークシートに記入し、朗読練習する。
終	⑦ 本時のまとめと次時の予告をする。 「本時の振り返りを書こう。」 「次の時間は「アイスプラネット」の学習をします。」	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価と感想を記入する。 次時の見通しを持つ。
2分		

指導のポイント

・好きな言葉や表現を発表し合い、詩の特徴に気付くことが第一の目標です。表現技法の効果や言葉がもつイメージについての発言は丁寧に聞いてやることで、発表者以外の生徒も深い学びを得ることができる。

板書例

① 題材名「見えないだけ」を黒板に書く。

② 本時の目標を確認させる。
・「詩の特徴を生かして朗読しよう。」
・ワークシートを配付し、書き込ませる。

④ 好きな言葉や表現をワークシートに抜き出させ、その理由を書かせる
⑤ 好きな言葉や表現を発表させる。
・4～5名指名し、生徒の発言を要約して板書していく。

⑥ 詩の特徴を生かして朗読させる。
・「どんな気持ちを込めるか」「声の強弱」「速さ」などのポイントを板書で示す。
どんな工夫の方法があるか、生徒に聞いてみてもよい。
・教科書への記入と練習が終わったら発表の仕方を確認させる。

「見えないだけ」 牟礼 慶子

詩の特徴を生かして朗読しよう。

好きな言葉や表現とその理由

もっと大きな空
↓宇宙のようなイメージ
海が眠っている
↓生き物のように面白い
待ちかねている新しい友達
↓ワクワクする気持ちが伝わってくる

朗読の工夫

- ・ 声の強弱
- ・ 読む速さ
- ・ 間の取り方
- ・ どんな気持ちを込めるか

朗読発表の手順

自分が工夫するところを伝える ←

朗読を発表する ←

よかったところをコメントする ←

02

題材名 「アイスプラネット」(第1時/全2時間)
目標 作品を通読し、登場人物の設定を捉えることができる。
領域名 言葉 C 読むこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 5分	① 題材名「アイスプラネット 椎名誠」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> ぐうちゃんの人物像を捉えよう。 </div> ・ワークシートを配付し、書き込ませる。 ・声を合わせて読ませる。	・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。
展開 38分	③ 漢字の読みを確認させる。(23字) ・教材文の下段に掲載されている熟語の読みを確認させていく。 ・教師のあとに続いて漢字の読みを復唱させる。 ④ 全文を通読させる。 ・教師がP. 14-22を範読する。 「登場人物はどんな人たちか、想像しながら読もう。」 ○語句の意味も随時説明する。 ・通読後、登場人物を口頭で確認させる。 ◎ ⑤ ぐうちゃんの人物像を捉えさせる。 「P. 15にそんな『ぐうちゃん』」とあるが、ぐうちゃんがどんな人物なのかがわかる表現を探し、ワークシートに整理しよう。」 ・P. 24「登場人物の設定を捉える」とP. 260資「文学的な文章を読むために」を読ませ、ポイントを確認させてから作業をさせる。 ・作業が早く終わった生徒には、ぐうちゃんに対する「僕」「母」「父」それぞれの思いがわかる表現を探すよう指示する。 ・5分ほど作業をさせた後、指名して人物像を整理させる。時間があればぐうちゃんに対する「僕」「母」「父」の思いも確認させる。	・教師のあとに続いて復唱する。 ・教科書を目で追いながら、教師の範読を聴く。 ・教科書に線を引き、ワークシートに抜き出す。 評価 名前や年齢、性格などに着目してぐうちゃんの人物像を捉えている。(ワークシート) ・発表の際は、どこから読み取ったかわかるよう、ページと行を先に言う。
終 2分	⑥ 本時のまとめと次時の予告をする。 「本時の振り返りを書こう。」 「次の時間はぐうちゃんに対する僕の気持ちを読み取ります。」	・自己評価と感想を記入する。 ・次時の見通しを持つ。

指導のポイント

・読み取りの際はまず教科書に線を引かせること、発表の際は教科書のページと行を言わせることを年度当初に徹底させておくと、根拠を明らかにして考えるための土台ができる。

板書例

① 題材名「アイズプラネット」を黒板に書く。

② 本時の目標を確認させる。
・「ぐうちゃんの人物像をまとめよう。」
・ワークシートを配付し、書き込ませる。

⑤ ぐうちゃんの人物像を捉えさせる。
・P. 24「登場人物の設定を捉える」とP. 260資「文学的な文章を読むために」を読ませ、ポイントを確認させてから作業をさせる。
・作業が早く終わった生徒には、ぐうちゃんに対する「僕」「父」「母」それぞれの思いがわかる表現を探すよう指示する。
・5分ほど作業をさせた後、指名して人物像を整理させる。
・時間があればぐうちゃんに対する「僕」「父」「母」の思いも確認させる。

「アイズプラネット」 椎名 誠

ぐうちゃんの人物像を捉えよう。

これが「ぐうちゃん」だ！

○名前・年齢

津田由起夫・三十八歳

○置かれている状況や立場

僕の家はいそろう たまに測量の仕事

○外見や性格・言動・考え方などの特徴

ぐうたら のんびり

旅・本・カメラが好き

○他の登場人物との関係

僕の母親の弟

ぐうちゃんに対する思い

僕…おもしろいぐうちゃんが大好き

母…ぐうちゃんのことを心配でよく怒る。

だけど、大切に思っている。

父…ぐうちゃんがいてくれると安心。

いそろうを歓迎

⑥ 本時のまとめと次時の予告をする。
「本時の振り返りを書こう。」
「次の時間はぐうちゃんに対する僕の気持ちを読み取ります。」

03

題材名 「アイスプラネット」 (第2時/全2時間)
目標 心情や考え方を表す語句に着目して読むことができる。
領域名 言葉 C 読むこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 5分	① 題材名「アイスプラネット 椎名誠」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> ぐうちゃんに対する僕の思いを読み取ろう </div> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートを配付し、書き込ませる。 声を合わせて読ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の目標を知る。 声を合わせて目標を読む。
展開 38分	③ ぐうちゃんのほら話に対する僕の考えの変化を捉えさせる。 「ぐうちゃんのほら話を聞いているとき、僕はどんなことを考えていただろう。」 <ul style="list-style-type: none"> 「世界で一番長い蛇」「アマゾンのナマズ」「北極にできる小さな氷の惑星」と、話の内容ごとに考えを捉えさせる。 ④⑤の活動に時間をかけるため、テンポよく確認していく。生徒から意見が出なければ、教師が該当箇所を指摘してもよい。 ④ 僕がぐうちゃんの部屋に二度と行かなかった理由を考えさせる。 「僕はなぜぐうちゃんの部屋に二度と行かなかったのだろう。」 <ul style="list-style-type: none"> 次のような表現に着目させる。 「『でもまあもう少し』にはこんな意味があったのか。」 「ぐうちゃんの声はどんどん遠くなっていく。」 「気が付くと、僕はぶっきらぼうに言っていた。」 「勝手に行けばいいじゃないか」 「何かを話しかけようとするぐうちゃんを残して僕は部屋を出た。」 ⑤ 手紙と写真を受け取ったときの「僕」の気持ちを想像させる。 「手紙と写真を受け取ったときの僕になりきって、ぐうちゃんに思いを伝えよう。」	<ul style="list-style-type: none"> 「僕」の考えが読み取れる箇所に線を引く。 全体で確認しながらワークシートに記入していく。 「僕」の考えが読み取れる箇所に線を引き、ワークシートに記入する。 <p>評価 心情や考えを表す語句に着目している。(ワークシート)</p> <ul style="list-style-type: none"> ③④の活動を踏まえて僕の気持ちを想像する。
終 2分	⑥ 本時のまとめと次時の予告をする。 「本時の振り返りを書こう。」 「次の時間は聞くことの学習をします。」	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価と感想を記入する。 次時の見通しを持つ。

指導のポイント

- ④の活動の際には、自分の考え→根拠(教科書の表現+その表現からわかること)の順で書かせる。
 例 私は～と思う。○ページ○行目に「」とあり、僕が～という気持ちになっていることがわかるからだ。

板書例

① 題材名「アイスプラネット」を黒板に書く。

② 本時の目標を確認させる。
・「ぐうちゃんに対する僕の思いを読み取ろう。」
・ワークシートを配付し、書き込ませる。

③ ぐうちゃんのほら話に対する僕の考えの変化を捉えさせる。
・話の内容ごとに考えを捉えさせる。
・テンポよく確認していく。生徒から意見が出なければ、教師が該当箇所を指摘してもよい。

④ 僕が二度とぐうちゃんの部屋に行かなかった理由を考えさせる。
・何も言ってくれなかったことに対するいらだちや、いなくってしまう寂しさ、何と書いていいかわからないもやもやした気持ちを押さえない。

「アイスプラネット」 椎名 誠

ぐうちゃんに対する僕の思いを読み取ろう。

ぐうちゃんのほら話に対する僕の考え

○世界一長い蛇：怪しい、おもしろい

○アマゾンのナマズ：どうせほら話、ありえねえ

ばかばかしい

○氷の惑星：ありえねえ、聞いていられない

なぜ僕は二度とぐうちゃんの部屋に行かなかったのか

・前からわかっていたのに黙っていたぐうちゃんに腹を立てたから。

・感情的に部屋を出てしまったので、何と云えばいかわからなかったから。

・ぐうちゃんがいなくなるのは寂しいが、素直になれなかったから。

手紙と写真を受け取った僕になりきって、ぐうちゃんへの思いを伝えよう。

⑤ 手紙と写真を受け取った時の僕の気持ちを想像させる。
・③④で考えたことを踏まえて想像させる。

⑥ 本時のまとめと次時の予告をする。
「本時の振り返りを書こう。」
「次の時間はぐうちゃんに対する僕の気持ちを読み取ります。」

04

題材名 「問いを立てながら聞く」（第1時／全1時間）

目標 論理の展開に注意して聞き、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる。

領域名 情報 A 話すこと・聞くこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 5分	① 題材名「問いを立てながら聞く」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">話の要点を聞き取り、意見と根拠のつながりを確認しよう</div> ・ワークシートを配付し、書き込ませる。 ・声を合わせて読ませる。	・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。
展開 38分	③ 「友達の提案」を読み上げさせ、要点をメモさせる。 ・教科書は閉じて聞くことに集中するよう指示する。 ・意見と根拠を整理させ、疑問に思うことや確認したいことを考えさせながら聞かせる。 ○メモを取る際には、小見出し、番号、記号、矢印などを用いて、話の要点や順序を視覚的に整理させるとよい。 ◎ ④ メモを基に、意見や根拠について話し合わせる。 ・疑問に思うことや確認したいことについて共有させる。 ○意見と根拠について考えるポイントを確認しておくことよい。 「意見と理由のつながり」 例 学校図書館に雑誌を置くべき←読書の苦手な人でも楽しめる 「理由と事実（事例）のつながり」 例 読書の苦手な人でも楽しめる←雑誌は写真や様々な記事がある 「事実（事例）の適切さ」 例 雑誌は写真や様々な記事がある←そう言い切れるか？	・意見と根拠を区別してワークシートにメモする。 ・4人グループで意見や根拠の適切さについて話し合う。 ・友達の意見でなるほどと思ったものはメモをする。 評価 意見と根拠の結びつきに注意して聞き、疑問点や確認したい点を明確にしている。（ワークシート）
終 2分	⑤ 本時のまとめと次時の予告をする。 ・「上達のポイント」を読み、学習を振り返る。 「本時の振り返りを書こう。」 「次の時間は季節のしおりを学習します。」	・自己評価と感想を記入する。 ・次時の見通しを持つ。

指導のポイント

・聞くことの学習では、話のすべてを丁寧に記録しようとしてしまうことが多い。しかし、実際に人の話を聞く時に最も大切なのは、話し手を見て反応しながら聞くことである。そのため、要点（意見と根拠）だけをメモすること、言った言葉を短くまとめてメモすればよいこと、きれいに書く必要はないことを事前に確認しておく。

板書例

① 題材名「問いを立てながら聞く」を黒板に書く。

② 本時の目標を確認させる。
・「話の要点を聞き取り、意見と根拠のつながり確かめよう。」
・ワークシートを配付し、書き込ませる。

③ 「友達の提案」を読み上げさせ、要点をメモさせる。
・教科書は閉じて聞くことに集中するよう指示する。
・意見と根拠を整理させ、疑問に思うことや確認したいことを考えさせながら聞かせる。
・聞き取った内容を確認させ、板書していく。

④ メモを基に、意見や根拠について話し合わせる。
・疑問に思うことや確認したいことについて共有させる。

「問いを立てながら聞く」

話の要点を聞き取り、意見と根拠のつながり確かめよう

メモするときは
要点だけを書く！
短くまとめて書く！
速さを重視する！（きれいでもなくともよい）

話の要点
意見
図書館に雑誌

根拠1
写真やイラスト
様々な記事

読書が苦手でも楽しめる

根拠2
アンケート結果九人

雑誌の人气が高い

疑問や確認したいこと

⑤ 本時のまとめと次時の予告をする。
・「上達のポイント」を読み、学習を振り返らせる。
「本時の振り返りを書こう。」
「次の時間は季節のしおりを学習します。」

05

題材名 「枕草子」(第1時/全2時間)

目標 文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。

領域名 言語文化 B 書くこと C 読むこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 5分	① 題材名「枕草子 清少納言」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin: 10px 0;">清少納言と自分の季節の感じ方を比べよう</div> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートを配付し、書き込ませる。 声を合わせて読ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の目標を知る。 声を合わせて目標を読む。
展開 38分	③ 漢字の読みを確認させる。(8字) <ul style="list-style-type: none"> 教材文の下段に掲載されている熟語の読みを確認させていく。 教師のあとに続いて漢字の読みを復唱させる。 ④ 音読の練習をさせる。 「短く区切るので、後に続いて読もう。」 <ul style="list-style-type: none"> 少しずつ読み、続いて生徒に音読させる。 一人で全文を通して音読させる。 意味が現代と違う言葉や古典で頻出する語句に注意させる。 (をかし、さらなり、あはれ、つきづきし、わろし) ⑤ 清少納言が感じている四季のよさをワークシートにまとめさせる。 「清少納言はどのように四季のよさをとらえているか、ワークシートに整理しよう。」 <ul style="list-style-type: none"> よさと感じる時刻と内容を整理させる。 ワークシートに書き込んだ内容を発表させ、板書にまとめさせる。 P-31コラム「枕草子」を参考にしながら、「枕草子」の特徴を捉えさせる。 ◎ ⑥ 自分の季節感と比べさせる。 「自分の好きな季節と時間帯、好きな理由を挙げてみよう。」 <ul style="list-style-type: none"> ペアや全体で発表させ、清少納言との違いや共通点に気付かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師のあとに続いて復唱する。 繰り返し音読練習をし、古典の文章のリズムを味わう。 季節ごとに、よさを感じる時間帯、自然や生き物の様子をワークシートに書き込む。 <p>評価 作者の考えと自分の考えとを比較し、感じたことをまとめている。(ワークシート)</p>
終 2分	⑦ 本時のまとめと次時の予告をする。 「本時の振り返りを書こう。」 「次の時間は自分流「枕草子」を書きます。」 「自分なりの季節を感じるものを考えておこう。」	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価と感想を記入する。 次時の見通しを持つ。

板書例

① 題材名「枕草子 清少納言」を黒板に書く。

② 本時の目標を確認させる。
 ・「清少納言と自分の季節の感じ方を比べよう。」
 ・ワークシートを配付し、書き込ませる。

⑤ 「清少納言が感じている四季のよさをワークシートにまとめさせる。
 「清少納言はどのように四季のよさをとらえているか、ワークシートに整理しよう。」
 ・よさを感じる時刻と内容を整理させる。
 ・ワークシートに書き込んだ内容を発表させ、板書にまとめさせる。
 ・P-31 コラム「枕草子」を参考にさせながら、「枕草子」の特徴を捉えさせる。

○自分の好きな季節と時間帯、そのよさを挙げて、清少納言と比べよう。

冬	秋	夏	春	季節
早朝	夕暮れ	夜	明け方	好きな時刻
雪が降っていること 火を起こして炭を持って 歩いていく様子	鳥が飛んでいく様子や 雁が小さく見えること 風の音、虫の音	月が出ていること 蛍の飛ぶ夜 一、二匹でも 雨の降る（涼しさ？音？）	雲がたなびいていること 明るくなって紫がかつた	よさとして考えること 空の山に接するあたりが

○清少納言の考える季節のよさ

清少納言と自分の季節の感じ方を比べよう

「枕草子」 清少納言

⑥ 自分の季節感と比べさせる。
 「自分の好きな季節と時間帯、好きな理由を挙げてみよう。」
 ・ペアや全体で発表させ、清少納言との違いや共通点に気付かせる。

⑦ 本時のまとめと次時の予告をする。
 ・「本時の振り返りを書こう。」
 「次の時間は自分流「枕草子」を書きます。」
 「自分なりの季節を感じるものを考えておこう」

06

題材名 「枕草子」(第2時/全2時間)

目標 社会生活の中から題材を決め、多様な方法で集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にできる。

領域名 言語文化 B 書くこと C 読むこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入	① 題材名「枕草子 清少納言」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。	
5分	自分流『枕草子』を書こう	
5分	・ワークシートを配付する。(目標は記載しておく。) ・声を合わせて読ませる。	・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。
展開	③ 『枕草子』の形式を使って、自分ならではの季節感を表す文章を書かせる。 ・生徒の実態を考慮し、字数は特に指定せずに書かせる。 ・P-31「自分流『枕草子』を書こう」を読ませ、ポイントを確認させる。 (1) 「春は…。」「夏は…。」の書き出しを使わせる。 (2) その季節らしい食べ物、行事、植物、動物、天候、身の回りものなどで、観点を揃えさせる。(清少納言の観点は時間帯) (3) 挙げたもののよさが伝わるように、五感を活用させる。(色、におい、味、音、肌触り、など)	・ポイントを確認し、観点を決めてから書く。
38分	④ 自分流『枕草子』を発表させる。 ・季節の感じ方でもいいと思ったところや、表現の仕方であまいと思ったところをコメントさせる。	評価 生活を振り返って、自分ならではの季節感を表すものを見つけ、文章に表している。(ワークシート) ・相手との季節感の違いや共通点を考えながら聞く。
終	⑤ 本時のまとめと次時の予告をする。 「本時の振り返りを書こう。」 「次の時間は「情報の整理の仕方」を学習します。」	・自己評価と感想を記入する。 ・次時の見通しを持つ。

指導のポイント

・観点を決めて、季節ごとによさを感じるものを挙げることは比較的簡単にできると思われるが、そのよさを表現するのにつまずく生徒もいると思われる。ぜひ五感をフル活用して考えさせたい。教師から、そのものについて「どんな色か」「どんなにおいか」「どんな味か」「どんな音か」などと問うことで、思考を促したい。

板書例

① 題材名「枕草子 清少納言」を黒板に書く。

② 本時の目標を確認させる。
・「自分流『枕草子』を書こう。」
・ワークシートを配付し、確認させる。

③ 『枕草子』の形式を使って、自分ならではの季節感を表す文章を書かせる。

・P-31「自分流『枕草子』を書こう」を読ませ、ポイントを確認させる。

- (1) 「春は…。」「夏は…。」の書き出しを使わせる。
- (2) その季節らしい食べ物、行事、植物、動物、天候、身の回りのものなどで、観点を揃えさせる。(清少納言の観点は時間帯)
- (3) 挙げたもののよさが伝わるように、五感を活用させる。
(色、におい、味、音、肌触り、など)

「枕草子」 清少納言

自分流『枕草子』を書こう

○自分ならではの季節感を表す『枕草子』にするために

1 「春は…。」「夏は…。」の書き出しを使う。

2 その季節らしい食べ物、行事、植物、動物、天候、身の回りのものなどで、観点を揃える。
(清少納言の観点は時間帯)

3 挙げたもののよさが伝えるため、五感を活用する。
(色、におい、味、音、肌触り、など)

※ 字数にはこだわらなくてよい。

○『枕草子』を発表し合おう

・自分との共通点や違いを考えながら聞く。

④ 自分流『枕草子』を発表させる。
・季節の感じ方でいいと思ったところや、表現の仕方でうまいと思ったところをコメントさせる。自分の季節感と比べさせる。

⑤ 本時のまとめと次時の予告をする。
・「本時の振り返りを書こう。」
「次の時間は「情報の整理の仕方」を学習します。」

07

題材名 「情報整理のレッスン 思考の視覚化」(第1時/全1時間)
目標 情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使うことができる。
領域名 情報
学習の流れ

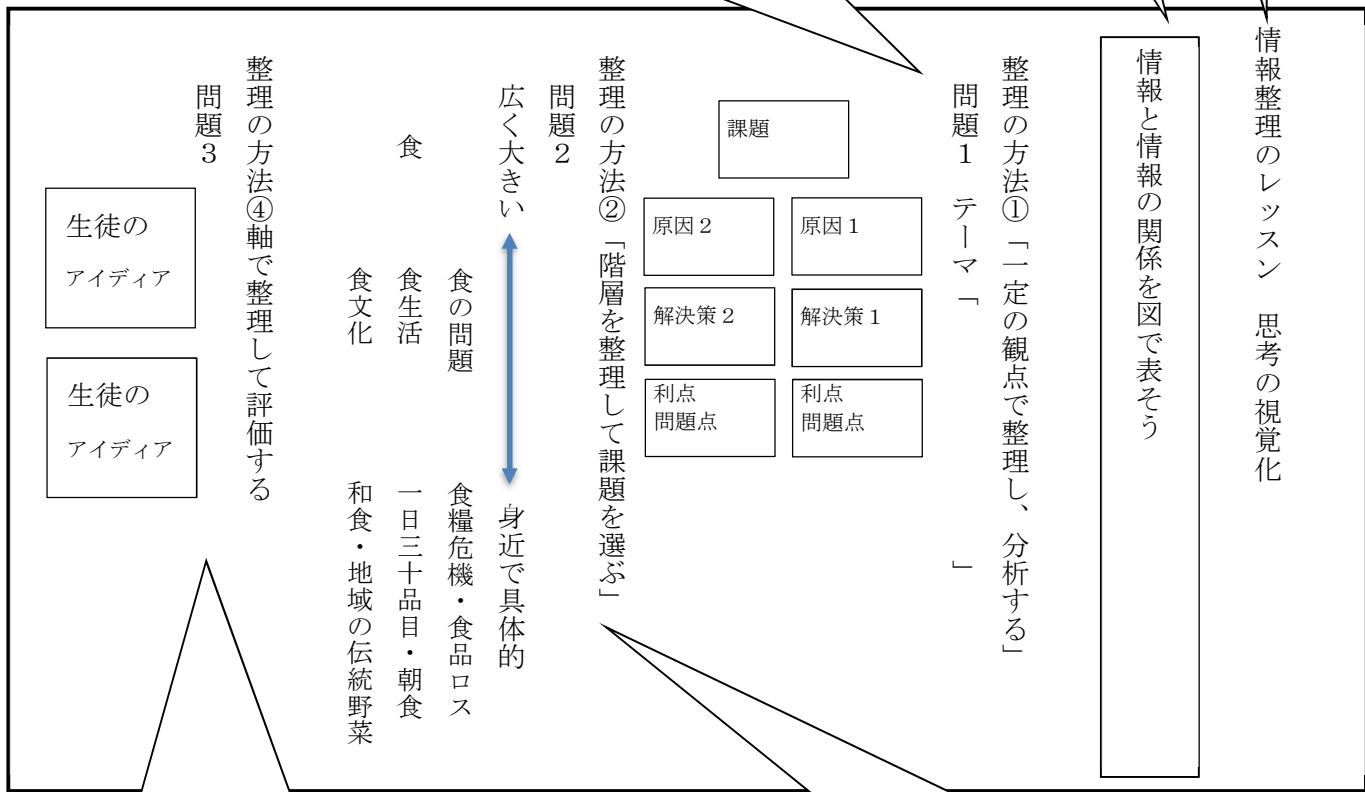
	教師の働きかけ	生徒の活動
導入	① 題材名「情報整理のレッスン 思考の視覚化」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 情報と情報の関係を図で表そう </div> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートを配付する。(目標は記載済み) 声を合わせて読ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の目標を知る。 声を合わせて目標を読む。
5分	③ 漢字の読みを確認させる。(3字) <ul style="list-style-type: none"> P-33の上段「土壌汚染」「生活排水」中段「会心の笑み」を確認させる。 ◎	<ul style="list-style-type: none"> 教師の後に続いて復唱する。
展開	④ P-32を読み、問題1に取り組ませる。 <ul style="list-style-type: none"> 環境問題などの大きな問題は考えさせにくいので、できるだけ生徒から身近な問題を出させる。出ない場合は、例えば「本を読む人が少ない」「宿題忘れが多い」「あいさつの声が小さい」など、各校の実態に応じて教師が設定する。 4人グループで話し合い、4つの観点で意見を整理させる。 短い表現で書くようにさせる。 ⑤ P-33整理の方法②を読ませ、問題2に取り組ませる。 <ul style="list-style-type: none"> 可能であれば、掲示用短冊を用意しておき、全体で話し合わせながら階層分けができるとよい。不可能な場合は、ワークシートに記入して整理させる。 ⑥ P-33整理の方法③、④を読ませ、問題3に取り組ませる。 <ul style="list-style-type: none"> 問題3の①②のどちらかを選んで考えさせる。 縦軸と横軸(ポジショニングマップ)、五角形(レーダーチャート)、一本軸、のいずれの場合も評価の観点を決めることが重要であることを確認させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 4人グループで話し合い、ワークシートに記入する。 まず個人でワークシートに記入した後、全体で確認する。 まず個人でワークシートに図で書き表す。その後ペアで交流し、全体で発表する。
38分		評価 問題1～3に取り組み、情報同士の関係を図に表している。(ワークシート)
終	⑦ 本時のまとめと次時の予告をする。 「本時の振り返りを書きましょう。」 「次の時間は「多様な方法で情報を集めよう」を学習します。」	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価と感想を記入する。 次時の見通しを持つ。
2分		

板書例

① 題材名「情報整理のレッスン 思考の視覚化」を黒板に書く。

② 本時の目標を確認させる。
 ・「情報と情報の関係を図で表そう。」
 ・ワークシートを配付し、確認させる。

④ P-32 を読ませ、問題 1 に取り組ませる。
 ・環境問題などの大きな問題は考えさせにくいので、できるだけ生徒から身近な問題を出させる。出ない場合は、例えば「本を読む人が少ない」「宿題忘れが多い」「あいさつの声が小さい」など、各校の実態に応じて教師が設定する。
 ・4人グループで話し合わせ、4つの観点で意見を整理させる。
 ・短い表現で書くようにさせる。



⑥ P-33 整理の方法③、④を読ませ、問題 3 に取り組ませる。
 ・問題 3 の①②のどちらかを選ばせて考えさせる。
 ・縦軸と横軸（ポジショニングマップ）、五角形（レーダーチャート）、一本軸、のいずれの場合も評価の観点を決めさせることが重要であることを確認させる。

⑤ P-33 整理の方法②を読ませ、問題 2 に取り組ませる。
 ・可能であれば、掲示用短冊を用意しておき、全体で話し合わせながら階層分けができるとよい。不可能な場合は、ワークシートに記入して整理させる。

⑦ 本時のまとめと次時の予告をする。
 ・「本時の振り返りを書きましょう。」
 「次の時間は「多様な方法で情報を集めよう」を学習します。」

08

題材名 「多様な方法で情報を集めよう 職業ガイドを作る」①（第1時／全3時間）
目標 目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、情報を収集することができる。
領域名 情報 B 書くこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 5分	① 題材名「多様な方法で情報を集めよう 職業ガイドを作る」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin: 5px 0;">調べる職業を決め、情報の集め方を考えよう</div> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートを配付する。（目標は記載済み） 声を合わせて読ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の目標を知る。 声を合わせて目標を読む。
展開 38分	③ 「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認させ、学習の見通しをもたせる。 ④ 調べる職業を決めさせ、どのようにして情報を集めるか考えさせる。 <ul style="list-style-type: none"> 調べてみたい職業を決めさせる。 その職業について知りたい項目や内容を挙げさせ、それらに適した調べ方を考えさせて、多様な方法で情報を集めさせる。 図書館や資料館、インターネット、インタビューなど、多様な情報収集の方法を考えさせる。 出典を明らかにさせるなど、既習事項を想起させる。 →P37窓「多様な情報を集めさせ、考えをまとめさせるには」 近くの友達と相談しながら作業を進めてもよいこととする。 <p>○複数の情報源で調べるのが理想だが、補習校の場合は図書資料に当たることは難しく、インターネットが中心になると思われる。その場合、同じ項目でも複数のサイトから情報を集めさせるようにする。</p> <p>○保護者や親戚の職業をテーマにすると、インタビューはしやすい。相手が日本在住の場合は電話やメールなどでのインタビューとなるが、P-271資「インタビューをする」を読ませ、失礼のないようにさせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「調べたい職業」「その職業について知りたい項目や内容」「調べ方」を考えてワークシートに書き出す。 <p>評価 調べてみたい職業を決め、知りたいことに適した方法を考えて、情報を収集している。（ワークシート）</p> <p>※情報収集は次回までの宿題とする。</p>
終 2分	⑤ 次時の予告をする。 「情報集めは次回までの宿題です。調べた情報は写真やイラストも含め、ノートに書いたり、プリントアウトしたりしてきましょう。次の時間は集めてきた情報を分類・整理します。」	<ul style="list-style-type: none"> 次時の見通しを持つ。

板書例

① 題材名「多様な方法で情報を集めよう 職業ガイドを作る」を黒板に書く。

② 本時の目標を確認させる。
・「調べる職業を決め、情報の集め方を考えよう」
・ワークシートを配付し、確認させる。

③ 「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認させ、
学習の見通しをもたせる。

多様な方法で情報を集めよう 職業ガイドを作る

調べる職業を決め、情報の集め方を考えよう

職業ガイド作り
今日の作業

- 1 調べる職業を決める
- 2 その職業について知りたい項目や内容を挙げる・
- 3 知りたい情報に適した調べ方を考える

例

- ・ 図書館
- ・ インターネット
- ・ インタビュー

※必ず複数の情報源で調べる
出典はメモしておく
インタビューは失礼のないように

p
271

写真やイラストもあるとよい！

④ 調べる職業を決めさせ、どのようにして情報を集めるか考えさせる。
・ 調べてみたい職業を決めさせる。
・ その職業について知りたい項目や内容を挙げさせ、それらに適した調べ方を考えさせて、多様な方法で情報を集めさせる。
・ 図書館や資料館、インターネット、インタビューなど、多様な情報収集の方法を考えさせる。
・ 出典を明らかにさせるなど、既習事項を想起させる。
→P37 窓「多様な情報を集め、考えをまとめるには」

⑤ 次時の予告をする。
・ 「情報集めは次回までの宿題です。調べた情報は写真やイラストも含め、ノートに書いたり、プリントアウトしたりしてきましょう。次の時間は集めてきた情報を分類・整理します。」

題材名 「多様な方法で情報を集めよう 職業ガイドを作る」②（第2時／全3時間）

目標 多様な方法で集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。

領域名 情報 B 書くこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 5分	① 題材名「多様な方法で情報を集めよう 職業ガイドを作る」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">集めた情報を整理・分類しよう</div> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートを配付する。（目標は記載済み） 声を合わせて読ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の目標を知る。 声を合わせて目標を読む。
展開 38分	③ 集めた情報を分類・整理して3つに絞らせる。 <ul style="list-style-type: none"> 複数の情報源から集めた情報を、表を用いて分類・整理させる。 <ol style="list-style-type: none"> 集めた情報を、項目ごとにまとめさせる。 まとめさせた情報から、職業ガイドに載せる情報を選ばせる。 ※目的（友達にその職業について知ってもらう）を達成するために必要な情報は何か、という視点で3つに絞らせる。 複数の情報源から集めさせた場合は、より信頼できる情報を選ばせる。 選んだ情報をワークシートに書き込ませる。 ④ 職業ガイドに書く順番を考えさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ワークシートに書いた情報をどの順番で書けばよいか考えさせる。 大きな情報から書いていくと、その職業を知らない人にも読みやすくなることを伝える。 ガイドに書く順番を決めさせたら、ワークシートに数字を書き入れさせる。 調べた感想と参考資料は必ず書くことを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> 調べてきた情報を分類・整理して3つを選び、ワークシートに書く。 評価 収集した情報を分類・整理し、自分の目的に合うものを取捨選択している。（ワークシート） <ul style="list-style-type: none"> 情報を書く順番を考え、ワークシートに書く。
終 2分	⑤ 本時のまとめと次時の予告をする。 <ul style="list-style-type: none"> 「本時の振り返りを書きましょう。」 「次の時間はよいよ職業ガイドを作成します。」 	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価と感想を記入する。 次時の見通しを持つ。

指導のポイント

情報の取捨選択は、相手と目的に応じて行うことが大切である。今回は友達にその職業について知らせるということをしっかりと生徒に意識させたい。

また、インターネットの情報はどのサイトから得たものかで信頼度が大きく変わることを、③の活動時に確認させておく。

板書例

① 題材名「多様な方法で情報を集めよう 職業ガイドを作る」を黒板に書く。

② 本時の目標を確認させる。
・「集めた情報を整理・分類しよう」
・ワークシートを配付し、確認させる。

③ 集めた情報を分類・整理して3つに絞らせる。
・手順を板書し、流れを理解させてから作業を行わせる。

多様な方法で情報を集めよう 職業ガイドを作る

集めた情報を整理・分類しよう

今日の作業

- 1 集めた情報を、項目ごとにまとめる。
- 2 職業ガイドに載せる情報を選ぶ。
※目的（友達にその職業について知ってもらおう）を達成するために必要な情報は何か、という視点で考えよう。
二つに絞る！
- 3 複数の情報源から集めた場合は、より信頼できる情報を選ぶ。
- 4 選んだ情報をワークシートに書き込む。
- 5 ガイドに書く順番を決める。
※大きな情報から小さな情報へ
調べた感想と参考資料は調べたことの後
必ず書く

④ 職業ガイドに書く順番を考えさせる。
・ワークシートに書いた情報をどの順番で書けばよいか考えさせる。

⑤ 本時のまとめと次時の予告をする。
・「本時の振り返りを書きましょう。」
「次の時間はいよいよ職業ガイドを作成します。」

10

題材名 「多様な方法で情報を集めよう 職業ガイドを作る」③（第3時／全3時間）

目標 文章の構成を工夫し、伝えたいことを明確にすることができる。

領域名 情報 B 書くこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 5分	① 題材名「多様な方法で情報を集めよう 職業ガイドを作る」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">読み手に見やすい職業ガイドを作ろう</div> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートを配付する。（目標は記載済み） 声を合わせて読ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の目標を知る。 声を合わせて目標を読む。
展開 38分	③ 職業ガイドを書かせる。 <ul style="list-style-type: none"> P-36,37の職業ガイド例と紙面構成について、紙面作成のポイントを確認させる。 見出しや文章，図・表・グラフ，写真などの配置を工夫させる。 A4用紙1枚にまとめさせる。パソコンやタブレットなどの環境が整備されていれば、それで作成させてもよい。 清書であるが、鉛筆書きでよいことを伝える。 紙面構成を考えさせるのが難しい場合は、ワークシートに書き込ませる形でもよい。 早く作業が終わった生徒が複数いれば、ガイドを読み合わせ、感想を伝え合わせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 紙面作成のポイントを意識して職業ガイドを書く。 <p>評価 見出しの付け方や文字の大きさ、図表などを活用し、見やすい職業ガイドを作成している。（作品）</p> <ul style="list-style-type: none"> 作業が終わっている人を探してガイドを読み合い、感想を伝え合う。
終 2分	④ 本時のまとめと次時の予告をする。 <ul style="list-style-type: none"> 「本時の振り返りをガイドの裏面に書きましょう。」 「次の時間は熟語の構成を学習します。」 	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価と感想を記入する。 次時の見通しを持つ。

指導のポイント

個人作業が中心になるので、しっかりと机間指導を行い、できるだけ多くの生徒が時間内に完成させられるようにしたい。

可能であれば全員分のガイドを掲示したり、印刷・配布したりするなどして授業時間外でも読み合えるようにし、互いの努力を認め合う機会としたい。

板書例

① 題材名「多様な方法で情報を集めよう 職業ガイドを作る」を黒板に書く。

② 本時の目標を確認させる。
・「読み手に見やすい職業ガイドを作ろう」
・ワークシートを配付し、確認させる。

③ 職業ガイドを書かせる。
・P-36, 37の職業ガイド例と紙面構成について、紙面作成のポイントを確認させる。
・見出しや文章，図・表・グラフ，写真などの配置を工夫させる。
・早く作業が終わった生徒が複数いれば、ガイドを読み合わせ、感想を伝え合わせる。

多様な方法で情報を集めよう 職業ガイドを作る

読み手に見やすい職業ガイドを作ろう

職業ガイドを完成させる

1 見出しを考える

2 文字の大きさや色を工夫する

3 図表や写真を使う

※早めに終わった人同士でガイドを読み合い、
感想を交流しよう

④ 本時のまとめと次時の予告をする。
・「本時の振り返りをガイドの裏面に書きましょう。」
「次の時間は熟語の構成を学習します。」

11

題材名 「熟語の構成」 (第1時/全1時間)
目標 熟語の構成を意識して、漢字を文や文章の中で使うことができる。
領域名 言葉

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 5分	① 題材名「熟語の構成」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px auto; width: fit-content;"> いろいろな熟語の構成を知ろう </div> ・ワークシートを配付する。 ・声を合わせて読ませる。	・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。
展開 38分	③ 全文を音読させる。 ・指名して、新出漢字の読みを確認させながら音読させる。 ・ワークシートに、二字・三字・四字以上の熟語の構成を整理させる。 ④ ワークシートに書き込んだ内容を発表させ、板書する。 (二字熟語の構成) a 意味が似ている漢字の組み合わせ b 意味が対になる漢字の組み合わせ c 主語の述語の関係 d 下の漢字が上の漢字の目的や対象を示す e 上の漢字が下の漢字を修飾する (三字熟語の構成) f 漢字一字の言葉の組み合わせ g 漢字一字の言葉と二字熟語の組み合わせ (四字以上の熟語の構成) h 漢字一字の言葉の組み合わせ i 二字熟語の組み合わせ j 漢字一字の言葉と二字熟語の組み合わせ ⑤ 練習問題に取り組みさせる。 ・時間に余裕があれば、指名して答えさせていくとよい。 ⑥ 「漢字に親しもう1」の問題に取り組みさせる。 ・教科書に直接書き込ませる。	・全文を音読し、漢字の読みを確認する。 ・ワークシートに熟語の構成を書き込む。 【練習問題の解答】 1 ①清浄 ②兼業 ③日没 ④極秘 濃霧 ⑤雌雄 姉妹 2 ①未経験 ②不本意 ③無秩序 ④非常識 ⑤比較的 ⑥有料化 ⑦妥当性 3 意味調べは省略し、読みだけ確認する。とうほんせいそう ②きどあいらく ③けいきょもうどう ④しっふうじんらい ⑤げいいんばしょく ⑥おんこうとくじつ 評価 熟語の構成を理解することができた。(ワークシート)
終 2分	⑦ 本時のまとめと次時の予告をする。 「本時の振り返りを書きましょう。」 「次の時間は「情報の整理の仕方」を学習します。」	・自己評価と感想を記入する。 ・次時の見通しを持つ。

板書例

① 題材名「熟語の構成」を黒板に書かせる。

② 本時の目標を確認させる。
・「いろいろな熟語の構成を知ろう。」
・ワークシートを配付し、確認させる。

③ 全文を音読させる。
・指名して、新出漢字の読みを確認させながら音読させる。
・ワークシートに、二字・三字・四字以上の熟語の構成を整理させる。
④ ワークシートに書き込んだ内容を発表させ、板書する。

熟語の構成

いろいろな熟語の構成を知ろう

○熟語の構成

(二字熟語)

- a 意味が似ている 思考：思う＝考える
- b 意味が対になる 売買：売る 買う
- c 主語と述語 国営：国が営む
- d 下が上の目的や対象 開会：会を開く
- e 上が下を修飾 熱心：熱い心

(三字熟語)

- f 漢字一字の言葉三つ 上中下：上＋中＋下
 - g 漢字一字の言葉と二字熟語 初対面：初＋対面
- (四字以上の熟語)

- h 漢字一字の言葉四つ 花鳥風月：花＋鳥＋風＋月
- i 二字熟語が二つ 国際交流：国際＋交流
- j 漢字一字の言葉と二字熟語が複数
運転免許証：運転＋免許＋証

○漢字に親しもう1の問題に取り組む

○学習を振り返る。

⑤ 練習問題に取り組ませる。
・時間があれば、指名して答えさせるとよい。
⑥ 「漢字に親しもう1」の問題に取り組ませる。

⑦ 本時のまとめと次時の予告をする。
・「本時の振り返りを書きましょう。」
「次の時間は「クマゼミ増加の原因を探る」を学習します。」

12

題材名 「クマゼミ増加の原因を探る」①（第1時／全2時間）

目標 文章全体と部分の関係に注意して読むことができる。

領域名 言葉 C 読むこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 5分	① 題材名「クマゼミ増加の原因を探る 沼田英治」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">文章の全体と部分の関係を考えよう</div> ・ワークシートを配付する。 ・声を合わせて読ませる。	・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。
展開 38分	③ 漢字の読みを確認させる。（23字） ・教材文の下段に掲載されている熟語の読みを確認させていく。 ・教師のあとに続いて漢字の読みを復唱させる。	・教師のあとに続いて復唱する。
	④ 【研究のきっかけ】を読ませ、問題提起と大きな仮説を捉えさせる。 ・小見出しごとに図や表と照らし合わせて内容を確認させながら、教師が範読したあと、発問する。 「ここでは、どのような問題提起がされているのでしょうか。」 P-43【大阪市内では、なぜクマゼミの占める割合が、これほど高くなったのだろうか。】 「この問題提起に基づいてどのような仮説が立てられていますか。」 P-43【ヒートアイランドによる環境変化が有利に働いたのではないだろうか。】 ⑤ 【前提】を読ませ、筆者が注目した点とその理由を捉えさせる。 「クマゼミの一生の中で、環境の影響を受けやすいのはどの段階ですか。また、その理由をどのように説明していますか。」	・教科書を目で追いながら、教師の範読を聞き、問題提起と仮説をワークシートに書く。 ・影響を受けやすい段階と理由をワークシートに書く。
終 2分	⑥ 残りを読ませ、この文章における【前提】部分の役割を考えさせる。 ・ 「筆者は何のために【仮説1～3】の前に【前提】の部分を書いたのでしょうか。」 ・前提がなかった場合、仮説にどのような影響があるかを考えさせるとよい。	・筆者が仮説の前に前提部分を書いた理由を考え、ワークシートに書く。 評価 この文章における前提部分の役割を考えることができた。（ワークシート）
	⑤ 本時のまとめと次時の予告をする。 「本時の振り返りを書きましょう。」 「次の時間は、文章と図表の関係に注意して読み深めます。」	・自己評価と感想を記入する。 ・次時の見通しを持つ。

板書例

① 題材名「クマゼミ増加の原因を探る 沼田英治」を黒板に書く。

② 本時の目標を確認させる。
 ・「文章の全体と部分の関係を考えよう」
 ・ワークシートを配付し、確認させる。

④ 【研究のきっかけ】を読ませ、問題提起と大きな仮説を捉えさせる。
 ・小見出しごとに図や表と照らし合わせて内容を確認させながら、教師が範読したあと、発問する。
 「ここでは、どのような問題提起がされているでしょうか。」
 P-43【大阪市内では、なぜクマゼミの占める割合が、これほど高くなったのだろうか。】
 「この問題提起に基づいてどのような仮説が立てられていますか。」
 P-43【ヒートアイランドによる環境変化が有利に働いたのではないだろうか。】

クマゼミ増加の原因を探る
沼田英治

文章の全体と部分の関係を考えよう

【研究のきっかけ】

- 問題提起
「大阪市内では、なぜクマゼミの占める割合がこれほど高くなったのだろうか。」
- 大きな仮説
「ヒートアイランド現象による環境変化が有利に働いたのではないだろうか。」

【前提】

- 筆者が特に注目した点
- ① 卵の段階：卵は野外で冬を越すため寒さに耐える必要がある
- ② 孵化して土に潜る段階：一時間以内に地中に潜らないと死んでしまう

その時の環境に生存が左右されるから

なぜ筆者は仮説1〜3の前に【前提】の部分を書いたのか。

- 仮説1〜3の内容の妥当性を示すため
- 仮説を述べる順序を定めるため

○学習を振り返る。

○学習を振り返る。

⑥ 残りを読み、この文章における【前提】部分の役割を考えさせる。
 「筆者は何のために【仮説1〜3】の前に【前提】の部分を書いたのでしょうか。」
 ・前提がなかった場合、仮説にどのような影響があるかを考えさせるとよい。

⑤ 【前提】を読み、環境の影響を受けやすい段階とその理由を捉えさせる。
 「クマゼミの一生の中で、環境の影響を受けやすいのはどの段階ですか。また、その理由をどのように説明していますか。」

⑦ 本時のまとめと次時の予告をする。
 ・「本時の振り返りを書きましょう。」
 「次の時間は、文章と図表の関係に注意して読み深めます。」

13

題材名 「クマゼミ増加の原因を探る」②（第2時／全2時間）

目標 文章と図表の関係に注意して読むことができる。

領域名 言葉 C 読むこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導 入 5 分	① 題材名「クマゼミ増加の原因を探る 沼田英治」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">文章と図表の関係を考えよう</div> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートを配付する。 声を合わせて読ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の目標を知る。 声を合わせて目標を読む。
展 開 38 分	③ 【仮説1～3】を音読させる。 <ul style="list-style-type: none"> 指名して段落読みをさせる。 ④ 三つの仮説に対する検証の内容とその結果を、それぞれ文章中の言葉を用いて簡潔にまとめさせる。（学習②-1） <ul style="list-style-type: none"> 三つの仮説から一つを選ばせ、仮説、検証内容、検証結果をワークシートにまとめさせる。 扱わない仮説が出てしまわないよう、教師が分担を決めてしまってもよい。 まとめたものを仮説1から順に発表させる。 ⑤ グラフを示した筆者の意図を、それに対応する文章との関係を基に考えさせる。（学習②-2） <ul style="list-style-type: none"> 担当した仮説において、グラフがどの部分とどのような関係で結びついているかをワークシートに書かせる。 可能であれば、グラフを拡大コピーして掲示できると文章との関係を説明しやすくなる。 →P50窓「文章と図表を結び付けて読む」 ⑥ グラフと文章の結びつきについて考えたことを発表させる。	<ul style="list-style-type: none"> 新出漢字の読みに注意して音読する。 仮説を一つ選び、仮説と検証内容、検証結果をワークシートにまとめる。 仮説におけるグラフの効果について考えたことをワークシートに書く。 <p>評価 グラフと文章の関係を捉え、グラフの効果を考えることができた。（ワークシート）</p> <ul style="list-style-type: none"> 考えたことを発表し合い、グラフの効果について考えを深める。
終 2 分	⑦ 本時のまとめと次時の予告をする。 「本時の振り返りを書きましょう。」 「次の時間は、具体と抽象について学習します。」	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価と感想を記入する。 次時の見通しを持つ。

指導のポイント

・本時は時間の都合上、仮説におけるグラフのみを取り扱うが、時間があれば【研究のきっかけ】や【前提】【まとめ】に用いられている図表についても考えさせるとよい。

板書例

① 題材名「クマゼミ増加の原因を探る 沼田英治」を黒板に書く。

- ② 本時の目標を確認させる。
- ・「文章と図表の関係を考えよう」
 - ・ワークシートを配付し、確認させる。

- ④ 三つの仮説に対する検証の内容とその結果を、それぞれ文章中の言葉を用いて簡潔にまとめさせる。(学習②-1)
- ・三つの仮説から一つを選ばせ、仮説、検証内容、検証結果をワークシートにまとめさせる。
 - ・扱わない仮説が出てしまわないよう、教師が分担を決めてしまってもよい。
 - ・まとめたものを仮説1から順に発表させる。

クマゼミ増加の原因を探る
沼田英治

文章と図表の関係を考えよう

○仮説の検証内容と検証結果

仮説1「寒さが和らぎ、孵化できる卵が増えた」×
卵がどれくらい低温に耐えられるか実験
↓寒くても孵化率や生存率に影響なし

仮説2「孵化が早まり、孵化できる卵が増えた」○
四種のセミの卵を野外で観察
↓クマゼミだけが孵化の時期の後半に梅雨明け
昔は雨に遭えず死んでいく卵が多かったはず

仮説3「クマゼミの幼虫は硬い地面にも潜れる」○
四種の幼虫の土に潜る能力を比較
↓クマゼミは硬い土に潜る能力が圧倒的に高かった

○グラフと文章の関係を考えよう

仮説1〜3におけるグラフは、仮説を検証するための根拠になっている。

○学習を振り返る。

- ⑤ グラフを示した筆者の意図を、それに対応する文章との関係を基に考えさせる。(学習②-2)
- ・担当した仮説において、グラフがどの部分とどのような関係で結びついているかをワークシートに書かせる。
 - ・可能であれば、グラフを拡大コピーして掲示できると文章との関係を説明しやすくなる。
- ⑥ グラフと文章の結びつきについて考えたことを発表させる。

- ⑦ 本時のまとめと次時の予告をする。
- ・「本時の振り返りを書きましょう。」
 - ・「次の時間は、具体と抽象について学習します。」

14

題材名 「思考のレッスン1 具体と抽象」（第1時／全1時間）

目標 情報と情報の関係について理解することができる。

領域名 情報

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 5分	① 題材名「思考のレッスン1 具体と抽象」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 具体と抽象について理解しよう </div> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートを配付する。 声を合わせて読ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の目標を知る。 声を合わせて目標を読む。
展開 38分	③ 教材文を読ませ、具体と抽象の概念を理解させる。 <ul style="list-style-type: none"> 新出漢字の確認をさせながら読ませる。 ④ 問題1, 2に取り組ませる。 <ul style="list-style-type: none"> 問題1は「このように」、問題2は「例えば」と指定があるが、P-53「具体化のための言葉」「抽象化のための言葉」も同様の意味で使えることを確認しておく。 ◎ ⑤ 答え合わせをする。 ○問題2については辞書の意味を確認しておくといよい。	<ul style="list-style-type: none"> 新出漢字の読みに注意して音読する。 問題1, 2の答えをワークシートに書く。 評価 複数の情報をまとめて抽象化したり、言葉の意味を具体例を挙げて説明したりしている。（ワークシート） <ul style="list-style-type: none"> 他の生徒の答えを聞き、まとめ方や具体例についての考えを広げる。
終 2分	⑥ 本時のまとめと次時の予告をする。 「本時の振り返りを書きましょう。」 「次の時間は、プレゼンテーションについて学習します。今回の学習を生かして取り組みましょう。」	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価と感想を記入する。 次時の見通しを持つ。

指導のポイント

・具体化と抽象化は、伝え合う場面だけでなく、文章読解においても非常に重要なスキルである。まずは用語としてしっかりと覚えさせる。

板書例

① 題材名「思考のレッスン1 具体と抽象」を黒板に書く。

② 本時の目標を確認させる。
・「具体と抽象について理解しよう」
・ワークシートを配付し、確認させる。

③ 教材文を読ませ、具体と抽象の概念を理解させる。
④ 問題1, 2に取り組ませる。

○学習を振り返る。

※生徒の解答を整理して板書する

○問題1, 2に取り組む。

抽象：複数の物事から共通点を取り出してまとめたもの

具体：言葉を聞いて姿や形が明確に思い浮かぶもの

○具体と抽象とは

文具体と抽象について理解しよう

思考のレッスン1 具体と抽象

⑤ 答え合わせをする。

⑥ 本時のまとめと次時の予告をする。
・「本時の振り返りを書きましょう。」
「次の時間は、プレゼンテーションについて学習します。今回の学習を生かして取り組みましょう。」

15

題材名 「魅力的な提案をしよう」①（第1時／全4時間）
目標 社会生活から話題を探し、相手と目的に合わせて提案内容を考えることができる。
領域名 言葉 A 話すこと・聞くこと
学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 5分	① 題材名「魅力的な提案をしよう」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> プレゼンテーションのテーマを決めよう </div> ・ワークシートを配付する。 ・声を合わせて読ませる。	・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。
展開 38分	③ 教材文を読ませ、ねらいを理解させ学習の見通しをもたせる。 ・どのような手順でプレゼンテーションを行うか理解させる。 ④ 「相手」と「話題」と「目的」を決めさせる。 ・3～4人のグループで取り組ませる。 ・クラスで統一し、コンテストで競う形にすると、学習意欲を引き出せる。 ○補習校の実態を考えると、教科書にある「新しく着任した先生」に「町の散策コース」を提案する、がやりやすいと思われる。 ⑤ 相手の興味などを踏まえて、提案する内容を考えさせる。 ・相手が何を知りたいのかを考えさせるとよい。 ⑥ グループのテーマを決めさせる。 ・テーマは簡潔に、キャッチコピーのような形にするとよい。 ・テーマが決定したら、提案する内容に沿って情報収集の役割分担をさせておく。	・新出漢字の読みに注意して音読する。 ・グループを作り、プレゼンテーションの「相手」「話題」「目的」を決める。 ・相手の興味、関心、知識量を踏まえて提案する内容を考える。 ・グループのテーマを決める。 評価 相手、話題、目的にふさわしいテーマを考えている。（ワークシート）
終 2分	⑦ 本時のまとめと次時の予告をする。 「本時の振り返りを書きましょう。」 「次の時間は、プレゼンテーションの構成を考えます。しっかりと情報収集をしてきましょう。」	・自己評価と感想を記入する。 ・次時の見通しを持つ。

指導のポイント

・相手、話題、目的に現実味があるかどうかで、生徒の学習意欲は大きく変わってくる。各校の実態に合わせて、いくつか候補を考えておくとよい。

板書例

① 題材名「魅力的な提案をしよう」を黒板に書く。

② 本時の目標を確認させる。
・「プレゼンテーションのテーマを決めよう」
・ワークシートを配付し、確認させる。

④ 「相手」と「話題」と「目的」を決めさせる。
○補習校の実態を考えると、教科書にある「新しく着任した先生」に「町の散策コース」を提案する、がやりやすいと思われる。

⑤ 相手の興味などを踏まえさせて、提案内容を考えさせる。

魅力的な提案をしよう

プレゼンテーションのテーマを決めよう

○プレゼンテーションとは
相手の理解や同意を得るために、自分の考えを
提案・説明すること

○相手・話題・目的を決める
誰に？
何を？
何のために？

○相手の興味などを考えて、提案内容を決める。
興味・関心のあること
困っていること
詳しくは知らないこと

○グループのテーマを決める。
簡潔に、キャッチコピーのように。

○学習を振り返る。

⑥ グループのテーマを決めさせる。
・テーマが決定したら、提案する内容に沿って情報収集の役割分担をさせておく。

⑥ 本時のまとめと次時の予告をする。
・「本時の振り返りを書きましょう。」
「次の時間は、プレゼンテーションの構成を考えます。しっかりと情報収集をしてきましょう。」

16

題材名 「魅力的な提案をしよう」②（第2時／全4時間）

目標 自分の立場や考えが明確になるように、根拠の適切さや論理の展開などに注意して、話の構成を工夫することができる。

領域名 言葉 A 話すこと・聞くこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 5分	① 題材名「魅力的な提案をしよう」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">効果的な話の構成を考えよう</div> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートを配付する。 声を合わせて読ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の目標を知る。 声を合わせて目標を読む。
展開 38分	③ 進行案を作らせ、話の構成や提示資料を工夫させる。 <ul style="list-style-type: none"> P-56,57の進行案の例や提示資料作成のポイントを確認させてから作業を始めさせる。 グループで集めてきた資料を確認させ、目的と相手に合わせて取捨選択させる。 提示資料の情報は必要最低限に絞らせる。（多いと見にくい。） 写真などを引用する場合は、出典を明記させる。 ○資料はパソコンのプレゼンテーションソフトで作れると見栄えもよいが、A3用紙で手書きのフリップを作る形でもよい。	<ul style="list-style-type: none"> グループで資料を取捨選択し、進行案を作成する。 評価 アピールしたい点が伝わるように話の構成を工夫している。（ワークシート）
終 2分	④ 本時のまとめと次時の予告をする。 「本時の振り返りを書きましょう。」 「次の時間は、役割分担や時間配分を決め、プレゼンテーションの練習をします。」	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価と感想を記入する。 次時の見通しを持つ。

指導のポイント

・資料作成時、話す内容をそのまま書いたり、イラストや色に時間をかけすぎたりする生徒が多いが、資料は目で見てわかりやすいことが最も重要である。

簡条書きにすることを徹底し、文字数、使う色、イラストや写真の枚数、に制限を付けてもよい。

板書例

① 題材名「魅力的な提案をしよう」を黒板に書く。

② 本時の目標を確認させる。
・「効果的な話の構成を考えよう」
・ワークシートを配付し、確認させる。

③ 進行案を作り、話の構成や提示資料を工夫させる。
・P-56,57 の進行案の例や提示資料作成のポイントを確認させてから作業を始めさせる。

魅力的な提案をしよう

効果的な話の構成を考えよう

提示資料作成のポイント

※教科書57ページの内容をまとめて板書する。

○学習を振り返る。

④ 本時のまとめと次時の予告をする。
・「本時の振り返りを書きましょう。」
「次の時間は、役割分担や時間配分を決め、プレゼンテーションの練習をします。」

17

題材名 「魅力的な提案をしよう」③（第3時／全4時間）

目標 資料や機器を用いるなどして、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫することができる。

領域名 言葉 A 話すこと・聞くこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 5分	① 題材名「魅力的な提案をしよう」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">資料を活用して発表する練習をしよう</div> ・声を合わせて読ませる。	・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。
展開 38分	③ 役割分担や時間配分を決めさせ、話す練習をさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・グループ全員が必ず一度は話すように発表分担させる。 ・発表だけでなく、資料を提示する仕事も分担させる。 ・資料を提示するタイミングも検討させる。 ・タイマーがあれば常に流しておき、時間を確認しながら練習できるようにさせるとよい。 ④ 発表リハーサルを行わせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・教師が見て最終チェックを行う。立ち位置や、資料の示し方も確認し、指導する。 <p>※本時は前回のワークシートを継続して使用する。</p>	・役割分担をし、グループで協力して発表練習を行う。 ・評価 プレゼンテーションソフトやフリップ等を用いて、提案内容が視覚的にもわかりやすくなるよう工夫している。（ワークシート）
終 2分	⑤ 本時のまとめと次時の予告をする。 「本時の振り返りを書きましょう。」 「次の時間は、プレゼンテーション本番です。家でもしっかり練習をしてきましょう。」	・自己評価と感想を記入する。 ・次時の見通しを持つ。

指導のポイント

・原稿を読み上げるだけになってしまうと、聞き手に訴えかけるプレゼンテーションにはならない。相手の反応を見ながら話すよう、練習段階で指導しておく。

板書例

① 題材名「魅力的な提案をしよう」を黒板に書く。

② 本時の目標を確認させる。
・「資料を活用して発表する練習をしよう」

③ 役割分担や時間配分を決めさせ、話す練習をさせる。

魅力的な提案をしよう

資料を活用して発表する練習をしよう

○役割分担し、発表練習をする。

- ・グループ全員が必ず一度は話すようにしよう。
- ・資料を提示する仕事も分担しよう。
- ・資料を提示するタイミングも決めよう。

○発表の際のポイント

- ・相手の反応を見ながら
- ・資料を指し示して注目する点がわかるように

○準備ができたグループからリハーサルをする。

○学習を振り返る。

④ 本時のまとめと次時の予告をする。
・「本時の振り返りを書きましょう。」
「次の時間は、役割分担や時間配分を決め、プレゼンテーションの練習をします。」

題材名 「魅力的な提案をしよう」④（第4時／全4時間）

目標 資料や機器を用いるなどして、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫することができる。

領域名 言葉 A 話すこと・聞くこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 2分	① 題材名「魅力的な提案をしよう」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin: 5px 0;">資料を活用してプレゼンテーションをしよう</div> ・ワークシートを配布し、確認させる。 ・声を合わせて読ませる。	・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。
展開 41分	③ グループごとにプレゼンテーションをさせる。 ・聞き手には、話の構成や話し方に注意させ、質問を考えながら聞くようにさせる。 →P26「問いを立てながら聞く」 ・出入り1分、発表3分で進めさせる。 ・質疑応答は各校の実態に合わせて設定する。（グループ数が多い場合はカット） ④ 相手や目的にいちばん適した提案をクラスで選ばせ、その理由も含めて話し合わせる。 ⑤ プレゼンテーションを振り返らせ、よかった点や改善点を考えさせる。 ・話し方や話の構成、資料や機器の使い方など、振り返りの観点を明確にするとよい。	・グループでプレゼンテーションを行う。 ・評価 プレゼンテーションソフトやフリップ等を用いて、提案内容が視覚的にもわかりやすくなるよう工夫している。（ワークシート） ・ワークシートに記入した評価を発表し、最優秀グループを決める。 ・自分たちのプレゼンテーションのよかった点や改善点をワークシートに記入する。
終 2分	⑥ 学習のまとめと次時の予告をする。 「学習の振り返りを書きましょう。」 「次の時間は、漢字に親しもう2の学習をします。」	・自己評価と感想を記入する。 ・次時の見通しを持つ。

指導のポイント

・自分たちの発表準備に気を取られすぎてはいけない。他の班が発表するときは集中して聞けるよう、「机の上は本時のワークシートと筆記用具のみ」と指示を出しておくといよい。

板書例

① 題材名「魅力的な提案をしよう」を黒板に書く。

② 本時の目標を確認させる。
・「資料を活用してプレゼンテーションをしよう」

③ グループごとにプレゼンテーションをさせる。
・聞き手には、話の構成や話し方に注意させ、質問を考えながら聞くようにさせる。

④ 相手や目的にいちばん適した提案をクラスで選ばせ、その理由も含めて話し合わせる。

⑤ プレゼンテーションを振り返らせ、よかった点や改善点を考えさせる。

○学習を振り返る。

- ・話し方は聞きやすく、引き付けられたか。
- ・発表の構成はわかりやすかったか。
- ・資料は見やすかったか。
- ・資料を活用して発表できていたか。

○相互評価の観点

資料を活用してプレゼンテーションをしよう

魅力的な提案をしよう

⑥ 学習のまとめと次時の予告をする。
・「学習の振り返りを書きましょう。」
「次の時間は、漢字に親しもう2の学習をします。」

題材名 「漢字に親しもう2」(第1時/全1時間)
 目標 漢字を文や文章の中で読んだり書いたりすることができる。
 領域名 言葉

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 5分	① 題材名「漢字に親しもう2」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 新出漢字や音訓をマスターしよう </div> ・ワークシートを配付する。 ・声を合わせて読ませる。	・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。
展開 38分	③ 新出漢字を確認させる。 ・P-301,302を見ながら、教師の後に続いて漢字の読みを復唱させる。 ④ P-58の練習問題に取り組みさせる。 ・教科書に直接書き込ませる。 ・時間に余裕があれば、指名して答えさせていくとよい。 ・国語辞典があれば、意味を調べさせてもよい。以下解答 1 ①いかん②じあい③よゆう④そぼく⑤かんだい⑥はんざつ⑦きぐ 2 ①茂る②控える③妨げる④飽きる 3 ①ごらく—ごどく ②しそん—そんしょく ③かんゆう—かんしょう ④げんいん—こんいん 4 ①(ア) とうじょう (イ) しいる ②(ア) めがみ (イ) てんによ ⑤ P-251「小学校六年生で学習した漢字」に取り組みさせる。 ・ワークシートに書き込ませる。以下解答(5以降は省略) 1 ①片・枚 ②延・承 ③誕・翌 ④潮・干 ⑤磁・針 ⑥蔵・冊 ⑦宣・胸 ⑧宇宙・探 ⑨班・担 ⑩絹・蚕 ⑪郵・届 ⑫貴・暮 ⑬奏・揮 ⑭灰・降 ⑮権・認 ⑯若・誌 ⑰党・否 ⑱糖・忠 ⑲誠・派 ⑳砂・棒 ㉑胃腸 ㉒沿・舌 ㉓券・障 2 ①補②難③宝④段⑤亡⑥納⑦善⑧律⑨射⑩映 3 ①音・恩・温②断・暖・談③困・混・根④俵・評・標 4 ①肺臓②源流③議論④俳優⑤地域⑥激減⑦呼吸⑧誤読	・教師のあとに続いて復唱する。 ・教科書に直接漢字の読みを書き込む。 ・ワークシートに漢字の書きを書き込む。 評価 文や文章の中で漢字を読んだり書いたりできた。(ワークシート)
終 2分	⑥ 本時のまとめと次時の予告をする。 「本時の振り返りを書きましょう。」 「次の時間は「文法への扉1」を学習します。」	・自己評価と感想を記入する。 ・次時の見通しを持つ。

板書例

① 題材名「漢字に親しもう2」を黒板に書く。

② 本時の目標を確認させる。
・「新出漢字や音訓をマスターしよう。」
・ワークシートを配付し、確認させる。

④ P-58の練習問題に取り組みさせる。
・教科書に直接書き込ませる。

漢字に親しもう2

新出漢字や音訓をマスターしよう

○ 58ページの練習問題に取り組む。

※解答は本時の展開を参照

○ 251ページ「小学校六年生で学習した漢字」に取り組む。

※解答は本時の展開を参照

○ 学習を振り返る。

⑤ P-251「小学校六年生で学習した漢字」に取り組みさせる。
・ワークシートに書き込ませる。

⑥ 本時のまとめと次時の予告をする。
・「本時の振り返りを書きましょう。」
「次の時間は「文法の扉1」を学習します。」

20

題材名 「文法への扉1」（第1時／全1時間）
目標 単語の活用について理解することができる。
領域名 言葉

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 5分	① 題材名「文法への扉1 単語をどう分ける？」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">単語の種類を知ろう</div> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートを配付する。 声を合わせて読ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の目標を知る。 声を合わせて目標を読む。
展開 38分	③ P-59上段の問題について考えさせる。 <ul style="list-style-type: none"> 指名して答えさせる。 ○生徒の実態に応じて、文の成分について簡単に振り返るとよい。 <ul style="list-style-type: none"> 答え合わせの後、P-59下段の説明を読ませ、単語の分類の観点を確認させる。 ④ P234-237「自立語」を読ませ、8種類の品詞を理解させる。 <ul style="list-style-type: none"> 品詞の特徴をワークシートに記入させる。 接続詞の種類については、1年次に学習しているので詳しくは扱わなくてよい。 ⑤ P-237下段の問題に取り組ませる。 <ul style="list-style-type: none"> ワークシートに書き込ませる。 ※時間の都合上、P-236の副詞の短文づくりは扱わない。	<ul style="list-style-type: none"> 単語が①～③のどの箱に入るか考える。 ワークシートに各品詞の特徴を書き込む。 品詞分類の問題に取り組む。 評価 自立語にどんな品詞があるかを知り、それぞれが文の中で果たす役割について理解を深めている。（ワークシート）
終 2分	⑥ 本時のまとめと次時の予告をする。 「本時の振り返りを書きましょう。」 「次の時間はメディアについて学習します。」	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価と感想を記入する。 次時の見通しを持つ。

板書例

① 題材名「文法への扉1 単語をどう分ける？」を黒板に書く。

② 本時の目標を確認させる。
・「単語の種類を知ろう。」
・ワークシートを配付し、確認させる。

④ P234-237「自立語」を読ませ、8種類の品詞を理解させる。

文法への扉1 単語をどう分ける？

単語の種類を知ろう。

○活用する自立語。
・動詞：動作・変化・存在を表す。言い切りがウ段。
・形容詞
・形容動詞

○活用しない自立語
・名詞
・副詞
・連体詞
・接続詞
・感動詞

○学習を振り返る。

P-234 以降の各品詞の特徴を簡単にまとめて板書する。

⑤ P-237 下段の問題に取り組ませる。
・ワークシートに書き込ませる。

⑦ 本時のまとめと次時の予告をする。
・「本時の振り返りを書きましょう。」
「次の時間はメディアについて学習します。」

21

題材名 「メディアを比べよう」「メディアの特徴を生かして情報を集めよう」「自分で考える時間」をもと①（第1時／全2時間）

目標 目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得て、内容を解釈することができる。

領域名 情報 B 書くこと C 読むこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 5分	① 題材名「メディアを比べよう」「メディアの特徴を生かして情報を集めよう」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">メディアの特徴を捉えよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートを配付する。 声を合わせて読ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の目標を知る。 声を合わせて目標を読む。
展開 38分	③ P-60,61を読み、メディアを観点で比較させる。 <ul style="list-style-type: none"> ワークシートに記入させる。 ○新聞を読んだことのない生徒もいるかもしれない。できれば新聞の記事のコピーを配布、掲示できるとよい。 ④ 比較した結果を発表させる。 <ul style="list-style-type: none"> なぜそのような評価を付けたのか説明させる。 星がいくつかが大事なのではなく、どのような特徴をもっているかが大事。評価についての議論にならないように留意する。 ⑤ P-62,63を読み、「やってみよう」に取り組ませる。 <ul style="list-style-type: none"> メディアの特徴を振り返りながら考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> メディアの特徴を考え、観点で比較し、その理由をワークシートに書き込む。 考えを発表し合い、メディアの特徴について理解を深める。 メディアの特徴を踏まえ、どんな場合にどんなメディアを活用すればよいか考える。 <p>評価 目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得て、内容を解釈している。（ワークシート）</p>
終 2分	⑥ 本時のまとめと次時の予告をする。 「本時の振り返りを書きましょう。」 「次の時間は『自分で考える時間をもと』を学習します。」	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価と感想を記入する。 次時の見通しを持つ。

板書例

① 題材名「メディアを比べよう」「メディアの特徴を生かして情報を集めよう」を黒板に書く。

② 本時の目標を確認させる。
・「メディアの特性を捉えよう。」
・ワークシートを配付し、確認させる。

③ P-60,61 を読み、メディアを観点で比較させる。

① 比較した結果を発表させる。

- ・なぜそのような評価を付けたのか説明させる。
- ・星がいくつかが大事なのではなく、どのような特徴をもっているのかが大事。評価についての議論にならないように留意させる。

○ 学習を振り返る。

- 目的に応じてメディアを選ぼう。
- ①の場合：雑誌、著書、個人のSNS など
 - ②の場合：新聞、公式サイト など
 - ③の場合：本 など
 - ④の場合：インターネット など

- ・本
- ・新聞
- ・テレビニュース
- ・ネットニュース
- ・SNS
- ・雑誌

○ メディアを比較しよう。

速報性 △
詳細さ ◎
信頼性 ◎

メディアの特徴を捉えよう。

「メディアを比べよう」
「メディアの特徴を生かして情報を集めよう」

⑤ P-62, 63 を読ませ、「やってみよう」に取り組ませる。

⑥ 本時のまとめと次時の予告をする。
・「本時の振り返りを書きましょう。」
「次の時間はメディアについて学習します。」

22

題材名 「メディアを比べよう」「メディアの特徴を生かして情報を集めよう」「自分で考える時間」をもと②（第2時／全2時間）

目標 観点を明確にして文章を比較し、構成や表現の効果について考えることができる。

領域名 情報 B 書くこと C 読むこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 5分	① 題材名「自分で考える時間」をもと②を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">メディアの編集の仕方を比べよう</div> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートを配付する。 声を合わせて読ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の目標を知る。 声を合わせて目標を読む。
展開 38分	③ P.64-65を音読させ、メディアの編集の仕方を理解させる。 ○「編集」とはどのようなことか、文章から推測させるとともに、辞書的な意味も確認させておく。 <ul style="list-style-type: none"> ニュースの例を板書で整理する。 ◎ ④ P.65-66の編集の例①～③を読ませ、編集意図の違いを考えさせる。 <ul style="list-style-type: none"> それぞれどのような意図で編集されたのかを考えさせ、ワークシートに記入させる。 考えたことをペアで交流させたあと、全体で発表させる。 ⑤ メディアから情報を得る際の注意点をまとめさせる。 <ul style="list-style-type: none"> まとめたものを発表させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書を音読する。 ニュースの例をワークシートに整理し、編集の仕方を理解する。 <ul style="list-style-type: none"> ①～③の具体例について、違いが生まれた理由を考えてワークシートに書き込む。 評価 複数のメディアを比較し、それぞれの特徴について考えている。（ワークシート） <ul style="list-style-type: none"> 情報を得る際の注意点について、自分なりに考えたことをワークシートに書き込む。
終 2分	⑥ 本時のまとめと次時の予告をする。 「本時の振り返りを書きましょう。」 「次の時間は短歌を学習します。」	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価と感想を記入する。 次時の見通しを持つ。

板書例

① 題材名「「自分で考える時間」をもとう」を黒板に書く。

② 本時の目標を確認させる。
・「メディアの編集の仕方を比べよう。」
・ワークシートを配付し、確認させる。

③ P.64-65 を音読させ、メディアの編集の仕方を理解させる。
○「編集」とはどのようなことか、文章から推測させるとともに、辞書的な意味も確認

④ P.65-66 の編集の例①～③を読ませ、編集意図の違いを考えさせる。

「自分で考える時間」をもとう

メディアの編集の仕方を比べよう。

○編集とは：一定の方針に従って情報をまとめること。

○テレビのニュースにおける編集の例

- ・時間帯による違い
- ・放送局の違い
- ・地域の違い
- ・担当者の違い

○編集の仕方の違いを考える。

例① A：地域特有の話題
B：日本全国の話題

例② A：前年と比較している
B：前月と比較している

例③ A：十代以上にネットで実施
B：十六才以上に面接で実施

○学習を振り返る。

⑤ メディアから情報を得る際の注意点をまとめさせる。
・まとめたものを発表させる。

⑥ 本時のまとめと次時の予告をする。
・「本時の振り返りを書きましょう。」
「次の時間は短歌について学習します。」

23

題材名 「短歌に親しむ」「短歌を味わう」「短歌を作ろう」①（第1時／全2時間）

目標 文章を読んで理解したことや考えたことを知識や体験と結びつけ、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。

領域名 言葉 B 書くこと C 読むこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 5分	① 題材名「短歌に親しむ」「短歌を味わう」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">短歌を読み味わおう</div> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートを配付する。 声を合わせて読ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の目標を知る。 声を合わせて目標を読む。
展開 38分	③ 漢字の読みを確認する。（14字） <ul style="list-style-type: none"> 教材文の下段に掲載されている熟語の読みを確認させていく。 教師のあとに続いて漢字の読みを復唱させる。 ④ 「短歌に親しむ」「短歌を味わう」を通読し、短歌を朗読させる。 <ul style="list-style-type: none"> 教師がP.68-70を範読する。 「短歌の鑑賞の仕方を考えながら読みましょう。」 短歌の特徴をワークシートに簡潔にまとめさせる。 十一首の短歌を朗読させる。 「歌われている情景を想像しながら短歌を朗読しましょう」 ◎ <ul style="list-style-type: none"> 好きな一首を選ばせ、自分の知識や経験と結びつけて感想を書かせる。 単なる感想にならぬよう、選んだ短歌の題材に関する知識や経験を想起させる。 ペアで交流させたあと、全体で発表させる。 同じ短歌を選んだ生徒の感想を比べてみるとおもしろい。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師のあとに続いて復唱する。 教科書を目で追いながら、教師の範読を聴く。 短歌の特徴をワークシートにまとめる。 情景を想像しながら、短歌を声に出して読む。 短歌を一首選び、自分の知識や経験と結びつけて感想を書く。 評価 好きな一首を選び、自分の知識や経験と結びつけて感想を書いている。（ワークシート）
終 2分	⑥ 本時のまとめと次時の予告をする。 「本時の振り返りを書きましょう。」 「次の時間は短歌を作ってみましょう。」	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価と感想を記入する。 次時の見通しを持つ。

指導のポイント

本時は短歌を読み味わうことに重点を置いているため、技法や句切れ等は扱わない。五七のリズムを大切にしたいので、意識しながら範読してやるとよい。生徒の感想を発表させる際には、共感的に受け止めることを心がける。

板書例

① 題材名「短歌に親しむ」「短歌を味わう」を黒板に書く。

- ② 本時の目標を確認させる。
- ・「短歌を読み味わおう。」
 - ・ワークシートを配付し、確認させる。

④ 「短歌に親しむ」を通読させ、短歌を朗読させる。

- ・教師が P.68-70 を範読する。
- 「短歌の鑑賞の仕方を考えながら読みましょう。」
- ・短歌の特徴をワークシートに簡潔にまとめさせる。
 - ・五首の短歌を朗読させる。

「短歌に親しむ」「短歌を味わう」

短歌を読み味わおう。

○短歌の特徴

歴史

・千三百年以上前から受け継がれてきた。

形式

・五・七・五・七・七の三十一音からなる。

魅力

・親しみやすいリズム。

・意味だけでなく気持ちも伝えられる。

○好きな短歌を一首選び、知識や経験と結びつけて感想を書こう。

・自分が知っていたこととは違った！

・自分も似たようなことしたことあるなあ。

など

○学習を振り返る。

- ⑤ 好きな一首を選ばせ、自分の知識や経験と結びつけて感想を書かせる。
- ・単なる感想にならぬよう、選んだ短歌の題材に関する知識や経験を想起させる。

- ⑥ 本時のまとめと次時の予告をする。
- ・「本時の振り返りを書きましょう。」
 - ・「次の時間は短歌を作ってみましょう。」

24

題材名 「短歌に親しむ」「短歌を味わう」「短歌を作ろう」②（第2時／全2時間）

目標 表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる短歌になるように工夫することができる。

領域名 言葉 B 書くこと C 読むこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 5分	① 題材名「短歌を作ろう」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px auto; width: fit-content;">短歌を作り交流しよう</div> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートを配付する。 声を合わせて読ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の目標を知る。 声を合わせて目標を読む。
展開 38分	③ P.73を読み、短歌作りの手順を確認させる。 <ul style="list-style-type: none"> ①②を板書する。 ④ 短歌を作らせる。 <ul style="list-style-type: none"> 学校での出来事や生活の一場面に加えて、その時の気持ちも思い返すとよいことを伝える。 出来事や場面の、ある瞬間に注目させるようにする。 教科書の短歌の表現も参考にするよう指示する。 ◎ ⑤ 完成した短歌を発表させる。 <ul style="list-style-type: none"> まず、ペアで発表し合わせ、感想を交流させる。その後、全体で発表させる。 可能ならば、短冊に書かせて黒板に掲示しながら発表させるとよい。 その短歌でどんなことを表現したかったのか、工夫した点はどこか、も発表させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 短歌作りの手順を確認する。 学校での出来事や生活の一場面を題材にして、形式の整った短歌を作る。 評価 自分の思いが伝わるように、学習した短歌の形式や表現の工夫を参考にして短歌を作っている。（ワークシート） <ul style="list-style-type: none"> 短歌と、表現したかったこと、工夫した点を発表する。 互いのよいところをコメントし合う。
終 2分	⑥ 本時のまとめと次時の予告をする。 「本時の振り返りを書きましょう。」 「次の時間は「言葉の力」を学習します。」	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価と感想を記入する。 次時の見通しを持つ。

指導のポイント

短歌は題材を決めるまでに時間がかかる。そのため、直近の行事やイベント等があればそれをテーマにするとよいだろう。テーマが決まっても短歌を作ることが難しい場合は、必ず使う語句を指定したり、上の句や下の句をこちらで指定したりするのもよい。

板書例

① 題材名「短歌を作ろう」を黒板に書く。

② 本時の目標を確認させる。
・「短歌を作り交流しよう。」
・ワークシートを配付し、確認させる。

④ P.73 を読ませ、短歌作りの手順を確認させる。
・手順①②を板書する。
⑤ 短歌を作らせる。

「短歌に親しむ」「短歌を味わう」

短歌を作り交流しよう。

○短歌作りの手順

・出来事や場面を決めて、短い文章にしてみる。
心に残っている出来事

美しい景色

など

※ある瞬間を切り取る。

その時の気持ちを必ず入れよう！

・言葉を探したり選んだりして、

文章を五・七・五・七・七の定型にする。

※教科書の短歌も参考に。

○短歌を発表し合おう。

○学習を振り返る。

⑤ 完成した短歌を発表させる。

⑥ 本時のまとめと次時の予告をする。
・「本時の振り返りを書きましょう。」
「次の時間は「言葉の力」を学習します。」

25

題材名 「言葉の力」 (第1時/全2時間)

目標 文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結びつけ、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。

領域名 言語文化 C 読むこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 5分	① 題材名「言葉の力 大岡信」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">文章を読み、考えたことを伝え合おう。</div> ・ワークシートを配付する。 ・声を合わせて読ませる。	・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。
展開 38分	③ 漢字の読みを確認させる。(7字) ・教材文の下段に掲載されている熟語の読みを確認させていく。 ・教師のあとに続いて漢字の読みを復唱させる。 ④ 本文を通読させ、まとめりに内容を要約させる。 ・P.74-76を教師が範読する。 「まとめりにどんなことが書かれているかを意識して読みましよう。」 ○語句の意味については随時説明する。 ⑤ 「言葉の世界での出来事と同じこと」について、何と何がどのように同じなのかを考えさせる。 ・桜の花びらと言葉の一語一語がどのような点で同じなのか、ワークシートを見ながら自分の言葉で説明させる。 ⑥ 美しい言葉、正しい言葉に対する筆者の考え方について、自分はどのように考えるか話し合わせる。 ・自分の知識や経験と結びつけて考えさせる。(短歌の学習で行ったことを想起させる。) ・ペアで交流させた後、全体で発表させる。	・教師のあとに続いて復唱する。 ・教科書を目で追いながら、教師の範読を聴く。 ・ワークシートの穴埋めをし、まとめりに内容を要約する。 ・桜の花びらと言葉一語一語がどのような点で同じなのか、ワークシートを参考にして自分なりに考え、説明する。 ・筆者の考え方についての自分の考えを、知識や経験と結びつけてワークシートに書く。 ・書いたことを交流し、自分の考えを広げたり深めたりする。 評価 言葉に対する筆者の考え方について自分の考えをもち、話し合っている。(ワークシート・観察)
終 2分	⑦ 本時のまとめと次時の予告をする。 「本時の振り返りを書きましょう。」 「次の時間は「類義語・対義語・多義語」を学習します。」	・自己評価と感想を記入する。 ・次時の見通しを持つ。

板書例

① 題材名「言葉の力 大岡信」を黒板に書く。

- ② 本時の目標を確認させる。
- ・「文章を読み、考えたことを伝え合おう。」
 - ・ワークシートを配付し、確認させる。

- ④ 本文を通読させ、まとめごと内容に要約させる。
- ・手順①②を板書する。
- ⑤ 「言葉の世界での出来事と同じこと」について、何と何がどのように同じなのかを考えさせる。

「言葉の力」 大岡信

文章を読み、考えたことを伝え合おう。

○まとめごとに要約する。

①言葉に対する筆者の考え

それだけで(美しい、正しい)と決まっている言葉はない。

それは、(人間全体が言葉の一つ一つに(反映)してしまうからだ。

②染色家志村さんの仕事場での話

美しい桜色は、(桜の花びら)からとった色だと思ったが、実際

は桜の皮から取り出したものだった。

木全体の(活動の精髓)が、春という時節に桜の花びらという

(一つの現象)になるにすぎないのだ。

③筆者が②の話から考えたこと

桜の花びらは(木)全体の活動の精髓が現れたもの。

言葉の一語一語は(人間)全体の世界が現れたもの。

そのように考えれば、ささやかな言葉の、ささやかさそのものの

大きな意味が実感でき、その時初めて美しい言葉、正しい言葉が

身近なものになるだろう。

○言葉に対する筆者の考え方について話し合おう。

○学習を振り返る。

- ⑥ 美しい言葉、正しい言葉に対する筆者の考え方について、自分はどう考えるか話し合わせる。

- ⑦ 本時のまとめと次時の予告をする。
- ・「本時の振り返りを書きましょう。」
 - ・「次の時間は「類義語・対義語・多義語」を学習します。」

26

題材名 「類義語・対義語・多義語」 (第1時/全1時間)

目標 抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。

領域名 言葉

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 5分	① 題材名「類義語・対義語・多義語」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin: 10px 0;">類義語・対義語・多義語について理解しよう。</div> ・ワークシートを配付する。 ・声を合わせて読ませる。	・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。
展開 38分	③ P.78の上段を読ませ、それぞれがどの部分を指すか考えさせる。 ・「机の上には何があるでしょう？」 ・同じようにして他の部分についても答えさせる。 ・教科書のイラストを拡大して掲示できるとよい。 ④ 全文を音読させ、類義語・対義語・多義語の特徴を理解させる。 ・指名して、新出漢字の読みを確認しながら音読させる。 ・ワークシートに、類義語・対義語・多義語の特徴をまとめさせる。 ・例を基にして、それぞれの語がどのような関係にあるのかを考えさせる。 ・国語辞典や類義語辞典があればよく使う語で調べさせたい。	・それぞれの言葉にあてはまるものを考える。 ・全文を音読し、漢字の読みを確認する。 ・ワークシートに熟語の構成を書き込む。 評価 類義語・対義語・多義語の概念について、具体的な例を当てはめて理解している。(ワークシート)
終 2分	⑤ 「生活に生かす」を読ませ、言葉の幅を広げるのに、類義語・対義語に注目するとよいことを理解させる。 ・「語る」「話す」「告げる」を使って例文を作らせ、どんな状況や様子を表すことができるか考えさせる。 ⑥ 本時のまとめと次時の予告をする。 「本時の振り返りを書きましょう。」 「次の時間は「言葉を比べよう」を学習します。」	・自己評価と感想を記入する。 ・次時の見通しを持つ。

板書例

① 題材名「類義語・対義語・多義語」を黒板に書く。

② 本時の目標を確認させる。
・「類義語・対義語・多義語について理解しよう。」
・ワークシートを配付し、確認させる。

④ 全文を音読させ、類義語・対義語・多義語の特徴を理解させる。

類義語・対義語・多義語

類義語・対義語・多義語について理解しよう。

○類義語

・似た意味をもつ語のグループ。

○対義語

・意味が反対の関係や対の関係にある二語。

・どのような観点で対比するかで変わることがある。

○多義語

・一つの語で多くの意味や用法をもつ語。

・それぞれの意味に応じた類義語や対義語をもつものもある。

○類義語を使った例文を作り、違いを考えよう。

○学習を振り返る。

⑤ P. 296 の言葉から一つを選ばせ、類義語の語感や意味の違いを考えさせる。

⑥ 本時のまとめと次時の予告をする。
・「本時の振り返りを書きましょう。」
「次の時間は「言葉を比べよう」を学習します。」

27

題材名 「言葉を比べよう」(第1時/全1時間)

目標 抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。

領域名 言葉

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 5分	① 題材名「言葉を比べよう」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin: 10px 0;">言葉を比べて違いを考えよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートを配付する。 声を合わせて読ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の目標を知る。 声を合わせて目標を読む。
展開 38分	③ 言葉を分類させて、類義語を集めさせる。 <ul style="list-style-type: none"> 教科書にある言葉を、「具体的な物や事柄を表す言葉」と「抽象的な概念を表す言葉」に分類させる。 「抽象的な概念を表す言葉」から一つ選ばせ、類義語を集めさせる。 国語辞典、類語辞典やP.296「語彙を豊かに」を参考にさせる。辞典がない場合は、パソコン等で調べてもよい。 ○新出漢字の読みは随時確認させる。 ④ 類義語を比較し、わかったことを話し合わせる。 <ul style="list-style-type: none"> 集めた類義語を使って文を作らせ、そこからわかった違いをまとめさせる。 ⑤ P81「対義語を考える」に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートの言葉を抽象的と具体的に分類する。 <ul style="list-style-type: none"> 抽象的な概念を表す言葉で例文を作り、違いを考える。 <p>評価 抽象的な概念を表す言葉について理解し、類義語の微妙な違いを考えることを通して語感を磨いている。(ワークシート)</p> <ul style="list-style-type: none"> 対義語を考えてワークシートに書き込む。
終 2分	⑥ 本時のまとめと次時の予告をする。 「本時の振り返りを書きましょう。」 「次の時間は「読書紹介」をします。紹介したい本を1冊選んできましょう。」	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価と感想を記入する。 次時の見通しを持つ。

板書例

① 題材名「言葉を比べよう」を黒板に書く。

② 本時の目標を確認させる。
・「言葉を比べて違いを考えよう。」
・ワークシートを配付し、確認させる。

③ 言葉を分類させて、類義語を集めさせる。

④ 類義語を比較させ、わかったことを話し合わせる。

言葉を比べよう

言葉を比べて違いを考えよう。

○言葉を分類しよう。
具体的な物や事柄：ボール、鍋、菊、太陽、鉛筆、氷
抽象的な概念：予想、目的、本質、模範、理想、覚悟、
基準

○類義語を集めよう。(抽象的な概念を表す言葉について)
例 予想 予期
 予想 予測
 予知 予知

○類義語を選んで短文を作り、違いを考えよう。

○対義語を考えよう。

○学習を振り返る。

⑤ 対義語を考えさせる。

⑥ 本時のまとめと次時の予告をする。
・「本時の振り返りを書きましょう。」
「次の時間は「言葉を比べよう」を学習します。」

28

題材名 「読書生活を豊かに」①（第1時／全2時間）

目標 本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かすことができる。

領域名 言語文化

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 5分	① 題材名「読書生活を豊かに」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">読みたい本のリストを作ろう。</div> ・ワークシートを配付する。 ・声を合わせて読ませる。	・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。
展開 38分	③ P.83下段を読ませ、リスト作りの概要を理解させる。 ・夏休み中にリストの本を読ませ、新学期に読んだ本の紹介合戦を行うことを確認させておく。 ④ 「翻訳作品を読み比べよう」を読ませ、作品の印象の違いを話し合わせる。 ・人物の言動や様子が描かれた表現を基に、人柄や心情の違いを捉えさせる。 ⑤ 「「わからない」は人生の宝物」を読ませ、翻訳作品や外国作品の面白さについて理解させる。 ・初めに、軽焼きまんじゅう、蒸しもち、しょうがパンを紹介し、どんな食べ物かわかるかを聞いてみてもよい。 ・補習校の場合、原書と翻訳を読み比べることのできる生徒もいるかもしれない。それを共有できれば貴重な体験となる。	・教科書を読み、リスト作りについて理解する。 ・星の王子様の登場人物の印象の違いを考え、話し合う。 ・翻訳作品や外国作品の面白さについて考える。 評価 翻訳の違いによって作品の印象が異なることを知り、他の翻訳作品を楽しもうとしている。（ワークシート）
終 2分	⑥ 「本の世界を広げよう」を参考に、今後読みたい本を考えさせ、リストを作成させる。 ・各教材の最終ページ下段に紹介されている「広がる読書」も参考にさせるとよい。 ⑦ 本時のまとめと次時の予告をする。 「本時の振り返りを書きましょう。」 「夏休み明けに、読んだ本の紹介をします。本の魅力をワークシートにまとめてきましょう。」	・自己評価と感想を記入する。 ・次時の見通しを持つ。

指導のポイント

この単元では、第1時に夏休み前の読書準備、第2時に夏休み後の読書紹介を行うことを想定している。指導のタイミングが合わない場合は、第1時と第2時の間に他の単元を挟むなどして調整するとよい。

板書例

① 題材名「読書生活を豊かに」を黒板に書く。

② 本時の目標を確認させる。
・「読みたい本のリストを作ろう。」
・ワークシートを配付し、確認させる。

④ 「翻訳作品を読み比べよう」を読ませ、作品の印象の違いを話し合わせる。

⑤ 「「わからない」は人生の宝物」を読ませ、翻訳作品や外国作品の面白さについて理解させる。

読書生活を豊かに

読みたい本のリストを作ろう。

○ 翻訳作品を読み比べよう。
星の王子様の違い
内藤訳

例

僕	古風な感じ	池澤訳
王子様	上品	無邪気

○ 翻訳作品や外国作品の面白さを考えよう。

○ 夏休みに読みたい本のリストを作ろう。

○ 学習を振り返る。

⑥ 「本の世界を広げよう」を参考に、今後読みたい本を考えさせ、リストを作成させる。

⑦ 本時のまとめと次時の予告をする。
・「本時の振り返りを書きましょう。」
「夏休み明けに、読んだ本の紹介をします。本の魅力をワークシートにまとめてみましょう。」

29

題材名 「読書生活を豊かに」②（第2時／全2時間）

目標 本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かすことができる。

領域名 言語文化

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 5分	① 題材名「読書生活を豊かに」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">読書紹介合戦をしよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートを配付する。 声を合わせて読ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の目標を知る。 声を合わせて目標を読む。
展開 38分	③ P.82-83上段を読ませ、読書紹介合戦の流れを理解させる。 <ul style="list-style-type: none"> 話すことや聞くことの学習ではなく、読書の世界を広げるための活動であることを確認させておく。 ④ 読書紹介の準備をさせる。 <ul style="list-style-type: none"> 書名と著者名は必ず紹介させる。 小説であれば、「あらすじ」「好きな登場人物やセリフ」「名場面」ノンフィクション等であれば、「概要」「考えさせられる表現や言葉」「新たに学んだ知識」などを中心に、課題としてノートにまとめてきたものから魅力につながる内容を選ばせる。 内容が決まったら、各自で話す練習をさせる。 ◎ ⑤ 4～5人のグループで読書紹介合戦を行わせる。 <ul style="list-style-type: none"> グループはあらかじめ決めておく。 ≪手順≫ <ol style="list-style-type: none"> ①本の紹介（2分） ②質疑応答（2分） ③全員の紹介が終わったら、すべての本を並べ、最も読みたいと思った本をいっせいに指さしてチャンプ本を決める。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書を読み、読書紹介合戦の流れを理解する。 紹介する内容をワークシートに整理し、話す練習をする。 読書紹介合戦を行い、今後読みたい本を見つける。 評価 活動を通して本の魅力を感じ、今後どんな本を読みたいかを考えている。（ワークシート）
終 2分	⑥ 本時のまとめと次時の予告をする。 「本時の振り返りを書きましょう。」 「次の時間は「盆土産」の学習をします。」	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価と感想を記入する。 次時の見通しを持つ。

指導のポイント

準備の時間が少ないため、紹介の時間は短くなってしまってもよい。無理やり話すことを考えるよりも、質疑応答で聞き手の知りたいことに答えていく方うまく進む場合もあるため、生徒の実態に合わせてよい。

板書例

① 題材名「読書生活を豊かに」を黒板に書く。

② 本時の目標を確認させる。
・「読書紹介合戦をしよう。」
・ワークシートを配付し、確認させる。

③ P.82-83 上段を読ませ、読書紹介合戦の流れを理解させる。

④ 読書紹介の準備をさせる。

読書生活を豊かに

読書紹介合戦をしよう。

○読書紹介の流れ

①本の紹介（2分）

②質疑応答（2分）

※全員が発表する

③全員の本を並べ、それぞれが最も読みたいと思った本を
一斉に指さしてチャンプ本を決める。

○学習を振り返る。

⑤ 4～5人のグループで読書紹介合戦を行わせる。

⑥ 本時のまとめと次時の予告をする。
・「本時の振り返りを書きましょう。」
「夏休み明けに、読んだ本の紹介をします。本の魅力をノートに
まとめてきましょう。」

30

題材名 「盆土産」①（第1時／全2時間）

目標 目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得たり、登場人物の言動の意味などについて考えたりして、内容を解釈することができる。

領域名 言葉 C 読むこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 5分	① 題材名「盆土産 三浦哲郎」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">登場人物の人物像をとらえよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートを配付し、書き込ませる。 声を合わせて読ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の目標を知る。 声を合わせて目標を読む。
展開 38分	③ 全文を通読させる。 <ul style="list-style-type: none"> 教材文中の、意味がわからない語句や、読めない漢字に印をつけさせる。 登場人物の人物像が伝わってくる表現があれば、印をつけるようにさせる。 ④ 登場人物の言動や様子が描かれた表現をワークシートにまとめさせる。 「登場人物の人柄が伝わる言動や様子をワークシートに整理しよう。」 <ul style="list-style-type: none"> 通読の際に印をつけさせた表現などを書き出させる。 いくつか発表させ、黒板に書く。 ⑤ 登場人物それぞれの人物像を考えさせる。 「登場人物の言動や様子から、それぞれの人物像を考えてみよう。」 <ul style="list-style-type: none"> ④で書き込ませた内容等をもとに、人物の人柄を考えさせ、ワークシートに書かせる。 小グループや全体に発表させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 登場人物の人物像が伝わってくる表現に注目しながら読み進める。 登場人物の言動や様子が描かれた表現をワークシートに書き込む。 ④で書いたことなどをもとに、登場人物の人柄を考え、ワークシートに書き込む。 <p>評価 登場人物の人柄を、表現に即してとらえ、まとめている。（ワークシート）</p>
終 2分	⑥ 本時のまとめと次時の予告をする。 「学習目標を確認し、ノートに本時の振り返りを書こう。」 「次の時間は「えびフライ」という言葉に注目して、登場人物の心情を読み取っていきます。」	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価や感想を記入する。 次時の見通しを持つ。

板書例

① 題材名「盆土産 三浦哲郎」を黒板に書く。

② 本時の目標を確認させる。
 ・「登場人物の人柄をとらえよう。」
 ・ワークシートを配付し、書き込ませる。

④ 登場人物の言動や様子が描かれた表現をワークシートにまとめさせる。
 「登場人物の人柄が伝わる言動や様子をワークシートに整理しよう。」
 ・ワークシートに書き込んだ内容を各人物についていくつか発表させ、板書にまとめさせる。

○言動や様子を参考に、登場人物の人柄について考えよう。	祖母	姉	少年 (語り手)	父親	○人物を考えるヒント 人物の言動や様子	登場人物の人物像をとらえよう	盆土産 三浦哲郎

⑤ 登場人物それぞれの人柄を考えさせる。
 「登場人物の言動や様子から、それぞれの人柄を考えてみよう。」
 ・④で書き込んだ内容等をもとに、人物の人柄を考えさせ、ワークシートに書かせる。
 ・小グループや全体に発表させる。

⑥ 本時のまとめと次時の予告をする。
 ・「本時の振り返りを書こう。」
 「次の時間は「えびフライ」という言葉に注目して、登場人物の心情を読み取っていきます。」

31

題材名 「盆土産」②（第2時／全2時間）

目標 目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得たり、登場人物の言動の意味などについて考えたりして、内容を解釈することができる。

領域名 言葉 C 読むこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 5分	① 題材名「盆土産 三浦哲郎」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">「えびフライ」に込められた少年の心情を読み取ろう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートを配付し、書き込ませる。 声を合わせて読ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の目標を知る。 声を合わせて目標を読む。
展開 38分	③ 「え（ん）びフライ」の語が出てくる場面を音読させる。 <ul style="list-style-type: none"> 「少年が釣りに行く場面をつぶやくえびフライ」「少年が喜作に言ったえびフライ」「少年が父親の見送りの際に言ったえんびフライ」の三つの場面を読ませる。 一人読み・ペア読み・一斉読みなどで読ませる。 ④ 「え（ん）びフライ」の語に込められた少年の心情を考えさせ、ワークシートにまとめさせる。 「「え（ん）びフライ」という言葉に込められた少年の心情を、ワークシートに書いてみよう。」 <ul style="list-style-type: none"> 「え（ん）びフライ」と言うまでに、少年がどのように思ったり行動したりしたかに注目させる。 いくつか発表させ、黒板に書く。 えびフライがどのような意味をもつものになっていったかに注目させる。 ⑤ 父親を見送ったあとの場面をノートに書かせる。 「見送りのあとの場面を考えて、少年の様子を中心に続きを書いてみよう。」 <ul style="list-style-type: none"> ④で書き込んだ内容等をもとに、続きの場面を考えさせ、ノートに書かせる。 時間があれば、小グループや全体で発表させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「え（ん）びフライ」という言葉に注目しながら音読する。 「え（ん）びフライ」に込められた少年の心情を考え、ノートに書き込む。 少年の心情をふまえ、話の続きをノートに書き込む。 評価 人物の心情をふまえ、作品の続きを書いている。（ノート）
終 2分	⑥ 本時のまとめと次時の予告をする。 「学習目標を確認し、ノートに本時の振り返りを書こう。」 「次の時間からは「字のない葉書」という文章を読み、人物の心情や筆者の思いを考えていきます。」	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価や感想を記入する。 次時の見通しを持つ。

板書例

① 題材名「盆土産 三浦哲郎」を黒板に書く。

② 本時の目標を確認させる。
 ・「「えびフライ」に込められた少年の心情を読み取ろう。」
 ・ワークシートを配付し、書き込ませる。

④ 「えびフライ」に込められた少年の心情をワークシートにまとめさせる。
 「「え（ん）びフライ」という言葉に込められた少年の心情を、ワークシートに書いてみよう。」
 ・ワークシートに書き込んだ内容をいくつか発表させ、板書にまとめる。

○見送ったあとの場面を書いてみよう。	見送りのときの 「えんびフライ」	喜作に言った 「えびフライ」	釣りのときの 「えびフライ」	場面	盆土産 三浦哲郎 「えびフライ」に込められた少年の心情を読み取ろう。
				心情	

⑤ 父親を見送ったあとの場面をノートに書かせる。
 「見送りのあとの場面を考えて、少年の様子を中心に続きを書いてみよう。」
 ・④で書き込んだ内容等をふまえて続きの場面を考えさせ、ノートに書かせる。
 ・時間があれば小グループや全体に発表させる。

⑦ 本時のまとめと次時の予告をする。
 ・「本時の振り返りを書こう。」
 「次の時間からは「字のない葉書」という文章を読み、人物の心情や筆者の思いを考えていきます。」

32

題材名 「字のない葉書」①（第1時／全2時間）

目標 目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得たり、登場人物の言動の意味などについて考えたりして、内容を解釈することができる。

領域名 言語文化 C 読むこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 5分	① 題材名「字のない葉書 向田邦子」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">父親の人柄を読み取ろう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートを配付し、書き込ませる。 声を合わせて読ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の目標を知る。 声を合わせて目標を読む。
展開 38分	③ 全文を通読させる。 <ul style="list-style-type: none"> 意味がわからない語句や、読めない漢字に印をつけさせる。 父親の人物像を想像しながら読むようにさせる。 ④ 新出漢字の読み方や、語句の意味を確認させる。 <ul style="list-style-type: none"> ③で印をつけたものを挙げさせ、読み方や意味を確認させる。 ⑤ 作品の構成を確認させる。 「この作品は、二部構成になっています。それぞれに、どのような思ひ出が描かれているかを確認しよう。」 <ul style="list-style-type: none"> 何人かを指名し、発表させる。 簡単に板書し、整理する。 ⑥ 父親の人柄をとらえさせる。 「父親の人柄を表す表現を見つけよう。」 <ul style="list-style-type: none"> ワークシートに整理させる。 いくつか発表させ、黒板に書く。 「先ほど書いた部分などから、父親の人柄をまとめよう。」 <ul style="list-style-type: none"> ワークシートにまとめさせる。 小グループや全体に向けて発表させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 父親の人物像を想像しながら読み進める。 読めない漢字や意味の分からない語句を発表する。 二部構成を確認し、書かれている内容を発表する。 父親の人柄を表す部分を、ワークシートに整理する。 整理したことを発表する。 父親の人柄を考え、ワークシートにまとめる。 <p>評価 文中の表現をふまえ、父親の人柄をまとめている。（ワークシート）</p>
終 2分	⑦ 本時のまとめと次時の予告をする。 「学習目標を確認し、ノートに本時の振り返りを書こう。」 「次の時間は、「私」の父親への思いを考えていきます。」	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価や感想を記入する。 次時の見通しを持つ。

板書例

① 題材名「字のない葉書 向田邦子」を黒板に書く。

② 本時の目標を確認させる。
 ・「父親の人柄を読み取ろう。」
 ・ワークシートを配付し、書き込ませる。

④ 作品の構成を確認させる。
 「この作品は、二部構成になっています。それぞれに、どのような思い出が描かれているかを確認しよう。」
 ・何人かに発表させ、板書にまとめる。

○父親の人柄を考えて書いてみよう。	妹から家族へ送られてくる「字のない葉書」の思い出	父から「私」への手紙の思い出	場面	父親の人柄を読み取ろう。	字のない葉書 向田邦子
			人柄を示す表現		

⑥父親の人柄をとらえさせる。
 「父親の人柄を表す表現を見つけよう。」
 ・ワークシートに整理させる。
 ・いくつか発表させ、黒板に書く。

⑥父親の人柄をとらえさせる。
 「先ほど書いた部分などから、父親の人柄をまとめよう。」
 ・ワークシートにまとめさせる。
 ・小グループや全体に向けて発表させる。

⑦ 本時のまとめと次時の予告をする。
 ・「本時の振り返りを書こう。」
 「次の時間は、「私」の父親への思いを考えていきます。」

33

題材名 「字のない葉書」②（第2時／全2時間）

目標 文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。

領域名 言語文化 C 読むこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 5分	① 題材名「字のない葉書 向田邦子」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 父親に対する「私」の思いについて、考えよう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートを配付し、書き込ませる。 声を合わせて読ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の目標を知る。 声を合わせて目標を読む。
展開 38分	③ 前時にとらえた父親の人物像を振り返らせる。 「父親はどのような人物だと考えられたか、見直してみよう。」 <ul style="list-style-type: none"> 前時のワークシートを見直させる。 ④ 「私」の父親への思いを考えさせる。 「作品中の表現に注目しながら、「私」が父親に対してどのような思いをもっているか、考えてみよう。」 <ul style="list-style-type: none"> 父親への思いが読み取れる表現があれば、本文に印をつけさせる。 ワークシートにまとめさせる。 何人かに発表させ、簡単に板書する。 ⑤ 「私」の父親への思いに関して、自分が共感できる部分や、共感できない部分を考えさせる。 「「私」の父親への思いに関して、自身がどのように思うか、共感できる部分や共感できない部分はどこか、考えてみよう。」 <ul style="list-style-type: none"> ワークシートにまとめさせる。 小グループで発表させ、それぞれの意見について話し合わせる。 どのような意見が出たか、グループごとに発表させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 父親の人物像を、ワークシートをもとに振り返る。 作品中の表現をもとに、「私」の父親への思いを考え、ワークシートにまとめる。 「私」の父親への思いに対し、自身はどのように考えるか、ワークシートにまとめる。 評価 「私」の父親への思いに対する自身の考えをまとめている。（ワークシート）
終 2分	⑥ 本時のまとめと次時の予告をする。 「学習目標を確認し、ノートに本時の振り返りを書こう。」 「次の時間は、聞くことについての学習をします。」	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価や感想を記入する。 次時の見通しを持つ。

板書例

① 題材名「字のない葉書 向田邦子」を黒板に書く。

② 本時の目標を確認させる。
・「父親に対する「私」の思いについて、考えよう。」
・ワークシートを配付し、書き込ませる。

④ 「私」の父親への思いを考えさせる。
「作品中の表現に注目しながら、「私」が父親に対してどのような思いをもっているか、考えてみよう。」
・父親への思いが読み取れる表現があれば、本文に印をつけさせる。
・ワークシートにまとめさせる。
・何人かに発表させ、簡単に板書する。

字のない葉書 向田邦子

父親に対する「私」の思いについて、考えよう。

「私」の、父親への思い。

○「私」の思いに関して、共感できる部分やできない部分などを考えてみよう。

共感できる

共感できない

⑤ 「私」の父親への思いに関して、自分が共感できる部分や、共感できない部分を考えさせる。
「「私」の父親への思いに関して、自身がどのように思うか、共感できる部分や共感できない部分はどこか、考えてみよう。」
・ワークシートにまとめさせる。
・小グループで発表させ、それぞれの意見について話し合わせる。
・どのような意見が出たか、グループごとに発表させる。

⑥ 本時のまとめと次時の予告をする。
・「本時の振り返りを書こう。」
「次の時間は聞くことの学習をします。」

34

題材名 「聞き上手になろう」(第1時/全1時間)

目標 論理の展開などに注意して聞き、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる。

領域名 言葉 A 話すこと・聞くこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 5分	① 題材名「聞き上手になろう」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin: 5px 0;">質問で相手の思いや考えを引き出そう。</div> ・ワークシートを配付する。 ・声を合わせて読ませる。	・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。
展開 38分	③ インタビューの準備をさせる。 ・教材文を読み、役割を理解させる。 ・4～5人のグループを作り、役割の確認をさせる。 ・「今、夢中になっていること」や「私が輝く瞬間」をテーマに、インタビューの準備を行わせる。 ・「話し手としての準備」、「聞き手としての準備」の両方をさせる。 ・P.112「質問で思いや考えを引き出すには」を読み、質問のポイントを全体で確認させておく。 ◎ ④ インタビューを行わせる。 ・「話し手」、「聞き手」、「聴衆」の役割を交代しながら、インタビューを行わせる。 ・聞き手と聴衆で話しやすい雰囲気を作り出すようにさせる。 ⑤ インタビューをして気付いたことや考えたことを発表させる。 ・「話し手」「聞き手」「聴衆」それぞれの立場で考えさせる。	・自分が話したいことと、グループのメンバーに質問したいことを考えてワークシートに記入する。 ・インタビューを行う。 ・興味をもって相手の話を聞き、話しやすい雰囲気を作る。 評価 話の要点や全体像を考えながら聞き、話を広げたり深めたりする質問をしている。(ワークシート・観察) ・インタビューをして気付いたことや考えたことをワークシートに記入し、発表する。
終 2分	⑥ 本時のまとめと次時の予告をする。 「本時の振り返りを書きましょう。」 「次の時間は「表現を工夫して書こう」の学習をします。」	・自己評価と感想を記入する。 ・次時の見通しを持つ。

指導のポイント

一問一答になりがちな質問を、相手の話を受けて返す形で発展させられるようにしたい。そのためには、事前の準備と、相手の話に興味を持って聞くことの2点が重要であることを伝えることが大切である。

板書例

① 題材名「聞き上手になろう」を黒板に書く。

② 本時の目標を確認させる。
・「質問で相手の思いや考えを引き出そう。」
・ワークシートを配付し、確認させる。

③ インタビューの準備をさせる。

④ インタビューを行わせる。

聞き上手になろう

質問で相手の思いや考えを引き出そう。

○インタビューの準備をしよう。

①役割を確認する。

②話し手・聞き手両方の準備をする。

話し手 「今、夢中になっていること」「私が輝く瞬間」をテーマに話したいことを考え、インタビューに伝える。

聞き手 相手から話題を聞き、主に聞きたい内容を考える。

○インタビューをしよう。

・相手の話に興味を持ち、和やかな雰囲気を作る！

・相手の話を受けて返す質問で、話を引き出す！

○学習を振り返る。

⑤ インタビューをして気付いたことや考えたことを発表させる。

⑥ 本時のまとめと次時の予告をする。
・「本時の振り返りを書きましょう。」
「次の時間は「表現を工夫して書こう」の学習をします。」

35

題材名 「表現を工夫して書こう」①（第1時／全2時間）

目標 根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。

領域名 言葉 B 書くこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 5分	① 題材名「表現を工夫して書こう」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">手紙やメールの特徴をまとめよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートを配付する。 声を合わせて読ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の目標を知る。 声を合わせて目標を読む。
展開 38分	③ 手紙と電子メールを比較させ、活用場面を考えさせる。 <ul style="list-style-type: none"> 教科書の例を参考に、手紙と電子メール、それぞれの特徴を表にまとめさせる。 P.114の表のように、観点を明確にさせるとよい。 P.272「いろいろな通信文」も参考にさせる。 ④ 通信文を書く相手と目的、手段を決めさせ、形式を確認させる。 <ul style="list-style-type: none"> ○日本国内の親戚や以前お世話になった学校の先生に近況を伝える手紙を書く、というものが現実的ではないかと思われるが、実態に合わせて工夫するとよい。 P.115「手紙の例」で手紙の形式を確認させる。 ⑤ 通信文の内容を考えさせる。（以下手紙の場合） <ul style="list-style-type: none"> 前文、主文、末文、後付けの4つに分けて、相手に伝えたい内容を考えさせる。 相手に合わせて頭語結語や時候の挨拶などを工夫させる。 早めに作業が進んだ場合は下書きをさせるとよい。（次時のワークシートを使用する。） 	<ul style="list-style-type: none"> 手紙とメールの特徴をワークシートにまとめる。 教科書を読み、手紙の形式を理解する。 相手に伝えたいことや気持ちを具体的にワークシートに書く。 評価 自分の思いや考えが伝わるように、具体例を加えたり、表現の工夫をしたりして通信文を書いている。（ワークシート） ※次時の活動と併せて評価する。
終 2分	⑥ 本時のまとめと次時の予告をする。 「本時の振り返りを書きましょう。」 「次の時間は清書をします。」	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価と感想を記入する。 次時の見通しを持つ。

指導のポイント

補習校の生徒は手紙を書く経験が少ないと思われるので、できるだけ手書きで作業をさせる。相手が返事を返してくれると手紙を受け取る喜びも味わわせることができる。そのためにも、書いたものは実際に送れるようにしたい。

板書例

① 題材名「表現を工夫して書こう」を黒板に書く。

② 本時の目標を確認させる。
 ・「手紙やメールの特徴をまとめよう。」
 ・ワークシートを配付し、確認させる。

③ 手紙と電子メールを比較させ、活用場面を考えさせる。

④ 通信文を書く相手と目的、手段を決めさせ、形式を確認させる。

○ 伝えた内容を具体的にしよう。
早く終わった人は下書きに移る。

○ 学習を振り返る。

活用場面	形式の特徴	相手に与える印象	やりとりのしやすさ	届くまでの速さ
近況報告 お礼	頭語と結語をつける 時候の挨拶を入れる	丁寧な印象。	手間がかかるため、やりとりはしにくい	やや時間がかかる(数日)
取材のお願い スケジュールの確認	短い件名をつける 簡潔に書く	簡潔な印象。	いつでも遅れるため、やりとりしやすい	すぐに届く

○ 手紙と電子メールの特徴

手紙やメールの特徴をまとめよう。

表現を工夫して書こう

⑤ 通信文の内容を考えさせる。

⑥ 本時のまとめと次時の予告をする。
 ・「本時の振り返りを書きましょう。」
 「次の時間は清書をします。」

36

題材名 「表現を工夫して書こう」②（第2時／全2時間）

目標 根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。

領域名 言葉 B 書くこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 5分	① 題材名「表現を工夫して書こう」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin: 5px 0;">手紙（電子メール）を書こう。</div> ・ワークシートを配付する。 ・声を合わせて読ませる。	・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。
展開 38分	③ P.114「通信文（手紙・電子メール）を書くときには」を読み、相手や目的に応じて敬語を用いる、気持ちや用件が伝わるように具体例を入れさせるなど、の表現の工夫を確認させる。 ④ 手紙や電子メールを書かせる。 ・下書きなので鉛筆書きでよい。 ◎ ⑤ 下書きを読み合わせ、気持ちや用件が伝わったかどうかを互いに伝え合わせる。 ・ペアで書いたものを交換して読み合わせさせる。できれば複数の相手と読み合いができるとうよい。 ・字の間違いや文法の修正箇所については、次時に推敲を行うため、あまり細かく指摘させなくてよい。	・言葉遣いや具体例を意識して書くことを確認する。 ・気持ちが明確に伝わるように表現を工夫して、手紙をワークシート（便箋）に書く。 評価 自分の思いや考えが伝わるように、具体例を加えたり、表現の工夫をしたりして通信文を書いている。（ワークシート） ・具体例や表現の工夫に着目して読み合う。
終 2分	⑥ 本時のまとめと次時の予告をする。 「本時の振り返りを書きましょう。」 「次の時間は書いた文章を推敲します。」	・自己評価と感想を記入する。 ・次時の見通しを持つ。

指導のポイント

電子メールの場合は、一度打った文面を印刷して下書きの読み合いをさせるとよい。

書いた文章は次時に推敲し、清書して送るという流れになる。

板書例

① 題材名「表現を工夫して書こう」を黒板に書く。

② 本時の目標を確認させる。
・「手紙（電子メール）を書こう。」
・ワークシートを配付する。

③ P.114「通信文（手紙・電子メール）を書くときには」を読ませ、相手や目的に応じて敬語を用いさせる、気持ちや用件が伝わるように具体例を入れるなど、の表現の工夫を確認させる。

④ 手紙や電子メールを書かせる。

表現を工夫して書こう

手紙（電子メール）を書こう。

○書くときのポイント

- ・相手や目的に応じて敬語を用いる。
- ・気持ちや用件が伝わるように具体例を入れる。

○下書きを読み合い、気持ちや用件が伝わる内容や表現になつていたか、アドバイスし合おう。

○学習を振り返る。

⑤ 下書きを読み合わせ、気持ちや用件が伝わったかどうかを互いに伝え合わせる。

⑥ 本時のまとめと次時の予告をする。
・「本時の振り返りを書きましょう。」
・「次の時間は書いた文章を推敲します。」

37

題材名 「表現の効果を考える」 (第1時/全1時間)

目標 読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、文章を整えることができる。

領域名 言葉 B 書くこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 5分	① 題材名「表現の効果を考える」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">書いた文章を推敲しよう。</div> ・ワークシートを配付する。 ・声を合わせて読ませる。	・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。
展開 38分	③ 木本さんの手紙の下書きを読ませ、適切な文字や表記に書き改めさせる。 ④ ……線部㊦㊧について、より効果的な表現を考えさせる。 ⑤ ③④の学習を踏まえて、前時に書いた手紙(電子メール)を推敲させる。	・教科書の観点に沿って、適切な表現をワークシートに書く。 ・気持ちや状況が明確に伝わるような表現や具体例を考えてワークシートに書く。 評価 読み手の立場に立って手紙を推敲し、気持ちがより伝わるような表現に書き改めている。(ワークシート) ・適切な文字や表記になっているか、気持ちや状況が伝わる表現になっているかを見直す。
終 2分	⑥ 本時のまとめと次時の予告をする。 「本時の振り返りを書きましょう。」 「手紙の清書は宿題とします。」 「次の時間は敬語の学習をします。」	・自己評価と感想を記入する。 ・次時の見通しを持つ。

指導のポイント

一度書いた文章を見直す習慣のついている生徒は少ない。推敲することが相手に対する気持ちの表れであることを理解させられるとよい。

板書例

① 題材名「表現の効果を考える」を黒板に書く。

② 本時の目標を確認させる。
・「書いた文章を推敲しよう。」
・ワークシートを配付する。

③ 木本さんの手紙の下書きを読ませ、適切な文字や表記に書き改めさせる。

④ ……線部㉗㉘について、より効果的な表現を考えさせる。

○ 学習を振り返る。

○ 自分の書いた手紙（電子メール）を推敲しよう。

○ 推敲のポイント

- ・ 仮名遣いや漢字の使い方
- ・ 言葉の使い方や意味
- ・ 読む相手への配慮

表現の効果を考える

書いた文章を推敲しよう。

⑤ ③④の学習を踏まえて、前時に書いた手紙（電子メール）を推敲させる。

⑥ 本時のまとめと次時の予告をする。
・「本時の振り返りを書きましょう。」
「手紙の清書は宿題とします。」
「次の時間は敬語の学習をします。」

38

題材名 「敬語」 (第1時/全1時間)

目標 敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使うことができる。

領域名 言葉

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導 入 5 分	① 題材名「敬語」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">敬語をマスターしよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートを配付する。 声を合わせて読ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の目標を知る。 声を合わせて目標を読む。
展 開 38 分	③ 導入の例文を読ませ、敬語の使い方について考えさせる。 <ul style="list-style-type: none"> 可能であれば、教科書は閉じたままで例文のみを掲示して考えさせられるとよい。 ④ 教材文を読ませ、敬語の働きや種類について理解させる。 <ul style="list-style-type: none"> 美化語については、時間があれば押さえる程度でよい。 尊敬語と謙譲語の例から、基本的な尊敬語と謙譲語の作り方を確認しておくといよい。 尊敬語…お(ご)～になる、～れる・られる 謙譲語…お(ご)～する	<ul style="list-style-type: none"> AとBの違いについて考える。 丁寧語、尊敬語、謙譲語についてワークシートにまとめる。
	⑤ 教材文を読ませ、敬語の組み合わせについて考えさせる。 <ul style="list-style-type: none"> P119「生活に生かす」を読ませ、実際の生活場面で敬語を使うときの注意点について考えさせるとよい。 ⑥ 生活場面を想定して、敬語を適切に用いた文を考えさせる。	<ul style="list-style-type: none"> 例で用いられている敬語の種類と敬意を示す相手を確認する。
	⑦ 新出漢字を確認させる。(13字) <ul style="list-style-type: none"> 教材文で用いられている箇所を見ながら読みを確認させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 場面に合った敬語を用いた文を考え、ワークシートに書く。
終 2 分	⑧ 本時のまとめと次時の予告をする。 「本時の振り返りを書きましょう。」 「次の時間は同じ訓・同じ音をもつ漢字の学習をします。」	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価と感想を記入する。 次時の見通しを持つ。

板書例

① 題材名「敬語」を黒板に書く。

② 本時の目標を確認させる。
・「敬語をマスターしよう。」
・ワークシートを配付する。

③ 導入の例文を読ませ、敬語の使い方について考えさせる。

④ 教材文を読ませ、敬語の働きや種類について理解させる。

敬語

敬語をマスターしよう。

敬語…話題の中の人物や聞き手への敬意を表す表現。

敬語の種類

- ・丁寧語…聞き手に対する敬意を表す。
- ・尊敬語…話題の中の動作・行為をする人に対する敬意を表す。
- ・謙譲語…動作・行為が向かう人に対する敬意を表す。

○生活場面の中で敬語を適切に活用しよう。

○学習を振り返る。

⑤ 教材文を読ませ、敬語の組み合わせについて考えさせる。
⑥ 生活場面を想定させて、敬語を適切に用いた文を考えさせる。

⑦ 新出漢字を確認させる
・教材文中で用いられている箇所を見ながら読みを確認させる

⑧ 本時のまとめと次時の予告をする。
・「本時の振り返りを書きましょう。」
「次の時間は同じ訓・同じ音をもつ漢字の学習をします。」

39

題材名 「同じ訓・同じ音をもつ漢字 漢字に親しもう3」（第1時／全1時間）

目標 抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。

領域名 言葉

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入	① 題材名「同じ訓・同じ音をもつ漢字 漢字に親しもう3」を黒板に書く。	
5分	② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin: 5px 0;">同じ訓・同じ音をもつ漢字を学ぼう。</div> ・ワークシートを配付する。 ・声を合わせて読ませる。	・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。
展開	※新出漢字は、教材文を読む中で随時読み方を確認させる。	
	③ 教材文を読ませ、同じ訓をもつ漢字の使い分けについて理解させる。	・ワークシートに使い分けのポイントをまとめ、意味や使い方の違いを考える。
	④ 教材文を読ませ、同じ読みで意味の異なる言葉（同音異義語）の使い分けについて理解させる。	
38分	⑤ P.121の練習問題とP.122「漢字に親しもう3」に取り組ませる。 ・言葉の意味がわからないときは、国語辞典等で調べさせるとよい。 ・P.251「小学校六年生で学習した漢字」にあわせて取り組ませ、これまでに学習した漢字の書き取りをさせてもよい。 ・辞書などを使って、生徒自身に問題を作らせて、解き合ってみることなども考えられる。 【解答は別紙】	・練習問題と「漢字に親しもう3」を教科書に直接書き込む。 評価 同音異義語の概念について、具体的な例を当てはめて理解している。（ワークシート）
終	⑥ 本時のまとめと次時の予告をする。 「本時の振り返りを書きましょう。」 「次の時間は「モアイは語る―地球の未来」の学習をします。」	・自己評価と感想を記入する。 ・次時の見通しを持つ。
2分		

板書例

① 題材名「敬語」を黒板に書く。

② 本時の目標を確認させる。
 ・「敬語をマスターしよう。」
 ・ワークシートを配付する。

③ 教材文を読み、同じ訓をもつ漢字の使い分けについて理解させる。
 ④ 教材文を読み、同じ読みで意味の異なる言葉（同音異義語）の使い分けについて理解させる。

○ 同じ訓をもつ漢字の使い分け

意味を考えるときには、その漢字を使った（熟語）を思い浮かべる。

機会	機械	意味
事をするのに最も都合の良い時機。	動力をうけて目的に応じた一定の運動をするもの。実験などに使う装置・道具。	工場に新しい機械を導入した。

意味を考えるときには、その漢字を使った他の熟語や訓を思い浮かべる。

○ 練習問題、漢字に親しもう3に取り組もう。
教科書に直接書き込む。

○ 学習を振り返る。

○ 同じ読みをする漢字

同じ読みで意味の異なる熟語を（同音異義語）という。

厚い	熱い	暑い	意味
物の両方の面の隔たりが大きい。 心入れの程度が大きい。	温度が高く感じられる。 感情が高まった状態である。	気温が著しく高い。	使い方 今日は真夏の暑さだ。
ずいぶん厚い氷が張った。	お風呂が熱すぎて入れない。		

同じ訓・同じ音をもつ漢字 漢字に親しもう3

同じ訓・同じ音をもつ漢字を学ぼう。

⑤ P. 121 の練習問題と P. 122 「漢字に親しもう3」に取り組ませる。

⑥ 本時のまとめと次時の予告をする。
 ・「本時の振り返りを書きましょう。」
 「次の時間は「モアイは語る—地球の未来」の学習をします。」

40

題材名 「モアイは語る」①（第1時／全2時間）

目標 文章全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係をとらえることができる。

領域名 情報 C 読むこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入	① 題材名「モアイは語る 安田喜憲」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。	
5分	筆者の主張を読み取ろう。	
展開	③ 全文を通読させる。 ・意味がわからない語句や、読めない漢字に印をつけさせる。 ・筆者の考えが書かれている部分に注目させながら読むようにさせる。	・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。 ・筆者の考えに注目しながら読み進める。
	④ 新出漢字の読み方や、語句の意味を確認させる。 ・③で印をつけたものを挙げさせ、読み方や意味を確認させる。	・読めない漢字や意味の分からない語句を発表する。
	⑤ イースター島の運命と地球の未来との関係を読み取らせる。 「筆者は、イースター島と地球の状況に、類似する部分を見出しています。観点ごとに整理し、比較してみよう。」 ・ワークシートに整理させる。 ・ペアや小グループで確認させる。 ・何人かに発表させ、簡単に板書する。	・イースター島の運命と地球の状況を、ワークシートに整理する。 ・整理したことを発表する。
終	⑥ 筆者の主張をまとめさせる。 「イースター島と地球の状況を比較したうえで、筆者が主張していることをまとめよう。」 ・ワークシートにまとめさせる。 ・いくつか発表させる。	・筆者の主張を考え、ワークシートにまとめる。 評価 筆者の主張を、根拠をもってまとめている。（ワークシート）
	⑦ 本時のまとめと次時の予告をする。 「学習目標を確認し、ノートに本時の振り返りを書こう。」 「次の時間は、筆者の主張を踏まえた上で、地球の未来について考えていきます。」	・自己評価や感想を記入する。 ・次時の見通しを持つ。
2分		

板書例

① 題材名「モアイは語る 安田善憲」を黒板に書く。

② 本時の目標を確認させる。
 ・「筆者の主張を読み取ろう。」
 ・ワークシートを配付し、書き込ませる。

⑤ イースター島の運命と地球の未来との関係を読み取らせる。
 「筆者は、イースター島と地球の状況に、類似する部分を見出しています。観点ごとに整理し、比較してみよう。」
 ・ワークシートに整理させる。
 ・ペアや小グループで確認させる。
 ・何人かに発表させ、簡単に板書する。

	地理的条件	資源	食料	人口	森林	観点
○筆者の主張をまとめよう。						イースター島
						地球

モアイは語る 安田善憲

筆者の主張を読み取ろう。

⑥ 筆者の主張をまとめさせる。
 「イースター島と地球の状況を比較したうえで、筆者が主張していることをまとめよう。」
 ・ワークシートにまとめさせる。
 ・いくつか発表させる。

⑦ 本時のまとめと次時の予告をする。
 ・「本時の振り返りを書こう。」
 「次の時間は、筆者の主張を踏まえた上で、地球の未来について考えていきます。」

4 1

題材名 「モアイは語る」②（第2時／全2時間）

目標 文章全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係をとらえることができる。

領域名 情報 C 読むこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 5分	<p>① 題材名「モアイは語る 安田善憲」を黒板に書く。</p> <p>② 本時の目標を黒板に書く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">地球の未来について考えよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートを配付し、書き込ませる。 声を合わせて読ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の目標を知る。 声を合わせて目標を読む。
展開 38分	<p>③ 前時にまとめた筆者の主張を振り返らせる。 「筆者がどのような主張をしていたか、振り返ろう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートをもとに振り返らせる。 形式段落⑩以降を、個人またはペアで音読させる。 <p>④ 地球の未来について、どのようなことが必要か考えさせる。 「筆者は、限りある資源をできるだけ効率よく使っていくことが大切であると言っています。地球の未来のために、自分はどのようなことが必要だと考えるか、まとめてみよう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートにまとめさせる。 まとめたものを小グループで交流させる。自分になかった視点などを見つけられるとよい、という指示をする。 <p>⑤ 交流して聞いた意見をふまえ、再度自分の考えをまとめさせる。 「先ほどの交流で聞いた意見もふまえて、もう一度自分の考えをまとめてみよう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートにまとめさせる。 全体に向けて発表させる。簡単に板書する。 質問や意見等を出させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 筆者の主張を、ワークシートをもとに振り返る。 地球の未来のために必要だと考えることを、ワークシートにまとめる。 意見を小グループで交流する。 交流をふまえ、自分の意見をワークシートにまとめる。 自分の考えを全体に発表する。 <p>評価 自分の意見を、根拠をもってまとめている。（ワークシート）</p>
終 2分	<p>⑥ 本時のまとめと次時の予告をする。 「学習目標を確認し、ノートに本時の振り返りを書こう。」 「次の時間は、思考のレッスン2 根拠の吟味を学習します。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価や感想を記入する。 次時の見通しを持つ。

板書例

① 題材名「モアイは語る 安田善憲」を黒板に書く。

② 本時の目標を確認させる。

- ・「筆者の主張を読み取ろう。」
- ・ワークシートを配付し、書き込ませる。

④地球の未来についてどのようなことが必要か考えさせる。

「筆者は、限りある資源をできるだけ効率よく使っていくことが大切であると言っています。地球の未来のために、自分はどのようなことが必要だと考えるか、まとめてみよう。」

- ・ワークシートにまとめさせる。
- ・小グループでまとめたものを交流させる。自分になかった視点などを見つけられるとよい、という指示をする。

モアイは語る 安田善憲

地球の未来について考えよう。

筆者の主張 限りある資源を効率よく、
長く使うことが大切である。

地球の未来のために…

⑤交流して聞いた意見をふまえさせ、再度自分の考えをまとめさせる。

「先ほどの交流で聞いた意見もふまえて、もう一度自分の考えをまとめてみよう。」

- ・ワークシートにまとめさせる。
- ・全体に向けて発表させる。簡単に板書する。
- ・質問や意見等を出させる。

⑦ 本時のまとめと次時の予告をする。

- ・「本時の振り返りを書こう。」
- 「次の時間は、思考のレッスン2 根拠の吟味を学習します。」

4 2

題材名 「思考のレッスン2 根拠の吟味」 (第1時/全1時間)

目標 意見と根拠, 具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。

領域名 情報

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 5分	① 題材名「思考のレッスン2 根拠の吟味」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 根拠の適切さを吟味しよう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートを配付する。 声を合わせて読ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の目標を知る。 声を合わせて目標を読む。
展開 38分	③ 教材文を読ませ, 根拠を吟味する方法を理解させる。 ○新出漢字は随時確認する。 <ul style="list-style-type: none"> P.132に示されているような事例が身の回りにないか, 考えさせてもよい。 ④ 問題1, 2に取り組ませる。 <ul style="list-style-type: none"> P.133のチェックポイントで, 根拠を吟味する観点を押さえるとよい。 根拠が, 客観的な事実や信頼性の高い情報・データであるか。 意見と根拠が明確につながっているか。 根拠の質や数に, 説得力はあるか。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書を読み, 根拠を吟味する方法を理解する。 根拠を吟味する観点を押さえたうえで, 問題の解答をワークシートに書き込む。 評価 問題1, 2に取り組み, 根拠を吟味している。(ワークシート)
終 2分	⑤ 本時のまとめと次時の予告をする。 「本時の振り返りを書きましょう。」 「次の時間は意見文の書き方について学習します。地域や社会で話題になっていることや, 問題だと感じていることを考えてきましょう。」	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価と感想を記入する。 次時の見通しを持つ。

板書例

① 題材名「思考のレッスン2 根拠の吟味」を黒板に書く。

- ② 本時の目標を確認する。
- ・「根拠の適切さを吟味しよう。」
 - ・ワークシートを配付する。

③ 教材文を読ませ、根拠を吟味する方法を理解させる。

○学習を振り返る。

- 問題1と2に取り組もう。
- ・根拠が、客観的な事実や信頼性の高い情報・データであるか。
 - ・意見と根拠が明確につながっているか。
 - ・根拠の質や数に、説得力はあるか。

- 根拠を吟味する観点
- ①客観的な事実や信頼性の高い情報やデータであるか。
 - ②意見と根拠が明確につながっているか。
 - ③根拠の質や数に、説得力はあるか。

根拠の適切さを吟味しよう。

思考のレッスン2 根拠の吟味

④ 問題1, 2に取り組ませる。

- ⑤ 本時のまとめと次時の予告をする。
- ・「本時の振り返りを書きましょう。」
 - 「次の時間は意見文の書き方について学習します。地域や社会で話題になっていることや、問題だと感じていることを考えてきましょう。」

4 3

題材名 「根拠の適切さを考えて書こう」①（第1時／全3時間）

目標 適切さを考えて説明や具体例を加えたり，表現の効果を考えて描写したりするなど，自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。

領域名 B 書くこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 5分	① 題材名「根拠の適切さを考えて書こう」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">意見文の課題と、自分の立場を決めよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートを配付する。 声を合わせて読ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の目標を知る。 声を合わせて目標を読む。
展開 38分	③ 課題を決めさせ、分析させる。 <ul style="list-style-type: none"> 宿題として考えてきたものを発表させ、考えを広げさせる。 社会生活の中から課題を決めさせる。 P.268「発想を広げる」の意見・主張・討論の欄を参考にしてもよい。 表などを使い、観点ごとに長所と短所をまとめさせる。P.34「多様な方法で情報を集めよう」を振り返らせるとよい。 ◎友達どうして整理した内容を見せ合わせ、助言し合わせる。 ④ 課題について立場を決めさせ、意見を支える根拠を考えさせる。 <ul style="list-style-type: none"> 「賛成」「反対」の他、「～するべきだ」などの形も考えられる。 P.132「根拠の吟味」を振り返らせる。 根拠を考えさせる際は、観点ごとに分析した表を活用させる。根拠となる事実は自宅で調べさせるなどして、次時までに入力してこよう指示する。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題を決め、観点で分析する。 分析したものを見せ合い、助言し合う。 <ul style="list-style-type: none"> 課題について自分の立場を決め、ワークシートに書く。 評価 課題に対する自分の立場を明確にしている。（ワークシート）
終 2分	⑤ 本時のまとめと次時の予告をする。 「本時の振り返りを書きましょう。」 「次の時間は、反論とそれに対する意見を考え、構成の仕方を学習します。」	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価と感想を記入する。 次時の見通しを持つ。

指導のポイント

意見文はテーマ（課題）決めでその後の学習が決まるといってもよい。意見を述べるに足るテーマを探すことができれば、根拠も反論も考えることは難しくない。環境問題などはテーマとしてとっつきやすいように思えるが、具体的に地域で問題になっているようなものがない場合、漠然とした内容になってしまう。できるだけニュースなどをチェックして教師がテーマ候補を用意しておく必要がある。

板書例

① 題材名「根拠の適切さを考えて書こう」を黒板に書く。

② 本時の目標を確認させる。
・「意見文の課題と、自分の立場を決めよう。」
・ワークシートを配付する。

③ 課題を決めさせ、分析させる。

根拠の適切さを考えて書こう

意見文の課題と、自分の立場を決めよう。

○地域や社会全体で話題になっていることや、問題を感じていることから課題を決めよう。

○課題について、観点ごとに長所と短所を整理しよう。

○立場を決め、意見を支える根拠を考えよう。

○学習を振り返る。

④ 課題について立場を決めさせ、意見を支える根拠を考えさせる。

⑤ 本時のまとめと次時の予告をする。
・「本時の振り返りを書きましょう。」
「次の時間は反論とそれに対する意見を考え、構成の仕方を学習します。」

4 4

題材名 「根拠の適切さを考えて書こう」②（第2時／全3時間）

目標 適切さを考えて説明や具体例を加えたり，表現の効果を考えて描写したりするなど，自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。

領域名 B 書くこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 5分	① 題材名「根拠の適切さを考えて書こう」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">反論を想定し、構成を考えよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートを配付する。 声を合わせて読ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の目標を知る。 声を合わせて目標を読む。
展開 38分	③ 反論を想定させて、それに対する意見を考えさせる。 <ul style="list-style-type: none"> 反論を組み込むことで文章に説得力が増すことを理解させる。 反論を考えさせる際は、前時の分析から逆の立場の根拠となる観点を探させるとよい。 ④ P.136「構成のしかた」「構成メモ」を参考に，意見と根拠，反論に対する意見を書く順序を考えさせ、構成メモを作らせる。 <ul style="list-style-type: none"> 3つの型を確認するが、今回は双括型で書くよう指示する。 	<ul style="list-style-type: none"> 反論と、それに対する意見を考え、ワークシートに書く。 評価 根拠となる事実を具体的に示したり，想定される反論に対する意見を示したりしている。（ワークシート） <ul style="list-style-type: none"> 意見文の構成を確認し、双括型で構成メモを作る。
終 2分	⑤ 本時のまとめと次時の予告をする。 「本時の振り返りを書きましょう。」 「次の時間は、意見文を書きます。」	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価と感想を記入する。 次時の見通しを持つ。

指導のポイント

反論を考えることは、自分とは反対の立場に立って考えることである。中学生にとっては難しい作業であるが、自分の考えを客観的にとらえる練習になるので、丁寧に指導したい。前時に作成した観点での分析表が考える手助けとなる。それでも難しい場合は、他の生徒に反論してもらおうのもよいだろう。

板書例

① 題材名「根拠の適切さを考えて書こう」を黒板に書く。

② 本時の目標を確認させる。
・「反論を想定し、構成を考えよう。」
・ワークシートを配付する。

③ 反論を想定させて、それに対する意見を考えさせる。

根拠の適切さを考えて書こう

反論を想定し、構成を考えよう。

○反論を組み込むことで説得力アップ！

- ・自分とは反対の立場に立って考えよう。
- ・前回作った分析の表を参考にするとよい。

○意見文の構成

- ・頭括型: 意見 ↓ 根拠
- ・尾括型: 根拠 ↓ 意見

○双括型: 意見 ↓ 根拠 ↓ 意見のまとめ

○構成メモを作ろう。

○学習を振り返る。

④ P.136「構成のしかた」「構成メモ」を参考に、意見と根拠、反論に対する意見を書く順序を考えさせ、構成メモを作らせる。

⑤ 本時のまとめと次時の予告をする。
・「本時の振り返りを書きましょう。」
「次の時間は意見文を書きます。」

45

題材名 「根拠の適切さを考えて書こう」③（第3時／全3時間）

目標 適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。

領域名 B 書くこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 5分	① 題材名「根拠の適切さを考えて書こう」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">意見文を書こう。</div> ・声を合わせて読ませる。	・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。
展開 38分	③ P.136「明確な意見文を書くには」を読ませ、意見文のポイントを確認させる。 ・「自分の立場（意見）を明確にする、適切な根拠を挙げる、反論とそれに対する意見を示す、双括型で書く」の4点を守るよう伝える。 ◎？ ④ P.136「意見文の例」を参考に、400字詰め原稿用紙1～2枚で意見文を書かせる。 ・原稿用紙を配付する。 ・題名は最後に書かせる。 ・常体（文末は「だ・である」）で書かせる。 ・教科書では600～800字とあるが、時間の都合上詳細な字数は設定しないほうがよいと思われる。	・意見文を書くためのポイントを確認する。 ・例を参考にしながら、意見文を書く。 評価 根拠となる事実を具体的に示したり、想定される反論に対する意見を示したりして意見文を書いている。（意見文）
終 2分	⑤ 本時のまとめと次時の予告をする。 「本時の振り返りを書きましょう。」 「次の時間は、漢字に親しもう4を学習します。」	・自己評価と感想を記入する。 ・次時の見通しを持つ。

指導のポイント

3時間という時数では書いた意見文を読み合うことはできないが、せつかくの作品を書くだけで終わってしまうのはもったいない。後日印刷して配布するなどしてお互いの考えたことを交流することができるようにしたい。中学生はお互いの作文を読み合うことにとっても意欲的である。そこから学ぶことは多いだろう。

板書例

① 題材名「根拠の適切さを考えて書こう」を黒板に書く。

② 本時の目標を確認させる。
・「意見文を書こう。」
・ワークシートを配付する。

③ P.136「明確な意見文を書くには」を読ませ、意見文のポイントを確認させる。

根拠の適切さを考えて書こう

意見文を書こう。

○今回の意見文のポイントをおさらい！

・自分の立場（意見）を明確にする。

・適切な根拠を挙げる。

・反論とそれに対する意見を示す。

・双括型で書く。

○意見文を400字詰め原稿用紙1〜2枚で書こう。

○学習を振り返る。

④ P.136「意見文の例」を参考に、400字詰め原稿用紙1〜2枚で意見文を書かせる。

⑤ 本時のまとめと次時の予告をする。
・「本時の振り返りを書きましょう。」
「次の時間は漢字に親しもう4を学習します。」

46

題材名 「漢字に親しもう4」（第1時／全1時間）
目標 漢字を文や文章の中で読んだり書いたりすることができる。
領域名 言葉

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導 入 5 分	① 題材名「漢字に親しもう4」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 新出漢字や音訓をマスターしよう </div> ・ワークシートを配付する。 ・声を合わせて読ませる。	・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。
展 開 38 分	③ 新出漢字を確認させる。 ・P.307-308を見させながら、教師の後に続いて漢字の読みを復唱させる。 ④ P.138の問題に取り組ませる。 ・教科書に直接書き込ませる。 ・時間に余裕があれば、指名して答えさせていくとよい。 ・国語辞典があれば、意味を調べさせてもよい。 【解答は別紙】 ⑤ P-251「小学校六年生で学習した漢字」に取り組ませる。 ・ 【解答は別紙】	・教師のあとに続いて復唱する。 ・教科書に直接漢字の読みを書き込む。 ・ワークシートに問題番号と解答を書き込む。 評価 文や文章の中で漢字を読んだり書いたりできた。（ワークシート）
終 2 分	⑥ 本時のまとめと次時の予告をする。 「本時の振り返りを書きましょう。」 「次の時間は討論の学習をします。」	・自己評価と感想を記入する。 ・次時の見通しを持つ。

板書例

① 題材名「漢字に親しもう4」を黒板に書く。

② 本時の目標を確認させる。
・「新出漢字や音訓をマスターしよう。」
・ワークシートを配付し、確認させる。

④ P.138の問題に取り組ませる。
・教科書に直接書き込ませる。

漢字に親しもう4

新出漢字や音訓をマスターしよう

○ 138ページの練習問題に取り組む。

※解答は別紙を参照

○ 251ページ「小学校六年生で学習した漢字」に取り組む。

※解答は別紙を参照

○ 学習を振り返る。

⑤ P. 251「小学校六年生で学習した漢字」に取り組ませる。
・ワークシートに書き込ませる。

⑦ 本時のまとめと次時の予告をする。
・「本時の振り返りを書きましょう。」
「次の時間は討論の学習をします。」

47

題材名 「異なる立場から考える」（第1時／全1時間）

目標 互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめることができる。

領域名 A 話すこと・聞くこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 5分	① 題材名「異なる立場から考える」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px auto; width: 40%;">異なる立場から考えよう。</div> ・ワークシートを配付する。 ・声を合わせて読ませる。	・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。
展開 38分	③ 教科書を開く前にテーマを提示し、賛成か反対か、自分の立場を述べさせる。 ④ テーマに沿って集められた①～⑧の事実を読ませ、自分ならどの事実を根拠にしてどのような意見を述べるか考えさせる。 ⑤ 賛成・反対それぞれの立場の人が、①～⑧を基にどんな意見を述べるのかを考えさせる。 ・自分とは逆の立場で、①～⑧の事実を基にして意見を考えさせる。 ・一つの情報が、賛成・反対どちらの根拠にもなり得ることを理解させる。 ・同じ観点でも、根拠とする情報により異なる意見になり得ることを理解させる。 ・時間に余裕があれば、例で示された⑥以外の情報（事実）を根拠にして、賛成・反対両方の意見を考えさせてもよい。	・自分の立場を決める。 ・教科書の事実から自分の意見の根拠となるものを選ぶ。 ・自分とは逆の立場で、①～⑧の事実を基にして意見を考え、ワークシートに書く。 ・考えたことを交流する。 評価 同じ情報を基にしたたり、同じ観点で考えたりしても、立場によって異なる意見になり得ることに気づいている。（ワークシート）
終 2分	⑥ 本時のまとめと次時の予告をする。 「本時の振り返りを書きましょう。」 「次の時間は討論の学習をします。今回のテーマで討論を行いますので、根拠となるものを探しておきましょう。」	・自己評価と感想を記入する。 ・次時の見通しを持つ。

指導のポイント

書くと話すで領域は異なるが、反対の立場から考えるという点で、意見文で学習したことが生かせるはずである。活動⑤の段階で振り返らせるとよい。次の討論の時数が少ないため、今回考えたことをそのまま次の学習に生かすようにする。

板書例

① 題材名「異なる立場から考える」を黒板に書く。

② 本時の目標を確認させる。
・「異なる立場から考えよう。」
・ワークシートを配付する。

③ 教科書を開く前にテーマを提示し、賛成か反対か、自分の立場を述べさせる。

④ テーマに沿って集められた①～⑧の事実を読ませ、自分な
らどの事実を根拠にしてどのような意見を述べるか考えさ
せる。

異なる立場から考える

異なる立場から考えよう。

「中学生にスマートフォンは必要か。」

○自分が根拠にする事実は何れ？

賛成

① ネットで調べ物ができて便利だから。

③ 緊急事態になっても対応できて安心だから。

反対

⑤ 持っている人が多いほど、トラブルも増えるから。

② 授業中でも使ってしまう人が出てきそうだから。

○自分とは逆の立場で考えてみよう。

○⑥のように、同じ情報から両方の意見を述べることはでき
るだろうか。

② 賛成：急な予定変更に対応できるから。

反対：夜間や早朝などにメールをして自分や友達の生
活リズムを乱すかもしれないから。

○学習を振り返る。

⑤ 賛成・反対それぞれの立場の人が、①～⑧を基にどんな意見を述
べるのかを考えさせる。

⑥ 本時のまとめと次時の予告をする。

・「本時の振り返りを書きましょう。」

「次の時間は討論の学習をします。以前意見文の学習でもしたように、地域や
社会で話題になっていることや、問題だと感じていることを考えてきましょ
う。」

48

題材名 「立場を尊重して話し合おう」（第1時／全2時間）
目標 異なる立場や考えを想定しながら集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討することができる。
領域名 A 話すこと・聞くこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 5分	① 題材名「立場を尊重して話し合おう」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">自分の立場を決め、考えをまとめよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートを配付する。 声を合わせて読ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の目標を知る。 声を合わせて目標を読む。
展開 38分	③ 討論のテーマ「中学生にスマートフォンは必要か。」を確認させ、自分の立場を決めさせ、意見と根拠をまとめさせる。 <ul style="list-style-type: none"> 立場を決めさせた段階で人数を確認させ、賛成反対が同じくらいの人数になるように調整する。一グループが最大7名（司会1賛成3反対3）とし、クラスの人数に合わせてグループを作らせる。 前時のワークシートや調べてきたことを踏まえさせて、自分の立場を決めさせる。 P.132「根拠の吟味」を振り返らせ、意見と根拠のつながりを明確にさせる。 ④ 異なる立場の人の考えを予想させ、それに対する答えを考えさせる。 <ul style="list-style-type: none"> P.134「根拠の適切さを考えて書こう」P.139「異なる立場から考える」を振り返らせる。 ⑤ P.142「討論をする」を読ませ、討論の流れや意見の伝え方、質問の仕方を捉えさせる。 <ul style="list-style-type: none"> 時間があれば、発言の練習をさせる。その間に、司会生徒に討論の進め方を指導しておけるとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の立場を決め、意見と根拠をまとめワークシートに書く。 <p>評価 異なる立場の人の考えを予想しながら考えをまとめている。（ワークシート）</p> <ul style="list-style-type: none"> 逆の立場の人の意見と、それに対する意見を考え、ワークシートに書く。 討論の仕方を知り、発表の練習をする。
終 2分	⑥ 本時のまとめと次時の予告をする。 「本時の振り返りを書きましょう。」 「次の時間は実際に討論を行います。」	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価と感想を記入する。 次時の見通しを持つ。

指導のポイント

討論は司会が難しい。司会のやり方を事前に指導しておくことが討論成功の秘訣である。授業時間内が難しければ、放課後や休み時間などに司会生徒を呼び集めて指導をしておくとうい。

板書例

① 題材名「立場を尊重して話し合おう」を黒板に書く。

② 本時の目標を確認させる。
・「自分の立場を決め、考えをまとめよう。」
・ワークシートを配付する。

③ 討論のテーマ「中学生にスマートフォンは必要か。」を確認させ、自分の立場を決めさせ、意見と根拠をまとめさせる。

④ 異なる立場の人の考えを予想させ、それに対する答えを考えさせる。

立場を尊重して話し合おう

自分の立場を決め、考えをまとめよう。

「中学生にスマートフォンは必要か。」

○自分の立場を決め、考えをまとめよう。

○異なる立場の考えを予想し、それに対する答えを考えよう。
(質問も考えておくとよい)

○142ページを読み、討論の仕方を確認しよう。

- 1 テーマを確認し、一人ずつ意見を述べる。
- 2 立場を意識して、討論する。
- 3 一人ずつまとめの発言をし、司会が結論をまとめる

○学習を振り返る。

⑤ P.142「討論をする」を読ませ、討論の流れや意見の伝え方、質問の仕方を捉えさせる。

⑥ 本時のまとめと次時の予告をする。
・「本時の振り返りを書きましょう。」
「次の時間は討論の学習をします。以前意見文の学習でもしたように、地域や社会で話題になっていることや、問題だと感じていることを考えてきましょう。」

49

題材名 「立場を尊重して話し合おう」（第2時／全2時間）

目標 互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめることができる。

領域名 A 話すこと・聞くこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 5分	① 題材名「立場を尊重して話し合おう」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">相手の立場を尊重しながら討論をしよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートを配付する。 声を合わせて読ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の目標を知る。 声を合わせて目標を読む。
展開 38分	③ P.143「異なる立場の人と話し合うときには」、「討論メモの例」を確認させ、討論の心構えをさせる。 <ul style="list-style-type: none"> 相手の立場を尊重させながら話し合うための言葉を与える。「確かに～、ですが…」 「その点については私も同感です。しかし…」 ※ <u>チームで勝ち負けを決めるものではない</u> ことを強調しておく。 ④ グループで討論をさせる。 <ul style="list-style-type: none"> 生徒の実態に応じて、15～20分で討論を実施させる。 机間指導を行い、討論が停滞しているグループに適宜助言する。 ⑤ 各グループの司会者から討論のまとめを報告させる。 <ul style="list-style-type: none"> 話し合いの論点を示させ、説得力のある根拠を述べていた人や、共通点や相違点を整理していた人などを紹介させる。また、最終的に各自の意見がどのように変化したかも取り上げられるとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の立場を決め、意見と根拠をまとめワークシートに書く。 評価 互いの意見の共通点や相違点、話し合いの論点を踏まえて話している。（観察・ワークシート） <ul style="list-style-type: none"> 論点を踏まえ、相手の立場を尊重しながら討論を行う。 討論の仕方を知り、発表の練習をする。
終 2分	⑥ 本時のまとめと次時の予告をする。 「本時の振り返りを書きましょう。」 「次の時間は「月夜の浜辺」を学習します。」	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価と感想を記入する。 次時の見通しを持つ。

板書例

① 題材名「立場を尊重して話し合おう」を黒板に書く。

② 本時の目標を確認させる。
・「相手の立場を尊重しながら討論をしよう。」
・ワークシートを配付する。

③ P.143「異なる立場の人と話し合うときには」、「討論メモの例」を確認させ、
討論の心構えをさせる。

④ グループで討論をさせる。

立場を尊重して話し合おう

相手の立場を尊重しながら討論をしよう。

「中学生にスマートフォンは必要か。」

・相手がどのような根拠を基に意見を述べているのかに
注意して聞く。

・共通点や相違点、話合いの論点を踏まえて発言する。

・相手の立場を尊重して発言する。

「確かに。ですが…」

「その点については私も同感です。しかし…」など

○学習を振り返る。

⑤ 各グループの司会者から討論のまとめを報告させる。

⑥ 本時のまとめと次時の予告をする。
・「本時の振り返りを書きましょう。」
「次の時間は「月夜の浜辺」を学習します。」

50

題材名 「音読を楽しもう 月夜の浜辺」 (第1時/全1時間)

目標 詩の構成や表現の効果について考えることができる。

領域名 C 読むこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入	① 題材名「月夜の浜辺 中原中也」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。	
5分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">表現を味わいながら詩を音読しよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートを配付する。 声を合わせて読ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の目標を知る。 声を合わせて目標を読む。
展開	③ 全文を通読させる。 <ul style="list-style-type: none"> 新出漢字を確認させる。 「忍びず」「袂」「沁みる」などの語句の意味を確認させる。 ④ 詩を声に出して読ませ、感想を交流させる。 <ul style="list-style-type: none"> 初めは全員で声を揃えて、次は一行ずつ、最後は個人で読ませる。 読んでみて感じたことを発表させる。 ⑤ 表現に着目させ、その効果について考えさせる。 <ul style="list-style-type: none"> 反復表現や対句表現、反語表現に着目させ、詩の情景や作者の心情を想像させる。 「第1連と第3連の反復表現から、どんな情景がイメージできますか？」 「「どうしてそれが、捨てられようか？」とは、「捨てられるはずがない。」ということを表す反語表現です。なぜ、僕はボタンを捨てられなかったのでしょうか？僕の心情を想像してみましょう。」 ⑥ 言葉の響きやリズムを味わわせながら朗読させる。 <ul style="list-style-type: none"> 七音の繰り返しのリズムや反復の効果味わわせ、情景や心情を想像しながら読ませる。 ペアで朗読を聞き合わせてもよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師の範読を聞く。新出漢字と語句の意味を確認する。 全文を音読し、感じたことや気付いたことをワークシートに書き、交流する。 表現に着目し、その効果について考え、ワークシートに書く。 評価 詩の中の反復表現、対句表現、反語表現に着目し、その効果を考えている。(観察・ワークシート) <ul style="list-style-type: none"> 言葉の響きやリズムを味わい、情景や作者の心情を想像しながら詩を朗読する。
終分	⑦ 本時のまとめと次時の予告をする。 「本時の振り返りを書きましょう。」 「次の時間は「平家物語」を学習します。」	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価と感想を記入する。 次時の見通しを持つ。

指導のポイント

表現の効果を考えるのが目的ではあるが、それぞれのイメージを大切に「音読を楽しもう！」という気持ちで授業に臨むとよい。最後に全体で朗読を発表し合えるのが理想である。

板書例

① 題材名「月夜の浜辺 中原中也」を黒板に書く。

② 本時の目標を確認させる。
・「表現を味わいながら詩を音読しよう。」
・ワークシートを配付する。

③ 全文を通読させる。
④ 詩を声に出して読ませ、感想を交流させる。
・初めは全員で声を揃えて、次は一行ずつ、最後は個人で読ませる。
・読んでみて感じたことを発表させる。

⑤ 表現に着目させ、その効果について考えさせる。

○学習を振り返る。

・自分とボタンが似ているような気がしたから。
・ボタンが寂しそうに感じられたから。

○なぜ「僕」はボタンが捨てられないのか。
・ボタンの美しさが心にしみたから。

・聞こえるのは波の音だけで寂しい感じ。
・ボタンがキラキラ輝いている。
・月夜に一人で浜辺を歩いている。

○どんな情景がイメージされるか。

・リズムが良い
・同じ表現が繰り返されている。
・捨てられようか？とはどういう意味か。
・なぜ四連の三、四行目は二文字下がっているのか。
・なんだか寂しい感じがする。

○読んでみての感想

表現を味わいながら詩を音読しよう。

月夜の浜辺 中原中也

⑥ 言葉の響きやリズムを味わわせながら朗読させる。

⑦ 本時のまとめと次時の予告をする。
・「本時の振り返りを書きましょう。」
・「次の時間は「平家物語」を学習します。」

51

題材名 「音読を楽しもう 平家物語」(第1時/全1時間)

目標 作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しむことができる。

領域名 言語文化

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入	① 題材名「平家物語」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。	
5分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">リズムを味わいながら、平家物語の冒頭部分を朗読しよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートを配付する。 声を合わせて読ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の目標を知る。 声を合わせて目標を読む。
展開	③ 「平家物語」について理解させる。 <ul style="list-style-type: none"> 「源氏と平家」の資料を用いて「平家物語」の主要な人物や主な戦いについて説明する。 「平家物語」の概要と文章の特徴を説明する。 ④ 冒頭部分を音読させ、独特の調子とリズム、言葉の響きを味わわせる。 <ul style="list-style-type: none"> まず一度教師が範読し、その後句読点で句切れさせながら教師に続いて音読させる。 ○歴史的仮名遣いに注意して正しく読めるよう丁寧に指導する。 ⑤ 冒頭部分の現代語訳を読ませ、「平家物語」を貫く「無常観」のイメージを理解させる。 <ul style="list-style-type: none"> 「諸行無常」「盛者必衰」の語に注目させる。 ⑥ 作品を貫く「無常観」と重ねて冒頭部分を朗読させる。 <ul style="list-style-type: none"> 暗唱にチャレンジさせると、生徒の意欲を喚起できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師の説明を聞き、平家物語の概要を理解する。 全文を音読し、独特の調子とリズムを味わう。 「無常観」についてワークシートにまとめる。 訳をイメージしながら冒頭部分をリズムよく朗読する。 評価 漢語を交えた独特の調子とリズムを捉えて朗読している。(観察)
終	⑦ 本時のまとめと次時の予告をする。 「本時の振り返りを書きましょう。」 「次の時間は「扇の的」を学習します。」	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価と感想を記入する。 次時の見通しを持つ。

指導のポイント

有名な「源義経」あたりから導入に入ると生徒も興味をもちやすい。NHK for Schoolで琵琶法師が語る様子を少し見せてもよい。漢語を交えることで長音や促音、拗音などが入り、独特の調子が生まれることを、音読を通して実感させたい。また、歴史的仮名遣いに慣れさせるためにも、音読の時間をできるだけ確保したい。

板書例

① 題材名「平家物語」を黒板に書く。

② 本時の目標を確認させる。
・「リズムを味わいながら、平家物語の冒頭部分を朗読しよう。」
・ワークシートを配付する。

③ 「平家物語」について理解させる。

④ 冒頭部分を音読させ、独特の調子とリズム、言葉の響きを味わわせる。

⑤ 冒頭部分の現代語訳を読ませ、「平家物語」を貫く「無常観」のイメージを理解させる。

平家物語

リズムを味わいながら、平家物語の冒頭部分を朗読しよう。

「平家物語」

- ・鎌倉時代に成立。作者は信濃前司行長といわれる。
- ・平家一門の興亡を描いた軍記物語。
- ・琵琶法師によって広められた。
- ・漢語を交えた独特の調子とリズムが特徴
- ・「無常観」が作品のテーマとなっている。

「無常観」：世の中に永遠に変わらないものはない、
という考え方。

「諸行無常」「盛者必衰」

○「無常観」をイメージしながら冒頭部分を朗読しよう。

※できたら暗唱にチャレンジ！

○学習を振り返る。

⑥ 作品を貫く「無常観」と重ねて冒頭部分を朗読させる。

⑦ 本時のまとめと次時の予告をする。
・「本時の振り返りを書きましょう。」
「次の時間は「扇の的」を学習します。」

5 2

題材名 「扇の的」①（第1時／全2時間）

目標 作品の特徴を生かして朗読し、古典の世界に親しむことができる。

領域名 言語文化 C 読むこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 5分	<p>① 題材名「扇の的」を黒板に書く。</p> <p>② 本時の目標を黒板に書く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">リズムに注意して音読し、あらすじをとらえよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートを配付し、書き込ませる。 声を合わせて読ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の目標を知る。 声を合わせて目標を読む。
展開 38分	<p>③ 与一が的を射るまでの経緯を確認させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 現代文をもとに、ワークシートにまとめさせる。 確認しながら、簡単に板書する。 <p>④ 音読の練習をさせる。</p> <p>「少しずつ区切って読むので、後に続けて音読しよう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> 少しずつ読ませ、続いて生徒に音読させる。 歴史的仮名遣いの読みに注意させる。 ペアにし、句点までの区切りで、順番に音読させる。 全文を一人で音読させる。 <p>⑤ 現代語訳を参考に、全体のあらすじをとらえさせる。</p> <p>「教科書の資料や現代語訳、語注を参考に、全体のあらすじをまとめよう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートにまとめさせる。 何人かに分けて発表させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 現代文をもとに、「扇の的」に至る経緯をまとめる。 追い読み、まる読み、全文読みで、独特のリズムを感じながら音読する。 教科書の資料などを参考に、全体のあらすじをワークシートにまとめる。 <p>評価 現代語訳を手掛かりに、あらすじをまとめている。（ワークシート）</p>
終 2分	<p>⑥ 本時のまとめと次時の予告をする。</p> <p>「学習目標を確認し、ノートに本時の振り返りを書こう。」</p> <p>「次の時間は、物語に描かれているものの見方について、考えていきます。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価や感想を記入する。 次時の見通しを持つ。

板書例

① 題材名「扇の的」を黒板に書く。

② 本時の目標を確認させる。
・「リズムに注意して音読し、あらすじをとらえよう。」
・ワークシートを配付し、書き込ませる。

③ 与一が的を射るまでの経緯を確認させる。
・現代文をもとに、ワークシートにまとめさせる。
・確認させながら、簡単に板書する。

④ 音読の練習をさせる。
「少しずつ区切って読むので、後に続けて音読しよう。」
・少しずつ読ませ、続いて生徒に音読させる。
・歴史的仮名遣いの読みに注意させる。
・ペアになり、句点までの区切りで、順番に音読させる。
・全文を一人で音読させる。

扇の的

リズムに注意して音読し、あらすじをとらえよう。

平家物語 ↓ 平家一門が栄え、源氏に滅ぼされるまでを描いた軍記物語。

← 源頼朝が伊豆で旗揚げ。平家に戦を仕掛けていく。

← 平家は京の都を捨てて、西へ逃げていく。

← 平家は一の谷に陣を構えるが、敗戦。

← 平家は屋島に逃げるが、義経が奇襲する。

← 平家は舟で海上に逃れ、陸には源氏がいる。

← 平家は舟に扇をつけた竿を立て、「射てみる」と挑発した。

← 義経は与一に的を射るよう命じた。

↓ **「扇の的」の場面に続く。**

☆リズムを意識して音読しよう

【あらすじをとらえよう】
「誰が」「何をした」かに注目しよう！

⑤ 現代語訳を参考に、全体のあらすじをとらえさせる。
「教科書の資料や現代語訳、語注を参考に、全体のあらすじをまとめよう。」
・ワークシートにまとめさせる。
・何人かに分けて発表させる。

⑥ 本時のまとめと次時の予告をする。
・「本時の振り返りを書こう。」
「次の時間は、物語に描かれているものの見方について、考えていきます。」

53

題材名 「扇の的」②（第2時／全2時間）

目標 現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知らることができる。

領域名 言語文化 C 読むこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 5分	① 題材名「扇の的」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">物語に描かれるものの見方や考え方について考えよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを配付し、書き込ませる。 ・声を合わせて読ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。
展開 38分	③ 原文を音読させる。 「登場人物の心情を考えながら、音読しよう。」 <ul style="list-style-type: none"> ・個人やペアで音読させる。 ④ 「年五十ばかりなる男」が舞った理由、男を射たときの与一の心情、「あ、射たり。」と言った者と「情けなし。」と言った者の心情を考えさせる。 「戦いの中で、様々な立場の人物が、それぞれに言葉を発したり、行動したりしています。そのときの心情を考えてみよう。」 <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートにまとめさせる。 ・何人かに発表させ、簡単に板書する。 ⑤ 与一が「年五十ばかりなる男」を射たことについて自分はどう考えるか、まとめさせる。 「先ほどまでに考えた、物語中の人物の心情等もふまえた上で、自分は与一が舞う男を射たことについてどう思うか、考えをまとめてみよう。」 <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートにまとめさせる。 ・小グループで交流させてから、いくつか全体に発表させる。 ・質問や意見等を出させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の心情を考えながら原文を音読する。 ・物語の登場人物の心情を、ワークシートにまとめる。 ・与一の行動に対する自身の考えを、ワークシートにまとめる。 ・意見を小グループで交流する。 ・自分の考えを、全体に発表する。 <p>評価 自分の意見を、根拠をもってまとめている。（ワークシート）</p>
終 2分	⑥ 本時のまとめと次時の予告をする。 「学習目標を確認し、ノートに本時の振り返りを書こう。」	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価や感想を記入する。

板書例

① 題材名「扇の的」を黒板に書く。

② 本時の目標を確認させる。
 ・「物語に描かれるものの見方や考え方について考えよう。」
 ・ワークシートを配付し、書き込ませる。

④ 「年五十ばかりなる男」が舞った理由、男を射たときの与一の心情、「あ、射たり。」と言った者と「情けなし。」と言った者の心情を考えさせる。
 「戦いの中で、様々な立場の人物が、それぞれに言葉を発したり、行動したりしています。そのときの心情を考えてみよう。」
 ・ワークシートにまとめさせる。
 ・何人かに発表させ、簡単に板書する。

	「情けなし。」	「あ、射たり。」	男を射た与一	舞ったときの男	登場人物の心情	扇の的 物語に描かれるものの見方や考え方について考えよう
☆登場人物たちの状況や心情もふまえてみよう。	与一が舞っている男を射たことに対する自分の考えを書こう。					

⑤ 与一が「年五十ばかりなる男」を射たことについて自分はどうか考えるか、まとめさせる。
 「先ほどまでに考えた、物語中の人物の心情等もふまえた上で、自分は与一が舞う男を射たことについてどう思うか、考えをまとめてみよう。」
 ・ワークシートにまとめさせる。
 ・小グループで交流させてから、いくつか全体に発表させる。
 ・質問や意見等を出させる。

⑦ 本時のまとめと次時の予告をする。
 ・「本時の振り返りを書こう。」

54

題材名 「仁和寺にある法師」①（第1時／全2時間）

目標 現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知ることができる。

領域名 言語文化 B 書くこと C 読むこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 5分	① 題材名「仁和寺にある法師 兼好法師」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">作者のものの見方や考え方について考えよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートを配付し、書き込ませる。 声を合わせて読ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の目標を知る。 声を合わせて目標を読む。
展開 38分	③ 「序段」を音読させ、内容を確認させる。 <ul style="list-style-type: none"> 追い読みで音読させ、読み方を確認させる。 ペアで音読させてから話し合わせ、内容を確認させる。 ④ 「徒然草」についての情報を確認させる。 <ul style="list-style-type: none"> 随筆という分類の文章であることを確認させる。 日本の古典文学における三大随筆の一つであることを確認させる。 書かれた時代や作者について確認させる。 簡単に板書する。 ⑤ 「仁和寺にある法師」を音読させ、現代語訳を参考に、全体のあらすじをとらえさせる。 <p>「仁和寺にある法師」の本文を音読しよう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> 追い読みで音読させ、読み方を確認させる。 ペアで音読させる。 <p>「教科書の現代語訳、語注を参考に、全体のあらすじをまとめよう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートにまとめさせる。 ⑥ 仁和寺の法師の言動に対する、作者の考え方について考えさせる。 <p>「最後の一文からは、作者のどのような思いが読み取れるか、考えてまとめてみよう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートにまとめさせる。 小グループや全体に向けて発表させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 追い読み、まる読みなどで、原文のリズムを感じながら音読する。 徒然草に関する情報を、確認する。 追い読み、まる読みなどで、原文のリズムを感じながら音読する。 現代語訳を手掛かりに、あらすじをワークシートにまとめる。 最後の一文から読み取れる作者の考えについて考え、まとめる。 <p>評価 仁和寺の法師の話をもとに、兼好法師の考え方について考えている。（ワークシート）</p>
終 2分	⑦ 本時のまとめと次時の予告をする。 <p>「学習目標を確認し、ノートに本時の振り返りを書こう。」</p> <p>「次の時間は、これまで読んだ古典の中の人物について、自分の考えをまとめていきます。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価や感想を記入する。 次時の見通しを持つ。

板書例

① 題材名「仁和寺にある法師 兼好法師」を黒板に書く。

- ② 本時の目標を確認させる。
- ・「作者のものの見方や考え方について考えよう。」
 - ・ワークシートを配付し、書き込ませる。

- ④ 「徒然草」についての情報を確認させる。
- ・随筆という分類の文章であることを確認させる。
 - ・日本の古典文学における三大随筆の一つであることを確認させる。
 - ・書かれた時代や作者について確認させる。
 - ・簡単に板書する。

仁和寺にある法師 兼好法師

作者のものの見方や考え方について考えよう。

徒然草…日本古典文学の「三大随筆」の一つ

↓「枕草子」「方丈記」「徒然草」

ジャンル…随筆。とりとめない作者の思いや考えを表す。

書かれた時期…鎌倉時代後半～南北朝時代

☆「仁和寺にある法師」のあらすじをとらえよう

↓「誰が」「何をした」かに注目しよう！

☆最後の一文から、作者の考え方を読み取ろう。

- ⑥ 仁和寺の法師の言動に対する、作者の考え方について考えさせる。
- 「最後の一文からは、作者のどのような思いが読み取れるか、考えてまとめてみよう。」
- ・ワークシートにまとめさせる。
 - ・小グループや全体に向けて発表させる。

- ⑦ 本時のまとめと次時の予告をする。
- 「学習目標を確認し、ノートに本時の振り返りを書こう。」
- 「次の時間は、これまで読んだ古典の中の人物について、自分の考えをまとめていきます。」

55

題材名 「人物の特徴を捉えて論じよう」②（第2時／全2時間）

目標 根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。

領域名 言語文化 B 書くこと C 読むこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 5分	① 題材名「人物の特徴を捉えて論じよう」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 古典の登場人物について、自分の考えをまとめよう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートを配付し、書き込ませる。 声を合わせて読ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の目標を知る。 声を合わせて目標を読む。
展開 38分	③ 論じる人物を決めさせる。 「これまで読んだ古典の登場人物から一人を選び、特徴を捉えながら、その人物に対する自身の考えをまとめよう。」 <ul style="list-style-type: none"> 「扇の的」「仁和寺にある法師」を個人で再読させ、論じたい人物を決めさせる。 ④ 論じる人物の特徴を一文で表させるとともに、その根拠となる部分を押さえさせ、書き出させる。 「書きたい人物について、簡潔に表してみよう。」 <ul style="list-style-type: none"> 「〇〇は△△な人物だ。」というようにワークシートに書かせ、その根拠も明確にさせる。 根拠は本文の表現に求めるようにさせる。 ⑤ 三百字程度の文章にまとめさせる。 「構成に注意しながら、選んだ人物について文章にまとめよう。」 <ul style="list-style-type: none"> 人物の特徴→文章から読み取れること→自分の考えや感想、という構成に注意させる。 書きあがった文章を小グループや全体で読みあい、付箋を用いて感想を交流させる 何人か、代表的な人物について論じているものを発表させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「扇の的」、「仁和寺にある法師」を再読し、論じたい人物を決める。 論じたい人物の特徴について、その根拠もあわせ、ワークシートにまとめる。 構成に注意しながら、選んだ人物について三百字程度でまとめる。 <p>評価 構成に注意しながら、選んだ人物について三百字程度でまとめている。 (ワークシート)</p>
終 2分	⑥ 本時のまとめと次時の予告をする。 「学習目標を確認し、ノートに本時の振り返りを書こう。」 「次の時間は、「漢詩の風景」を学習します。」	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価や感想を記入する。

板書例

① 題材名「人物の特徴を捉えて論じよう」を黒板に書く。

② 本時の目標を確認させる。
・「古典の登場人物について、自分の考えをまとめよう。」
・ワークシートを配付し、書き込ませる。

④論じる人物の特徴を一文で表させるとともに、その根拠となる部分を押さえさせ、書き出させる。
「書きたい人物について、簡潔に表してみよう。」
・「○○は△△な人物だ。」というようにワークシートに書かせ、その根拠も明確にさせる。
・根拠は本文の表現に求めるようにさせる。

人物の特徴を捉えて論じよう

古典の登場人物について、自分の考えをまとめよう。

次の①②③をまとめよう。

① 選んだ人物

② 特徴（○○は△△な人物だ。）

③ 「△△な人物だ」の根拠となる表現

☆選んだ人物について、三百字くらいでまとめよう。

【基本的な構成】

人物の特徴

← 文章から読み取れること

← 自分の考えや感想

⑤三百字程度の文章にまとめさせる。
「構成に注意しながら、選んだ人物について文章にまとめよう。」
・人物の特徴→文章から読み取れること→自分の考えや感想、という構成に注意させる。
・書きあがった文章を小グループや全体で読みあわせ、付箋を用いて感想を交流させる
・何人か、代表的な人物について論じているものを発表させる。

⑥ 本時のまとめと次時の予告をする。
・「本時の振り返りを書こう。」
「次の時間は「漢詩の風景」を学習します。」

56

題材名 「漢詩の風景」 (第1時/全2時間)

目標 作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しむことができる。

領域名 言語文化 C 読むこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 5分	① 題材名「漢詩の風景」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">漢詩の特徴を生かして朗読しよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートを配付する。 声を合わせて読ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の目標を知る。 声を合わせて目標を読む。
展開 38分	③ 漢字の読みを確認させる。(12字) <ul style="list-style-type: none"> 教材文の下段に掲載されている熟語の読みを確認させていく。 教師のあとに続いて漢字の読みを復唱させる。 ④ 全文を通読させる。 <ul style="list-style-type: none"> まず教師が範読する。 漢詩を一行ずつ、教師の範読に続いて音読させる。 ペアで一行ずつ交代読みをさせる。 ⑤ 漢詩の基礎知識を理解させる。 <ul style="list-style-type: none"> 返り点、訓読の仕方を振り返らせる。 五言、七言、絶句、律詩について確認する。P.168「律詩について」を読ませる。 対句について説明しておく。 ⑥ 漢詩の特徴を生かして朗読させる。 <ul style="list-style-type: none"> 「花落つること知る多少」「然えんと欲す」「何れの日か是れ帰年ならん」「唯だ見る長江の天際に流るるを」などの表現や調子を生かして読ませる。 練習の後、一人ずつ朗読させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師のあとに続いて復唱する。 繰り返し漢詩を音読し、独特の調子や表現になれる。 漢文の読み方や漢詩の基本的な知識を、ワークシートを用いて確認する。 漢文独特の言葉遣いや調子を生かして朗読する。 評価 漢文特有の言葉遣いや調子を意識して朗読している。 (観察)
終 2分	⑦ 本時のまとめと次時の予告をする。 「本時の振り返りを書きましょう。」 「次の時間は漢詩に描かれた情景や心情を読み取ります。」	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価と感想を記入する。 次時の見通しを持つ。

板書例

① 題材名「漢詩の風景」を黒板に書く。

② 本時の目標を確認させる。
・「漢詩の特徴を生かして朗読しよう。」
・ワークシートを配付する。

④ 全文を通読させる。

⑤ 漢詩の基礎知識を理解させる。

漢詩の風景

漢詩の特徴を生かして朗読しよう。

○漢詩の基礎知識

文の形態

- ・中国語そのまま…白文
- ・日本人が符号をつけたもの…訓読文
- ・日本語の読み方に並べ替えたもの…書き下し文

返り点

レ点

一、二点

種類

一句が五文字…五言 七文字…七言

全体が四句…絶句 八句…律詩

春曉は…五言絶句

○漢詩の特徴を生かして朗読しよう。

○学習を振り返る。

⑥ 漢詩の特徴を生かして朗読させる。

⑦ 本時のまとめと次時の予告をする。
・「本時の振り返りを書きましょう。」
「次の時間は漢詩に描かれた情景や心情を読み取ります。」

57

題材名 「漢詩の風景」②（第2時／全2時間）

目標 観点を明確にして漢詩を比較するなどし、漢詩の構成や表現の効果について考えることができる。

領域名 C 読むこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 5分	① 題材名「漢詩の風景」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">好きな漢詩を紹介し合おう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートを配付する。 声を合わせて読ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の目標を知る。 声を合わせて目標を読む。
展開 38分	③ 解説を手掛かりにして、漢詩を読み味わわせる。 <ul style="list-style-type: none"> 三編の漢詩に読まれている季節や情景、作者の心情を考えさせる。 読み取ったことを踏まえさせて一言感想を書かせる。 ◎ ④ 自分が好きな一編を選ばせ、読み取った情景や心情、感想を発表させる。 <ul style="list-style-type: none"> 気に入った語句や表現も紹介させるとよい。 詩を音読する。 読み取った情景や心情を発表する。 好きな語句や表現を挙げる。 	<ul style="list-style-type: none"> 解説を参考にして、詩の日本語訳を考えてワークシートに書く。 <ul style="list-style-type: none"> 自分の好きな漢詩についての考えを発表する。 友達の発表を聞き、漢詩についての解釈の幅を広げる。 評価 好きな漢詩を選び、気に入った表現や句を引用しながら読み取ったことや感想を伝え合っている。（観察）
終 2分	⑤ 本時のまとめと次時の予告をする。 「本時の振り返りを書きましょう。」 「次の時間は「君は「最後の晚餐」を知っているか」を学習します。」	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価と感想を記入する。 次時の見通しを持つ。

板書例

① 題材名「漢詩の風景」を黒板に書く。

② 本時の目標を確認させる。
・「好きな漢詩を紹介し合おう。」
・ワークシートを配付する。

③ 解説を手掛かりにさせて、漢詩を読み味わわせる。

④ 自分が好きな一編を選ばせ、読み取った情景や心情、感想を発表させる。

漢詩の風景

好きな漢詩を紹介し合おう。

○漢詩を読み味わおう。

- ・教科書の解説文を参考にして現代語訳を作る。
- ・詩の情景や作者の心情を捉える。

○好きな漢詩を紹介し合おう。

- ・詩を音読する。
- ・読み取った情景や心情を発表する。
- ・好きな語句や表現を挙げる。

○学習を振り返る。

⑤ 本時のまとめと次時の予告をする。
・「本時の振り返りを書きましょう。」
「次の時間は「君は「最後の晚餐」を知っているか」を学習します。」

58

題材名 「君は「最後の晚餐」を知っているか」「最後の晚餐」の新しさ①（第1時／全3時間）
目標 意見と根拠，具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。
領域名 情報 C 読むこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入	① 題材名「君は「最後の晚餐」を知っているか 布施英利」を黒板に書く。	
5分	② P.173-174の「最後の晚餐」を見て、感じたことを伝え合わせる。 ・難しい言葉は必要ないので、率直に一言で表現させる。 ③ 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">筆者が「最後の晚餐」を「かっこいい」と思った理由をまとめよう。</div> ・ワークシートを配付する。 ・声を合わせて読ませる。	・「最後の晚餐」について感じたことを一言で表す。 ・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。
展開	④ 漢字の読みを確認させる。（15字） ・教材文の下段に掲載されている熟語の読みを確認させていく。 ・教師のあとに続いて漢字の読みを復唱させる。	・教師のあとに続いて復唱する。
38分	⑤ 教材文を通読させる。 「筆者が、「最後の晚餐」を「かっこいい」と思ったのはなぜでしょう。キーワードに線を引ながら全文を読みましょう。」 ・教師が範読する。生徒には段落番号を振らせる。 ○語句の意味は随時説明を加える。 ・線を引いた箇所を発表させ、板書する。（「解剖学」「遠近法」「明暗法」「絵画の科学」などがでてくると思われる。）	・教師の範読を聞き、キーワードに線を引く。 ・キーワードを発表し合い、ワークシートにメモをする。
	⑥ 筆者が「最後の晚餐」を「かっこいい」と思った理由をまとめさせる。 ・⑩段落「絵画の科学を駆使して表現しようとしたものが、とてもよく見えてくる。」に着目させ、それはどういうことなのかを、本文の言葉を用いてまとめさせる。 ・まとめたものを発表させ、全体で確認する。	・筆者が最後の晚餐をかっこいいと思った理由を考え、ワークシートにまとめる。 評価 筆者が、どのような例示（具体）を基に、「最後の晚餐」を「かっこいい。」（抽象）と述べているのかを理解している。（ワークシート）
2分	⑥ 本時のまとめと次時の予告をする。 「本時の振り返りを書きましょう。」 「次の時間は、『最後の晚餐』の新しさ』を学習します。」	・自己評価と感想を記入する。 ・次時の見通しを持つ。

板書例

- ① 題材名「君は「最後の晚餐」を知っているか 布施英利」を黒板に書く。
- ② P.173-174の「最後の晚餐」を見て、感じたことを伝え合わせる。

- ③ 本時の目標を確認させる。
 - ・「筆者が「最後の晚餐」を「カッコいい」と思った理由をまとめよう。」
 - ・ワークシートを配付し、確認させる。

- ⑤ 教材文を通読させる。
 - ・線を引いた箇所を発表させ、板書する。（「解剖学」「遠近法」「明暗法」「絵画の科学」などがでてくるとされる。）

君は「最後の晚餐」を知っているか 布施英利

筆者が「最後の晚餐」を「カッコいい」と思った理由をまとめよう。

○考えるためのキーワード

- ・解剖学
- ・遠近法
- ・明暗法
- ・絵画の科学
- ・構図
- ・可能性

○筆者が「最後の晚餐」を「カッコいい」と思った理由をまとめよう。

- ・⑱段落「絵画の科学を駆使して表現しようとしたものが、とてもよく見えてくる。」を具体的にまとめてみよう。

○学習を振り返る。

- ⑥ 筆者が「最後の晚餐」を「カッコいい」と感じた理由をまとめさせる。

- ⑦ 本時のまとめと次時の予告をする。
 - ・「本時の振り返りを書きましょう。」
 - ・「次の時間は、『「最後の晚餐」の新しさ』を学習します。」

59

題材名 「君は「最後の晩餐」を知っているか」「最後の晩餐」の新しさ②（第2時／全3時間）
目標 観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えることができる。

領域名 情報 C 読むこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 5分	① 題材名「最後の晩餐」の新しさを黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">文章を比較し、気付いたことを伝え合おう。</div> ・ワークシートを配付する。 ・声を合わせて読ませる。	・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。
展開 38分	③ 教材文を通読させる。 「『君は「最後の晩餐」を知っているか』との共通点や相違点を考えながら、『最後の晩餐』の『新しさ』を読みましよう。」 ・教師が範読する。生徒には段落番号を振らせる。 ④ 観点を決めて、二つの文章を比較させ、それぞれの特徴や共通点、相違点を捉えさせる。 ・P.182「観点を明確にして文章を比較する」を読ませ、観点で比較する方法について理解させる。 ・一人ですべての観点を分析するのは難しいので、グループや個人で観点を分担させる。 ・まとめた内容を全体で発表させる。 ⑤ 文章の構成や表現の特徴について、比較を通して発見したことを発表させる。	・『君は「最後の晩餐」を知っているか』との共通点や相違点を考えながら教師の範読を聞く。 ・観点に沿って文章を比較し、ワークシートに整理する。 ・比較した表を見直し、気付いたことをワークシートに書き、発表し合う。 評価 文章の構成や表現の特徴について、二つの文章を比較して発見したことを発表している。（ワークシート）
終 2分	⑥ 本時のまとめと次時の予告をする。 「本時の振り返りを書きましょう。」 「次の時間は、文章を比較して考えたことをまとめます。」	・自己評価と感想を記入する。 ・次時の見通しを持つ。

板書例

① 題材名「最後の晩餐」の新しさを黒板に書く。

② 本時の目標を確認させる。
 ・「文章を比較し、気付いたことを伝え合おう。」
 ・ワークシートを配付し、確認させる。

③ 教材文を通読させる。

④ 観点を決めて、二つの文章を比較させ、それぞれの特徴や共通点、相違点を捉えさせる。

○学習を振り返る。

比較の観点	君は「最後の晩餐」を知っているか	「最後の晩餐」の新しさ
1 文章の種類	評論	解説
2 テーマ	「最後の晩餐」のかっこよさ	「最後の晩餐」の新しさ
3 取り上げている観点	<ul style="list-style-type: none"> 解剖学 遠近法 明暗法 	<ul style="list-style-type: none"> 絵の構図 人物の頭部の描き方
4 文章の構成	・まず絵に対する評価を述べ、その評価の理由となる観点を順に説明していくという構成。他の作品と比較していない。	・「最後の晩餐」を描いた絵画を成立の古い順に紹介し、それと比較するという構成。
5 表現(述べ方)の特徴	比喻を用いたり、体言止めを用いたりして、印象的な表現をしている。 読者に語りかけている。 「かっこいい」など身近な言葉を用いてわかりやすい。	事実を客観的に述べている。 筆者の感想などは述べられていない。

○二つの文章を比較し、構成や表現の特徴を捉えよう。

「最後の晩餐」の新しさ

文章を比較し、気付いたことを伝え合おう。

○文章の構成や表現の特徴について、比較を通して発見したことを伝え合おう。

⑤ 文章の構成や表現の特徴について、比較を通して発見したことを発表させる。

⑥ 本時のまとめと次時の予告をする。
 ・「本時の振り返りを書きましょう。」
 「次の時間は、文章を比較して考えたことをまとめます。」

60

題材名 「君は「最後の晩餐」を知っているか」「最後の晩餐」の新しさ」③（第3時／全3時間）

目標 目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得て、内容を解釈することができる。

領域名 情報 C 読むこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 5分	① 題材名「君は「最後の晩餐」を知っているか」「最後の晩餐」の新しさを黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 文章が書かれた目的や意図を考えよう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートを配付する。 声を合わせて読ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の目標を知る。 声を合わせて目標を読む。
展開 38分	③ 比較を通して考えさせたことを文章にまとめさせる。 <ul style="list-style-type: none"> 筆者がなぜこのような書き方を選んだのか、目的や意図と結び付けて考えさせる。（評論と解説というジャンルの違いが目的と密接にかかわっていることを確認しておく。） 文章の構成や表現が、文章全体にどのような印象を与えているかを考えさせる。 ④ 書いた文章を発表させ、構成や表現の仕方と筆者の意図のかかわりについての考えを広げさせる。 ⑤ 本文の中から、相手の文章や作品を評価するときに使える言葉を探させ、ワークシートに書かせる。 ※鑑賞文の学習に活用できるので、時間に余裕があれば行うとよい。	<ul style="list-style-type: none"> 前時にまとめた表や、比較して気付いたことを振り返る。 文章が書かれた目的や筆者の意図、構成や表現が文章全体に与える効果について考え、ワークシートにまとめる。 評価 二つの文章に書かれていることを比較したり、関係づけたりしながら、それぞれの文章が書かれた目的や意図を考えている。（ワークシート） <ul style="list-style-type: none"> 書いた文章を発表し合い、自分の考えを広げる。
終 2分	⑥ 本時のまとめと次時の予告をする。 「本時の振り返りを書きましょう。」 「次の時間は、鑑賞文の書き方について学習します。」	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価と感想を記入する。 次時の見通しを持つ。

板書例

① 題材名「君は「最後の晚餐」を知っているか」「最後の晚餐」の新しさを黒板に書く。

② 本時の目標を確認させる。
・「文章が書かれた目的や意図を考えよう。」
・ワークシートを配付し、確認させる。

③ 比較を通して考えたことを文章にまとめさせる。
・筆者がなぜこのような書き方を選んだのか、目的や意図と結び付けて考えさせる。
・文章の構成や表現が、文章全体にどのような印象を与えているかを考えさせる。

「君は「最後の晚餐」を知っているか」
「最後の晚餐」の新しさ

文章が書かれた目的や意図を考えよう。

○二つの文章を比較して考えたことを文章にまとめよう。

・筆者がなぜこのような書き方を選んだのか。
・文章の構成や表現が文章全体にどのような印象を与えているか。

○書いた文章を発表し合おう。

○学習を振り返る。

④ 書いた文章を発表させ、構成や表現の仕方と筆者の意図のかかわりについての考えを広げさせる。

⑥ 本時のまとめと次時の予告をする。
・「本時の振り返りを書きましょう。」
「次の時間は、鑑賞文の書き方について学習します。」

61

題材名 「魅力を効果的に伝えよう」①（第1時／全2時間）

目標 根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。

領域名 言葉 B 書くこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 5分	① 題材名「魅力を効果的に伝えよう 鑑賞文を書く」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin: 10px 0;"> 作品の魅力とその根拠を明らかにしよう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートを配付する。 声を合わせて読ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の目標を知る。 声を合わせて目標を読む。
展開 38分	③ 作品を鑑賞させ、魅力を一文で表させる。 「好きな作品の一つを選んでじっくり鑑賞し、魅力を一文で書きましよう。」 <ul style="list-style-type: none"> 美術室から何枚か作品を借りておく。なければインターネットの画像検索で何作品か紹介できるようにしておく。 作品から一つを選び、5分ほどじっくり鑑賞させ、魅力を一文で書かせる。 P.185「感じたことを表す言葉」を参考にさせるとよい。 ④ 根拠となる具体的な特徴、感じたこと、想像したことを書き出させる。 「魅力の根拠となる特徴や、感じたこと・想像したことをワークシートに書きましよう。」 <ul style="list-style-type: none"> P.185「美術作品を鑑賞するときの観点」に沿って分析させる。 すべての観点を埋めなくともよいことを伝える。 ◎	<ul style="list-style-type: none"> 作品を一つ選び、魅力を一文で書く。 観点に沿って、分析したことや感じたこと・想像したことをワークシートに書く。
終 2分	⑤ 書いた根拠を見直させ、よりよい語句や表現、それらの効果を考えさせる。 「ワークシートに書いた内容が読み手に伝わるように、できるだけ具体的に、印象的に書き換えましよう。」 <ul style="list-style-type: none"> P.184「作品の魅力を効果的に伝えるには」を確認させ、具体的に表現することを意識させる。 ⑥ 本時のまとめと次時の予告をする。 「本時の振り返りを書きましよう。」 「次の時間は、鑑賞文を書いて読み合いをします。」	<ul style="list-style-type: none"> 考えた根拠をより具体的で印象的な表現に書き換える。 自己評価と感想を記入する。 次時の見通しを持つ。

板書例

① 題材名「魅力を効果的に伝えよう 鑑賞文を書く」を黒板に書く。

② 本時の目標を確認させる。
・「作品の魅力とその根拠を明らかにしよう。」
・ワークシートを配付し、確認する。

③ 作品を鑑賞させ、魅力を一文で表させる。

④ 根拠となる具体的な特徴、感じたこと、想像したことを書き出させる。

○学習を振り返る。

○書き出した根拠を、より具体的に印象的な表現に書き換える。

・音（会話）など

・タッチ・匂い

・素材・色彩

・描かれているもの

・構図・配置

○観点に沿って、魅力の根拠となる特徴や感じたこと・想像したことを書く。

芸術作品

芸術作品

○作品を鑑賞し、魅力を一文で表す。

作品の魅力とその根拠を明らかにしよう。

「魅力を効果的に伝えよう 鑑賞文を書く」

⑤ 書いた根拠を見直させ、よりよい語句や表現、それらの効果を考えさせる。

⑥ 本時のまとめと次時の予告をする。
・「本時の振り返りを書きましょう。」
「次の時間は、鑑賞文を書いて読み合いをします。」

62

題材名 「魅力を効果的に伝えよう」②（第2／全2時間）

目標 表現の工夫とその効果などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすことができる。

領域名 言葉 B 書くこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 5分	① 題材名「魅力を効果的に伝えよう 鑑賞文を書く」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">鑑賞文を書き、読み合って意見交換をしよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートを配付する。 声を合わせて読ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の目標を知る。 声を合わせて目標を読む。
展開 38分	③ 鑑賞文を書かせる。 「読み手に魅力が伝わるような鑑賞文を、200字程度で書きましよう。」 <ul style="list-style-type: none"> 魅力一掴（具体的な説明）一まとめ の双括型で書かせる。 ◎? ④ 文章を読み合わさせ、意見交換をさせる。 「同じ作品を選んだ人同士で鑑賞文を読み合い、良い点や改善点をアドバイスし合いましょう。」 <ul style="list-style-type: none"> 同じ作品を選んだ人同士でグループを作らせ、鑑賞文を回し読みさせる。アドバイスは付箋に書かせ、ワークシートの裏に貼らせる。 良い点は青色、改善点は黄色、など色分けして書くと書かれた側もわかりやすい。 作品を知らない人でも魅力を具体的にイメージできるか、作品を見たいと思うような印象的な表現になっているか、を観点として読み合いさせるとよい。 ※時間があれば、他の作品を選んだ人とも交流させられるとよい。	<ul style="list-style-type: none"> 前回のワークシートを基に、双括型の構成で200字程度の鑑賞文を書く。 鑑賞文を読み合い、良い点や改善点をアドバイスし合う。 評価 友達と鑑賞文を読み合い、意見交換をすることで、自分の鑑賞文のよさや改善点を見いだしている。（ワークシート）
終 2分	⑤ 本時のまとめと次時の予告をする。 「本時の振り返りを書きましょう。」 「次の時間は、漢字に親しもう5の学習をします。」	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価と感想を記入する。 次時の見通しを持つ。

板書例

① 題材名「魅力を効果的に伝えよう 鑑賞文を書く」を黒板に書く。

② 本時の目標を確認させる。
・「鑑賞文を書き、読み合って意見交換をしよう。」
・ワークシートを配付し、確認させる。

③ 鑑賞文を書かせる。

④ 文章を読み合わさせ、意見交換をさせる。

「魅力を効果的に伝えよう 鑑賞文を書く」

鑑賞文を書き、読み合って意見交換をしよう。

○ 200字程度で鑑賞文を書く。

魅力―根拠―まとめ の双括型で書く。

根拠は「具体的に」「印象的に」を心がける。

○ 鑑賞文を読み合い、意見交換する。
読み合いの観点

・ 作品を知らない人でも魅力を具体的にイメージできるか。
・ 作品を見てみたいと思うような印象的な表現になっているか。

・ 良い点は青色の付箋
・ 改善点は黄色の付箋

○ 学習を振り返る。

⑤ 本時のまとめと次時の予告をする。
・「本時の振り返りを書きましょう。」
「次の時間は、漢字に親しもう5の学習をします。」

63

題材名 「漢字に親しもう5」（第1時／全1時間）

目標 漢字を文や文章の中で読んだり書いたりすることができる。

領域名 言葉

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 5分	① 題材名「漢字に親しもう5」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 新出漢字や音訓をマスターしよう </div> ・ワークシートを配付する。 ・声を合わせて読ませる。	・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。
展開 38分	③ 新出漢字を確認させる。 ・P.309-310を見ながら、教師の後に続いて漢字の読みを復唱させる。 ④ P.186の問題に取り組ませる。 ・教科書に直接書き込ませる。 ・時間に余裕があれば、指名して答えさせていくとよい。 ・慣用句やことわざの意味は、国語辞典やパソコンなどで調べさせる。 【解答は別紙】 ⑤ P-251「小学校六年生で学習した漢字」に取り組ませる。 ・ 【解答は別紙】	・教師のあとに続いて復唱する。 ・教科書に直接漢字の読みを書き込む。 ・ワークシートに問題番号と解答を書き込む。 評価 文や文章の中で漢字を読んだり書いたりできた。（ワークシート）
終 2分	⑥ 本時のまとめと次時の予告をする。 「本時の振り返りを書きましょう。」 「次の時間は用言の学習をします。」	・自己評価と感想を記入する。 ・次時の見通しを持つ。

板書例

① 題材名「漢字に親しもう5」を黒板に書く。

② 本時の目標を確認させる。
・「新出漢字や音訓をマスターしよう。」
・ワークシートを配付し、確認させる。

④ P.186の問題に取り組ませる。
・教科書に直接書き込ませる。

漢字に親しもう5

新出漢字や音訓をマスターしよう

○ 186ページの練習問題に取り組む。

※解答は別紙を参照

○ 251ページ「小学校六年生で学習した漢字」に取り組む。

※解答は別紙を参照

○ 学習を振り返る。

⑤ P. 251「小学校六年生で学習した漢字」に取り組ませる。
・ワークシートに書き込ませる。

⑥ 本時のまとめと次時の予告をする。
・「本時の振り返りを書きましょう。」
「次の時間は用言の学習をします。」

64

題材名 「文法への扉2」(第1時/全1時間)

目標 単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解することができる。

領域名 言葉

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入	① 題材名「文法への扉2 走る。走らない。走ろうよ。」を、黒板に書く。	
5分	② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">用言の活用について理解しよう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを配付する。 ・声を合わせて読ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。
展開	③ P.187の導入や解説, P.238文法2「①活用」を読み, 「活用」の意味や用語について理解させる。	・活用にに関する語句をワークシートにまとめる。
	④ P.239文法2「②用言の活用 1 動詞の活用」を読み, 動詞の活用について理解させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・活用表に書き込ませる。 ・下段の練習問題に取り組ませる。(動詞の抜き出しは教師が行い活用の種類と活用形だけ答えさせる、など生徒の理解度に合わせて問題の取り組み方を調整するとよい。) 	・動詞の活用表を完成させ、練習問題に取り組む。
	⑤ P.241文法2「②用言の活用 2 形容詞・形容動詞の活用」を読み, 形容詞・形容動詞の活用について理解させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・活用表に書き込ませる。 ・下段の練習問題に取り組ませる。(動詞と同じような配慮をするとよい。) 	<ul style="list-style-type: none"> ・形容詞・形容動詞の活用表を完成させ、練習問題に取り組む。 <p>評価 用言の活用形と活用の種類について、語例を基に理解している。(ワークシート)</p>
終	⑥ 本時のまとめと次時の予告をする。 「本時の振り返りを書きましょう。」 「次の時間は「読書に親しむ」を学習します。」	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価と感想を記入する。 ・次時の見通しを持つ。

指導のポイント

- ・文法は積み重ねの学習であるため、普段から復習をしていない生徒にとってはかなり厳しい学習となる。随時既習事項を確認しながら進めるようにする。形容詞と形容動詞の活用はワンパターンなので、動詞の活用に時間をかけた方がよい。

板書例

① 題材名「文法への扉2 走る。走らない。走ろうよ。」を黒板に書く。

② 本時の目標を確認させる。
 ・「用言の活用について理解しよう。」
 ・ワークシートを配付し、確認させる。

③ P.187の導入や解説, P.238 文法2「①活用」を読ませ、「活用」の意味や用語について理解させる。

⑤ P.239 文法2「②用言の活用 1 動詞の活用」を読ませ、動詞の活用について理解させる。

○ 241 ページの形容詞・形容動詞の活用表を完成させ、下段の問題を解こう。

○ 240 ページの動詞の活用表を完成させ、下段の問題を解こう。

○ 活用

・活用によって変化した単語の形を(活用形)という。また、活用しても常に変化しない部分を(語幹)、変化する部分を(活用語尾)という。

・活用形は、次のような言葉が続くかによって次の六種類に分けられる。

活用形	未然形	連用形	終止形	連体形	仮定形	命令形
動詞の場合の主な(よ)の続き方	ない(ぬ)	用言、ます	言い切る形	体言、ので	「もしくすれば」と仮定する形	命令して言い切る形
せる	る	て	から	のに	ば	形
る	る	た	けれ	に	に	
る	る	な	れ	に	に	
る	る	な	れ	に	に	
る	る	な	れ	に	に	
る	る	な	れ	に	に	
る	る	な	れ	に	に	
る	る	な	れ	に	に	
る	る	な	れ	に	に	

○ 学習を振り返る。

① (寒かろ) (未然)

② (静かに) (連用)

③ (暑けれ) (仮定)

用言の活用について理解しよう。

文法への扉2 走る。走らない。走ろうよ。

⑤ P.241 文法2「②用言の活用 2 形容詞・形容動詞の活用」を読み、形容詞・形容動詞の活用について理解させる。

⑥ 本時のまとめと次時の予告をする。
 ・「本時の振り返りを書きましょう。」
 「次の時間は「読書に親しむ」を学習します。」

65

題材名 「読書に親しむ」(第1時/全1時間)

目標 文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。

領域名 言語文化 C 読むこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 5分	① 題材名「読書生活を豊かに」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">自分の知識や経験と結びつけて、文章を読もう。</div> ・ワークシートを配付する。 ・声を合わせて読ませる。	・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。
展開 38分	③ 「研究の現場によろこそ」を通読させる。 ・教師が範読する。 ・二次元コードで、教科書に掲載されている文章の続きや、他の研究者のインタビュー記事を読めることを伝え、読書を促すとよい。 ④ 「クモの糸でバイオリン」を通読させる。 ・教師が範読する。 ・可能であれば、実物の本を提示したり、学校図書館に置いたりすることで、生徒が本を手に取りやすくなる。 ◎ ⑤ 感想を伝え合わせる。 ・教材文を自分の知識や経験と結び付けて読み、初めて知ったこと、興味をもったこと、疑問に思ったことなどをワークシートに記入させ、発表させる。	・教師の範読を聞く。 ・自分の知識や経験と照らし合わせて、二つの文章を読んだ感想を書く。 ・感想を伝え合う。 評価 教材文を自分の知識や経験と結び付けて読み、感想を伝え合っている。(観察・ワークシート)
終 2分	⑥ P191「本の世界を広げよう」を参考に、今後読みたい本を考えさせる。 ・各教材の最終ページ下段に紹介されている「広がる読書」も参考にさせるとよい。 ⑦ 本時のまとめと次時の予告をする。 「本時の振り返りを書きましょう。」 「次の時間は「走れメロス」を学習します。」	・ワークシートに読みたい本のリストを作成する。 ・自己評価と感想を記入する。 ・次時の見通しを持つ。

板書例

① 題材名「読書に親しむ」を黒板に書く。

② 本時の目標を確認させる。
・「自分の知識や経験と結びつけて、文章を読もう。」
・ワークシートを配付し、確認させる。

③ 「研究の現場にようこそ」を通読させる。

④ 「クモの糸でバイオリン」を通読させる。

⑤ 感想を伝え合わせる。

読書に親しむ

自分の知識や経験と結びつけて、文章を読もう。

「研究の現場にようこそ」

「クモの糸でバイオリン」

○これから読みたい本のリストを作ろう。

○学習を振り返る。

⑥ 「本の世界を広げよう」を参考に、今後読みたい本を考えさせ、リストを作成させる。

⑦ 本時のまとめと次時の予告をする。
・「本時の振り返りを書きましょう。」
「次の時間は「走れメロス」の学習をします。」

66

題材名 「走れメロス、作品の魅力を語り合おう」①（第1時／全4時間）

目標 作品の魅力をまとめ、意見を述べ合うことができる。

領域名 言葉 B 書くこと C 読むこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 2分	<p>① 題材名「走れメロス 太宰 治」を黒板に書く。</p> <p>② 本時の目標を黒板に書く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">全文を通読して感想を持ち、主要な登場人物について確認する。</div> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートを配付する。 声を合わせて目標を読ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の目標を知る。 ワークシートに名前を書く。 声を合わせて目標を読む。
展開 46分	<p>③ 漢字の読みを確認させる。（43字）</p> <ul style="list-style-type: none"> 教材文の下段に掲載の新出漢字・音訓の熟語の読みを確認していく。 教師のあとに続いて漢字の読みを復唱させる。 読み仮名は、音はカタカナ、訓はひらがなで振らせる。 <p>④ 『走れメロス』の全文を通読させる。通読前に、登場人物がでてきたら○印で囲み、名前がある人物は二重◎で囲みながら、教師の範読を聞くように指示を出す。また、通読後、簡単に感想または印象を発表してもらうことを告げる。</p> <p>⑤ 主要な登場人物を、ワークシートに書かせる。</p> <p>「名前が書かれている登場人物には、どんな人物がいるか。」（5人）</p> <p>「この中で主要な登場人物は誰か。また、それはどうしてか。」</p> <p>「主要な登場人物を、2人に絞るとすれば、誰と誰か。また、それはどうしてか。」</p> <p>「この2人のうち、主人公はだれか。」</p> <p>「ワークシートに、人物の名前を記入しましょう。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教師のあとに続いて復唱する。 分からなかった読みだけ、ワークシートの読み仮名を振る。 意味の分からない言葉があったら、質問する。 教科書の文章を目で追い、鉛筆で文をなぞりながら、教師の範読を聞く。 人物に○印をつけ、名前がある人物には◎印をつけながら聞く。 感想・印象を発表する。 文章につけた印をもとに、登場人物を挙げる。 主要な登場人物を考え、その理由も付して発表する。 2人の登場人物を、その理由も付して発表する。 主人公について発表する。 ワークシートの正しい場所に、人物名を書く。
終 2分	<p>⑥ 本時のまとめと次時の予告をする。</p> <p>「本時の振り返りを書きましょう。」</p> <p>「次の時間は、本文を5つの場面に分け、それぞれの場面のあらすじをまとめる学習をします。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価と感想を記入する。（漢字の読み、主要な登場人物の確認） 本時に関連付けて、次時の見通しを持つ。

板書例

① 題材名「走れメロス 太宰 治」を黒板に書く。

② 本時の目標を黒板に書く。

③ 漢字の読みを確認させる。(43字)

- ・教材文の下段に掲載の新出漢字・音訓の熟語の読みを確認していく。
- ・教師のあとに続いて漢字の読みを復唱させる。
- ・読み仮名は、音はカタカナ、訓はひらがなで振らせる。

※ 予め模造紙等に準備をして、貼れるとよい。

走れメロス

太宰 治

全文を通読して感想を持ち、主要な登場人物について確認する。

《新出漢字の読みの確認》

邪知^{ジャチ}暴^{ボウ}虐^{キヤク}、花^{ハナ}婿^{ムコ}、花^{ハナ}嫁^{ヨメ}、祝^{シユク}宴^{エン}、賢^{ケン}臣^{シン}、
 警^{ケイ}吏^リ、眉^{メイ}間^{カン}、乞^キう、亭^{テイ}主^{シュ}、一^{イツ}睡^{スイ}、到^{トウ}着^{チャク}、祭^{サイ}壇^{ダン}、
 承^{ショウ}諾^{ダク}、新^{シン}郎^{ロウ}、生^{ショウ}涯^{ウガイ}、醉^{スイ}う、拳^{ケン}、湧^{ワウ}く、汜^{ハン}濫^{ラン}、
 荒^{アウ}れ狂^{キヤウ}う、山^{サン}賊^{ゾク}、隙^{スキ}、仰^{オウ}ぐ、萎^{ワイ}える、芋^{イモ}虫^{ムシ}、路^ロ傍^{ボウ}、
 欺^{アサ}む、卑^ヒ劣^{レツ}、醜^ミい、四^シ肢^シ、蹴^{ケツ}飛^トばす、全^{ゼン}裸^{ラタイ}体^{タイ}、恨^{ウラ}む、
 抱^{ホウ}擁^{ヨウ}

《新出音訓の読みの確認》

ひと^{ヒト}シ^シチ^チ 人^{ヒト}質^{シチ}、民^{タミ}、報^{ホウ}い^くる、調^{テイ}え^る、蒸^{チュウ}し^{あつ}暑^ツい、誠^{マコト}、真^{シン}紅^{コウ}、
 フウ^{フウ}テ^テイ^イ 風^{フウ}体^{テイ}、万^{マン}歳^{サイ}

感想・印象

(例) ・古い話なのか? ・結末ですっきりした。
 ・ハッピーエンドだ。 ・メロスはスーパーマンだ。
 ・王が変われてよかった。 ・テーマは友情かな?

【名前が書かれている登場人物】

メロス、セリヌンティウス、アレキス様、
 暴君ディオニス(Ⅱ王)、フィロストラトス

【主要な登場人物】理由…最初から最後まで登場するから
 メロス、セリヌンティウス、暴君ディオニス(Ⅱ王)

【主要な二人】きっかけがこの二人だから
 メロス、暴君ディオニス

【主人公】 メロス

○学習を振り返る。

⑤ 主要な登場人物を、ワークシートに書かせる。

「名前が書かれている登場人物には、どんな人物がいるか。」(5人)

「この中で主要な登場人物は誰か。また、それはどうしてか。」

「主要な登場人物を、2人に絞るとすれば、誰と誰か。また、それはどうしてか。」

「この2人のうち、主人公はだれか。」

「ワークシートに、人物の名前を記入しましょう。」

④ 『走れメロス』の全文を通読する。通読前に、登場人物がでてきたら○印で囲み、名前がある人物は二重○で囲みながら、教師の範読を聞くように指示を出す。また、通読後、簡単に感想または印象を発表してもらうことを告げる。

⑥ 本時のまとめと次時の予告をする。

「本時の振り返りを書きましょう。」

「次の時間は、今日抜き出した登場人物や場面の展開など、作品の設定について学習します」

67

題材名 「走れメロス、作品の魅力を語り合おう」②（第2時／全4時間）

目標 作品の魅力をまとめ、意見を述べ合うことができる。

領域名 言葉 B 書くこと C 読むこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 3分	<p>① 題材名「走れメロス 太宰 治」を黒板に書く。</p> <p>② 本時の目標を黒板に書く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">5つの場面のあらすじをまとめ、作品の構成を捉えよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・声を合わせて目標を読ませる。 ・ワークシートを配付する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。 ・ワークシートに名前を書く。
展開 44分	<p>③ 全文を、場所に注目して、5つの場面に分けさせる。</p> <p>「本文を黙読し、メロスが行動した場所に注目して、全文を5つの場面に分けましょう。」</p> <p>場面1 <u>シラクスの町</u>にやってきた場面</p> <p>場面2 <u>王城</u>で王とやりとりする場面</p> <p>場面3 <u>村</u>で妹の結婚式をする場面</p> <p>場面4 <u>村と王城の刑場との間</u>の場面</p> <p>場面5 <u>王城の刑場</u>での場面</p> <p>④ 本文を黙読しながら、場面1～場面5の、それぞれの簡単なあらすじを書かせる。</p> <p>「次の留意事項に気をつけて、今、5つに分けた場面のあらすじを、それぞれ簡単にまとめて書きましょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・＜留意事項＞ <ol style="list-style-type: none"> 1 主人公であるメロスの行動を中心に、本文の言葉を使ってまとめるとよい。 2 主要な登場人物であるメロスと王の心の変化を入れてまとめるとよい。 3 時を表す言葉を入れてまとめるとよい。 4 文末は、本文と同じ常体（だ・である調）でまとめるとよい。 5 細かい内容は、ほとんどすべて省き、主人公のメロスが何をした場面なのかを考えてまとめるとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本文の段落の区切れ目や、場所や時を表す言葉に注目する。 ・左記の場面1～場面5の本文中での区分を、ページ（P）と行（L）を使って、ワークシートの「区分」の行に記入する。 例）P196L1～P197L16 ・それぞれの場面の必要な部分を黙読しながら、あらすじをまとめるのに必要な言葉に印をつける。 ・場面ごとにあらすじをまとめ、ワークシートに書く。 ・まとめ終わったら、場面1から場面5までのあらすじを順に読み、全体のあらすじとなっているか確かめる。
終 3分	<p>⑤ 本時のまとめと次時の予告をする。</p> <p>「本時の振り返りを書きましょう。」</p> <p>「次の時間は、今日抜き出した登場人物や場面の展開など、作品の設定について学習します。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価と感想を記入する。（場面構成、作品の構成の理解） ・本時に関連付けて、次時の見通しを持つ。

板書例

① 題材名「走れメロス 太宰 治」を黒板に書く。

② 本時の目標を黒板に書く。

③全文を、場所に注目して、5つの場面に分ける。

「本文を黙読し、メロスが行動した場所に注目して、全文を5つの場面に分けましょう。」

- 場面1 シラクスの町にやってきた場面
- 場面2 王城で王とやりとりする場面
- 場面3 村で妹の結婚式をする場面
- 場面4 村と王城の刑場との間の場面
- 場面5 王城の刑場での場面

○ 学習を振り返る	場面5 王城の刑場での場面 P二〇九L八〜P二二一L一九	場面4 村と王城の刑場との間の場面 P二〇二L一〇〜P二〇九L七	場面3のあらすじ (ワークシートの解答例を参照)	場面2のあらすじ (ワークシートの解答例を参照)	場面1のあらすじ (ワークシートの解答例を参照)	場面2 王城で王とやりとりする場面 P一九七L一七〜P二〇〇L一〇	場面1 シラクスの町にやってきた場面 P一九六L一〜P一九七L一六	走れメロス 太宰 治	五つの場面のあらすじをまとめ、作品の構成を捉えよう。
-----------	---------------------------------	-------------------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------------------	--------------------------------------	---------------	----------------------------

④ 本文を黙読しながら、場面1～場面5の、それぞれの簡単なあらすじを書く。

「次の留意事項に気をつけて、今、5つに分けた場面のあらすじを、それぞれ簡単にまとめて書きましょう。」

・<留意事項>

- 1 主人公であるメロスの行動を中心に、本文の言葉を使ってまとめるとよい。
- 2 主要な登場人物であるメロスと王の心の変化を入れてまとめるとよい。
- 3 時を表す言葉を入れてまとめるとよい。
- 4 文末は、本文と同じ常体(だ・である調)でまとめるとよい。
- 5 細かい内容は、ほとんどすべて省き、主人公のメロスが何をした場面なのかを考えてまとめるとよい。

⑤ 本時のまとめと次時の予告をする。

「本時の振り返りを書きましょう。」

「次の時間は、今日抜き出した登場人物や場面の展開など、作品の設定について学習します」

68

題材名 「走れメロス、作品の魅力を語り合おう」③（第3時／全4時間）

目標 作品の魅力をまとめ、意見を述べ合うことができる。

領域名 言葉 B 書くこと C 読むこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 3分	<p>① 題材名「走れメロス 太宰 治」を黒板に書く。</p> <p>② 本時の目標を黒板に書く。</p> <p>③ 場面の展開に即して、メロスと王の人物像や心情の変化を読み取ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・声を合わせて目標を読ませる。 ・ワークシートを配付する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。 ・ワークシートに名前を書く。
展開 44分	<p>③ 場面1、場面2から、メロスと王の人物像を読み取らせる。</p> <p>「場面1と場面2のどんな表現から、メロスや王のどんな人物像が分かりますか。」（ワークシート(1)の設問）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本文を黙読させ、人物像が分かる表現に傍線を付し、その行間に人物像をメモさせる。 ・「○ページの○行目の、『○○…』という表現から、○○の『○○○○…』という人物像が分かった。」という形で発表させる。 <p>④ 場面3、場面4から、メロスの心情の変化を読み取らせる。</p> <p>「場面3、場面4のどんな表現から、メロスの気持ちの変化が分かりますか。」（ワークシート(2)の設問）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本文を黙読し、メロスの心情が分かる表現に傍線を付す。 ・「○ページの○行目の、『○○…』という表現から、メロスの気持ちが『○○○○…』変わったことが分かる。」という形で発表させる。また、場面ごとの心情の変化を、心情曲線で表す。 <p>⑤ 場面5における王の心情や考えの変化を読み取らせる。</p> <p>「場面5で、王の心情や考えは、何をきっかけにどう変わりましたか。」（ワークシート(3)の設問）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・王の心情の変化が分かる表現に傍線を付し、どう変わったのかを行間にメモさせる。 ・心情が変化したきっかけも含めて、変化した王の心情を発表させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・場面1～場面2の必要な部分を黙読しながら、メロスと王の人物像が分かる表現に傍線を引く。 ・傍線部の行間に、どんな人物像かをメモする。 ・2人の人物像を発表する。 ・場面3～場面4の必要な部分を黙読しながら、メロスの心情の変化が分かる表現に傍線を引く。 ・場面ごとの、メロスの心情の変化が分かる表現を発表する。 ・場面ごとの心情の変化に沿って、変化を心情曲線で表す。 ・場面5の必要な部分を黙読しながら、王の心情が分かる表現に傍線を引く。 ・王の心情の変化とそのきっかけを発表する。
終 3分	<p>⑥ 本時のまとめと次時の予告をする。</p> <p>「本時の振り返りを書きましょう。」</p> <p>「次の時間は、これまで学習してきたこの作品の魅力について、様々な観点から考えて、意見交流をする学習をします。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価と感想を記入する。（メロスと王の人物像、心情の変化の理解） ・本時に関連付けて、次時の見通しを持つ。

指導のポイント 授業の進め方として、ワークシートを生徒主体で進める方法と、教師主導で発問や指示を与えながら進める方法が考えられる。クラスの実態に応じて進め方を工夫したい。

板書例

① 題材名「走れメロス 太宰 治」を黒板に書く。

② 本時の目標を黒板に書く。

③ 場面1、場面2から、メロスと王の人物像を読み取らせる。
 「場面1と場面2のどんな表現から、メロスや王のどんな人物像が分かりますか。」(ワークシート(1)の設問)
 ・本文を黙読させ、人物像が分かる表現に傍線を付し、その行間に人物像をメモさせる。
 ・「〇ページの〇行目の、『〇〇…』という表現から、〇〇の『〇〇〇〇…』という人物像が分かった。」という形で発表させる。

走れメロス

- ・人々を信じて疑わない人
- ・邪悪を憎み、正義を愛する人
- ・悪を、絶対に許さず、見過ごさない人
- ・自分の力を信じている人
- ・難しいことでもまかさない人
- ・純粋な人
- ・必ず約束を守る人

〔場面1、2〕で、メロスと王はどのような人物として描かれているか。

《メロス》

太宰 治

- ・人を疑い絶対に信じない人
- ・人の本性は悪だと思ってい
- ・罪もない人を平気で殺せる
- ・残虐な人
- ・自分のことだけ考える身勝手な人

《王》

② 本時の目標

・一生このままここにいたい。・未練の情

水源地の氾濫

- ・泣きながらゼウスに哀願した。
- ・荒れ狂う波に必死の闘争を開始した。

山賊

- ・悪徳者として生き延びてやろうか。
- ・何もかもばかばかしい。
- ・私は醜い裏切り者だ。
- ・義務遂行の希望が生まれた。

身体疲労

- ・信じられていないから走るのだ。
- ・人の命も問題ではないのだ。
- ・もともと恐ろしく大きいもののために走っているのだ。

ファイロストラトス

③ 場面 5 で、王の心情や考えは、何をきっかけにどう変化したか。

メロスとセリヌンティウスの二人は、お互いにちよつとだけ友を疑った罪悪を、お互いが、お互いを殴ったことで、その罪を許し合ったこと

〇 学習を振り返る

・人と人が信じあうことの美しさを悟った。美しさを悟った。美しさを悟った。美しさを悟った。

・仲介を頼りたくなかった。仲介を頼りたくなかった。仲介を頼りたくなかった。仲介を頼りたくなかった。

《心情曲線》

④ 場面3、場面4から、メロスの心情の変化を読み取らせる。
 「場面3、場面4のどんな表現から、メロスの気持ちの変化が分かりますか。」(ワークシート(2)の設問)
 ・本文を黙読し、メロスの心情が分かる表現に傍線を付す。
 ・「〇ページの〇行目の、『〇〇…』という表現から、メロスの気持ちが『〇〇〇〇…』変わったことが分かる。」という形で発表させる。

⑥ 本時のまとめと次時の予告をする。
 「次の時間は、これまで学習してきたこの作品の魅力について、様々な観点から考えて、意見交流をする学習をします。」

69

題材名 「走れメロス、作品の魅力を語り合おう」④（第4時／全4時間）

目標 作品の魅力をまとめ、意見を述べ合うことができる。

領域名 言葉 B 書くこと C 読むこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 4分	<p>① 題材名「走れメロス 太宰 治」を黒板に書く。</p> <p>② 本時の目標を黒板に書く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>既習の学習内容を活かして、『走れメロス』の作品の魅力について意見を出し合い、意見交流しよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・声を合わせて目標を読ませる。 ・ワークシートを配付する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。 ・ワークシートに名前を書く。
展開 42分	<p>③ 本時の学習活動について、生徒に指示を与える。</p> <p>「この時間は、前の時間までに学習した、場面の展開や人物像、登場人物の心情や、これまでに国語の時間に教わったことを活用して、『走れメロス』の作品の魅力を各自に考えてもらいます。その後、魅力を発表し合って意見交流をします。その時、その魅力が、国語的にどんな効果を上げているかということも考えて意見を言ってもらいます。」</p> <p>④ ワークシートの作品の魅力の観点を読み上げる。</p> <p>描写：人の心情や行動、情景や物などを、そっくりに描き出した表現。 文体：その作者や作品にみられる特有な文章表現上の特色。</p> <p>⑤ 感じ取った作品の魅力について考えさせる。</p> <p>「感じた魅力について考え、ワークシートに記入しましょう。」 「どの観点か分からない時には質問するか、ワークシートの空いたところにメモしておきましょう。」</p> <p>⑥ 作品の魅力について、意見交流をさせる。</p> <p>「観点ごとに魅力について発表してもらいます。友達の意見は友の欄にメモしましょう。作品の中で、魅力がどんな効果を上げているか言える人は、それも含めて発表してください。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習の全容を説明する。 ・ワークシートを見て、観点を理解する。 ・意味が分からない観点について、質問する。 ・ワークシートに、それぞれの観点の自の欄に、作品の魅力を簡潔に書き込む。 ・自分が書いた魅力について発表する。 ・他の生徒の意見をメモする。 ・作品中での効果を考える。
終 4分	<p>⑦ 本時のまとめと次時の予告をする。</p> <p>「本時の振り返りを書きましょう。」</p> <p>「次の時間は、教科書P214の『漢字に親しもう6』を、1時間使って学習します。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価と感想を記入する。 (作品の魅力の発表、作品の魅力の積極的な意見交流) ・次時に新しい小単元を学習する見通しを持つ。

指導のポイント : 作品の魅力の意見交流については、教師主導で、クラス全体で行う方法と、クラスの人数が多い場合などには、グループに分かれて行う方法もある。その際、意見交流を進める司会などの役割分担を指示し、自分たちで意見交流を進められるようにできるとよい。

板書例

① 題材名「走れメロス 太宰 治」を黒板に書く。

② 本時の目標を黒板に書く。

③ 本時の学習活動について、生徒に指示を与える。
「この時間は、前の時間までに学習した、場面の展開や人物像、登場人物の心情や、これまでに国語の時間に教わったことを活用して、『走れメロス』の作品の魅力を各自に考えてもらいます。その後、魅力を発表し合って意見交流をします。その時、その魅力が、国語的にどんな効果を上げているかということも考えて意見を言ってもらいます。」

④ ワークシートの作品の魅力の観点を読み上げる。
例) 描写：人の心情や行動、情景や物などを、そっくりに描き出した表現。
例) 文体：その作者や作品にみられる特有な文章表現上の特色。

走れメロス

既習の学習内容を活かして、『走れメロス』の作品の魅力について意見を出し合い、意見交流しよう。

1 【テーマ（主題）】（筆者が読者に伝えたかった内容）
王の前で繰り返し広げたメロスとセリヌンティウスの信じあう気持ち、不信心と猜疑心しか持たなかった王に人間の信実を明らかにし、王の気持ちを変えたことが、この小説のテーマだと思う。

2 【作品の設定】

① 登場人物の設定
まさに対照的なメロスと王を設定し、目下の者が目上の心や考えを変えるという設定になっている。

② 人物像
極端なくらい、メロスとセリヌンティウス、そして王の人物像はつきり表現しているのも魅力だ。

③ 場面の展開
メロスの超人性ではなく、人間味を表すため、場面2、3、4で、人間メロスに試練を与える展開がよい。

④ 題名
短く印象的で、作品に合致した誰もが忘れない魅力的な題名である。

3 【作品の表現】

① 表現のしかた
場面4で、メロスが心で思っていることを吐露する言葉が多く、必死な気持ちに伝わってくる。

② 描写
主人公メロスの心情描写、行動描写が多く、きめ細やかにメロスの心情を表現しているのも魅力である。

③ 文体
「初夏、満天の星である。」のように漢語を用いた文体は、歯切れがよく、短い言葉で印象深く伝える効果がある。

④ 語句・言葉
邪知暴虐、賢臣、磔刑、繫舟など、古い漢語が多く、文章に軽快なリズム感を与えている。

4 【その他】
古代ローマ時代から伝わる古い話を原作として、それを上手にアレンジして、小説として仕上げている。

○ 学習を振り返る

⑥ 作品の魅力について、意見交流をさせる。
「観点ごとに魅力について発表してもらいます。友達の見解は○友の欄にメモしましょう。作品の中で、魅力がどんな効果を上げているか言える人は、それも含めて発表してください。」

⑤ 感じ取った作品の魅力について考えさせる。
「感じた魅力について考え、ワークシートに記入しましょう。」
「どの観点か分からない時には質問するか、ワークシートの空いたところにメモしておきましょう。」

⑦ 本時のまとめと次時の予告をする。
「次の時間は、これまで学習してきたこの作品の魅力について、様々な観点から考えて、意見交流をする学習をします。」

70

題材名 「漢字に親しもう6」（第1時／全1時間）
目標 漢字を文や文章の中で読んだり書いたりすることができる。
領域名 言葉

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導 入 5 分	① 題材名「漢字に親しもう6」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 新出漢字や音訓をマスターしよう </div> ・ワークシートを配付する。 ・声を合わせて読ませる。	・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。
展 開 38 分	③ 新出漢字を確認させる。 ・P.311-312を示しながら、教師の後に続いて漢字の読みを復唱させる。 ④ P.214の問題に取り組ませる。 ・教科書に直接書き込ませる。 ・時間に余裕があれば、指名して答えさせていくとよい。 ・慣用句やことわざの意味は、国語辞典やパソコンなどで調べさせる。 【解答は別紙】 ⑤ P-251「小学校六年生で学習した漢字」に取り組ませる。 ・ 【解答は別紙】 ※時間が余った場合は、今回学習した漢字を用いた短文づくりやリレー作文などをさせるとよい。また、季節のしおりの音読や、P.274からの資料を読ませてもよい。	・教師のあとに続いて復唱する。 ・教科書に直接漢字の読みを書き込む。 ・ワークシートに問題番号と解答を書き込む。 評価 文や文章の中で漢字を読んだり書いたりできた。（ワークシート）
終 2 分	⑥ 本時のまとめと次時の予告をする。 「本時の振り返りを書きましょう。」 「次の時間は付属語の学習をします。」	・自己評価と感想を記入する。 ・次時の見通しを持つ。

板書例

① 題材名「漢字に親しもう6」を黒板に書く。

② 本時の目標を確認させる。
・「新出漢字や音訓をマスターしよう。」
・ワークシートを配付し、確認させる。

④ P.214の問題に取り組ませる。
・教科書に直接書き込ませる。

漢字に親しもう6

新出漢字や音訓をマスターしよう

○ 214 ページの練習問題に取り組む。

※解答は別紙を参照

○ 251 ページ「小学校六年生で学習した漢字」に取り組む。

※解答は別紙を参照

○ 学習を振り返る。

⑤ P. 251 「小学校六年生で学習した漢字」に取り組ませる。
・ワークシートに書き込ませる。

⑦ 本時のまとめと次時の予告をする。
・「本時の振り返りを書きましょう。」
「次の時間は用言の学習をします。」

71

題材名 「文法への扉3」（第1時／全1時間）

目標 単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解することができる。

領域名 言葉

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 5分	① 題材名「文法への扉3 一字違いで大違い」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 付属語について理解しよう </div> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートを配付する。 声を合わせて読ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の目標を知る。 声を合わせて目標を読む。
展開 38分	③ P.215の導入や解説を読ませ、付属語の働きについて考えさせる。 ④ P.244文法3「①付属語」を読ませ、付属語の種類について理解させる。 <ul style="list-style-type: none"> 付属語は、助詞と助動詞の2種類であることを確認させる。 ⑤ P.244文法3「②付属語の種類 1 助動詞」を読ませ、助動詞の働きについて理解させる。 <ul style="list-style-type: none"> 助動詞の定義を確認させた後、P.244下段の問題を解かせる。 助動詞の働きを確認させた後、P.246下段の問題を解かせる。 ⑥ P.246文法3「②付属語の種類 2 助詞」を読ませ、助詞の種類と働きについて理解させる。 <ul style="list-style-type: none"> 助詞の定義を確認させた後、P.246下段の問題を解かせる。 助詞の働きを確認させた後、P.248下段の問題を解かせる。 P.248解答例 ①一つめは相手を表す格助詞、二つめは引用を表す格助詞、三つめは順接を表す接続助詞。 ②一つめは主語を表す格助詞、二つめは逆接を表す接続助詞。 ③一つめは起点を表す格助詞、二つめは理由を表す接続助詞。 ④一つめは疑問を表す終助詞、二つめは連体修飾語を作る格助詞。 ※それぞれの違いを理解できていればよいので、言葉の正確さを求める必要はない。	<ul style="list-style-type: none"> 来年「は」、来年「も」、の違いを考える。 付属語には助詞と助動詞の2種類があることを確認する。 助動詞の定義と働きを確認し、問題に取り組む。 助詞の定義と働きを確認し、問題に取り組む。 評価 助詞・助動詞の働きや種類について理解し、文や文章で使われている助詞や助動詞の意味・用法を判別している。（ワークシート）
終 2分	⑦ 本時のまとめと次時の予告をする。 「本時の振り返りを書きましょう。」 「次の時間は「構成や展開を工夫して書こう」を学習します。」	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価と感想を記入する。 次時の見通しを持つ。

板書例

① 題材名「文法への扉3 一字違いで大違い」を黒板に書く。

② 本時の目標を確認させる。
・「付属語について理解しよう。」
・ワークシートを配付し、確認させる。

③ P.215 の導入や解説を読ませ、付属語の働きについて考えさせる。
④ P.244 文法3「①付属語」を読ませ、付属語の種類について理解させる。

⑤ P.244 文法3「②付属語の種類 1 助動詞」を読ませ、助動詞の働きについて理解させる。

文法への扉3 一字違いで大違い

付属語について理解しよう。

○ 助動詞の働きを理解しよう。

助動詞：（活用）する付属語。用言・体言や他の助動詞などに付いて、（意味）を付け加えたり、話し手・書き手の（気持ち）や（判断）を表したりする。

○ 次の文を文節に区切り、助動詞に線を引こう。

① 今夜は、／星が／見えない。

② 校長先生は、／正午に／戻られる／予定です。

③ 雨が／強く／なりそうだから、／皆を／早めに／帰宅させよう。

④ 小学生の／ころ、／決して／約束は／破るまいと／心に／決めた。

⑤ あの／雲は、／まるで／魚の／ような／形を／して／いますね。

○ 246 ページ下段の問題を解こう。（意味・用法が違うものを○で囲もう）

① 叱られた 指名された 言われた ② 描かれた 降った 掛けた

○ 助動詞の働きを理解しよう。

助詞：（活用）しない付属語。（自立語）の後に付いて、さまざまな意味を付け加えたり、（語句と語句の関係）を示したりする。

○ 次の文を文節に区切り、助動詞に線を引こう。

① 私は、／週に／一回は／種類を／食べる。

② 思い切り／走ると、／息が／上がる。

③ コーヒーが／紅茶が、／好きな／ほうを／選ぶ。

④ ねえ、／愛子さん、／午後から／どこへ／行くの。

⑤ 駅前で／バスに／乗り換え、／図書館に／行く。

○ 248 ページ下段の問題に取り組もう。（違いを考えて説明しよう。）

○ 学習を振り返る。

⑥ P.246 文法3「②付属語の種類 2 助詞」を読み、助詞の種類と働きについて理解させる。

⑦ 本時のまとめと次時の予告をする。
・「本時の振り返りを書きましょう。」
「次の時間は「構成や展開を工夫して書こう」を学習します。」

72

題材名 「構成や展開を工夫して書こう」①（第1時／全2時間）

目標 伝えたいことがわかりやすく伝わるように、段落相互の関係などを明確にし、文章の構成や展開を工夫することができる。

領域名 言葉 B 書くこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 5分	① 題材名「構成や展開を工夫して書こう」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">物語の題材を決めよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートを配付する。 声を合わせて読ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の目標を知る。 声を合わせて目標を読む。
展開 38分	③ これまでに学習してきた物語や小説を振り返らせる。 <ul style="list-style-type: none"> 作品の設定や構成、登場人物の心情の変化について確かめさせる。 物語を書くときに、どんな点を生かしたいかを考えながら振り返らせるとよい。 ④ 題材を決めさせる。 <ul style="list-style-type: none"> 生活を振り返らせ、取り上げたい「ある日」を選ばせる。 心に残る出来事があった日や、全力で何かに取り組んだ日、自分のものの見方や考え方が変わった日などの観点で思い出させる。 小学生の頃の出来事でもよい。 ⑤ 物語の設定を考えさせる。 <ul style="list-style-type: none"> 時、場所、登場人物を考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 少年の日の思い出やアイスプラネット、盆土産、走れメロスなどについて、学習したことを振り返る。 生活を振り返り、取り上げたい「ある日」を選び、ワークシートに記入する。 <p>評価 気持ちや考え方に大きな変化があったかを観点として、物語の題材を決めている。（ワークシート）</p> <ul style="list-style-type: none"> 物語の設定を考えてワークシートに記入する。
終 2分	⑥ 本時のまとめと次時の予告をする。 「本時の振り返りを書きましょう。」 「次の時間は、物語のあらすじを考えて交流します。」	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価と感想を記入する。 次時の見通しを持つ。

指導のポイント

題材を決めるまでが勝負である。ぜひ時間をかけて考えさせたい。「書くことがない。」という生徒は必ずと言っていいほど出てくるので、指導者がしっかりと話題の引き出しを準備しておくことが重要である。特に、その生徒の特技や趣味などについて話題を振ってみるとよい。

例 学校生活…入学式、テスト、部活動、運動会、文化祭、交流活動、ボランティア活動、など
 日常生活…旅行や外出、掃除、食事、趣味、など

板書例

① 題材名「構成や展開を工夫して書こう」を黒板に書く。

② 本時の目標を確認させる。
・「物語の題材を決めよう。」
・ワークシートを配付し、確認させる。

③ これまでに学習してきた物語や小説を振り返らせる。

④ 題材を決めさせる。

○学習を振り返る。

- ・ 時
- ・ 場所
- ・ 登場人物

○物語の設定を考えよう。

- ・ 生活を振り返り、取り上げたい「ある日」を選ぶ。
- ・ 心に残る出来事があった日
- ・ 全力で何かに取り組んだ日
- ・ 自分のものの見方や考え方が変わった日 など

○これまで学習してきた物語の場面展開

物語の題材を決めよう。

構成や展開を工夫して書こう」

⑤ 物語の設定を考えさせる。

⑥ 本時のまとめと次時の予告をする。
・「本時の振り返りを書きましょう。」
「次の時間は、物語のあらすじを考えて交流します。」

73

題材名 「構成や展開を工夫して書こう」②（第2時／全2時間）

目標 伝えたいことがわかりやすく伝わるように、段落相互の関係などを明確にし、文章の構成や展開を工夫することができる。

領域名 言葉 B 書くこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 5分	① 題材名「構成や展開を工夫して書こう」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">物語のあらすじを考えて交流しよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートを配付する。 声を合わせて読ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の目標を知る。 声を合わせて目標を読む。
展開 38分	③ 物語のあらすじを考えさせる。 <ul style="list-style-type: none"> P.218「構成の例」を読ませ、場面の展開を明確にするには起承転結の流れで構成するとよいことを確認させる。 ○新聞や1年で学習した故事成語の四コマ漫画を提示すると、理解の手助けになる。 <ul style="list-style-type: none"> 語り方を選ばせてもよい。三人称視点であれば「走れメロス」、一人称であれば「アイスプラネット」か「盆土産」を参考にさせる。一人称でも、アイスプラネットは「僕という主語で語られる」、盆土産は「一人称の主語が一度も出てこない」という違いがあるので、注意させる。 起承転結それぞれを簡潔に書かせる。 ◎ ④ 書いたあらすじを交流させる。 <ul style="list-style-type: none"> 起承転結の流れができていないか、特に「転」の部分で変化が描かれているかを観点として良い点や改善点を交流させる。 ※時間の都合上あらすじ作成までで単元の指導を終えるが、希望者には原稿用紙を配布して物語を書かせてもよい。	<ul style="list-style-type: none"> 少年の日の思い出やアイスプラネット、盆土産、走れメロスなどについて、学習したことを振り返る。 評価 起承転結の流れで構成を考え、場面の展開が明確になるように、それぞれの場面での出来事や心情を整理している。（ワークシート）
終 2分	⑤ 本時のまとめと次時の予告をする。 「本時の振り返りを書きましょう。」 「次の時間は、話し言葉と書き言葉について学習します。」	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価と感想を記入する。 次時の見通しを持つ。

板書例

① 題材名「構成や展開を工夫して書こう」を黒板に書く。

② 本時の目標を確認させる。
・「物語のあらすじを考えて交流しよう。」
・ワークシートを配付し、確認させる。

③ 物語のあらすじを考えさせる。

構成や展開を工夫して書こう

物語のあらすじを考えて交流しよう。

○場面展開の基本は起承転結

起…状況設定・出来事の発端

承…展開（出来事の経緯）

転…山場（状況が大きく動き、心情や考え方が変化。）

結…結末（出来事のその後。）

○語り方を決めよう。

・三人称視点（例 走れメロス）

・一人称視点（例 アイスプラネット 盆土産）

○あらすじを交流しよう。

交流の観点

・起承転結ができているか。

・転（山場）での変化が描かれているか。

○学習を振り返る。

④ 書いたあらすじを交流させる。

⑤ 本時のまとめと次時の予告をする。
・「本時の振り返りを書きましょう。」
「次の時間は、話し言葉と書き言葉について学習します。」

74

題材名 「話し言葉と書き言葉」 (第1時/全1時間)
目標 話し言葉と書き言葉の特徴について理解することができる。
領域名 言葉

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 5分	① 題材名「話し言葉と書き言葉」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">話し言葉と書き言葉の特徴を理解しよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを配付する。 ・声を合わせて読ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。
展開 38分	③ 新出漢字を確認させる。(3字) <ul style="list-style-type: none"> ・P.312を見ながら、教師の後に続いて漢字の読みを復唱させる。 ④ 導入の例文から、話し言葉と書き言葉の違いについて考えさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・気付いたことを挙手で発表させる。 ⑤ 音声の特徴から話し言葉を、文字の特徴から書き言葉を捉えさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・同音異義語の伝え方を理解させる。(話し言葉) ・漢字、平仮名、片仮名、句読点、常体・敬体の使い方に注意させる。(書き言葉) 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師のあとに続いて復唱する。 ・音声と文字の違いを考えて発表する。 ・話し言葉と書き言葉の特徴を捉え、ワークシートに記入する。 <p>評価 話し言葉と書き言葉について、それぞれの特徴を理解し、表現する際にどのような注意が必要かを考えている。(ワークシート)</p>
終 2分	⑥ P.221「書くことに生かす」を用いて、聞き取った内容を文章に書き直させる。 ⑦ 本時のまとめと次時の予告をする。 「本時の振り返りを書きましょう。」 「次の時間は送り仮名の学習をします。」	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価と感想を記入する。 ・次時の見通しを持つ。

板書例

① 題材名「話し言葉と書き言葉」を黒板に書く。

② 本時の目標を確認させる。
・「話し言葉と書き言葉の特徴を理解しよう。」
・ワークシートを配付し、確認させる。

④ 導入の例文から、話し言葉と書き言葉の違いについて考えさせる。

⑤ 音声の特徴から話し言葉を、文字の特徴から書き言葉を捉えさせる。

話し言葉と書き言葉

話し言葉と書き言葉の特徴を理解しよう。

○ 音声と文字の伝え方の違い

- ・ 音声は繰り返している。
- ・ 文字は順序だてて、箇条書き。見やすさ重視。
- ・ 音声は語りかけるよう。

○ 話し言葉：音声によって伝えられる言葉。

- ・ こそあど言葉で示せる。
 - ・ 内容を省略できる。
- など

○ 書き言葉：文字によって伝えられる言葉。

- ・ 情報を整理し、具体的に書く。
 - ・ 共通語で書く。
- など

○ 221 ページの内容をクラスの人への報告の文章にしよう。

○ 学習を振り返る。

⑥ P.221「書くことに生かす」を用いて、聞き取った内容を文章に書き直させる。

⑦ 本時のまとめと次時の予告をする。
・「本時の振り返りを書きましょう。」
・「次の時間は用言の学習をします。」

75

題材名 「漢字3 送り仮名」(第1時/全1時間)
目標 漢字を文や文章の中で読んだり書いたりすることができる。
領域名 言葉

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 5分	① 題材名「漢字3 送り仮名」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">送り仮名についての理解を深めよう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを配付する。 ・声を合わせて読ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。
展開 38分	③ 新出漢字を確認させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・P.312を見ながら、教師の後に続いて漢字の読みを復唱させる。 ④ 導入の例から、送り仮名が漢字の読みを明らかに示すために付けられていることを確認させる。 ⑤ 教材文を読み、送り仮名の付け方の主な原則と例外について理解させる。 ⑥ P223の練習問題に取り組みさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・「活用語尾」などについて、P238文法2「用言の活用」で確認させる。 ・教材の語以外に、間違えやすい送り仮名にはどのようなものがあるかを考えさせるとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師のあとに続いて復唱する。 ・「通」の例から、送り仮名の役割を理解する。 ・送り仮名の付け方の原則と例外をワークシートにまとめる。 ・練習問題に取り組み、ワークシートに解答を書き込む。 <p>評価 送り仮名に注意して、漢字を読んだり書いたりしている。(ワークシート)</p>
終 2分	⑦ 本時のまとめと次時の予告をする。 「本時の振り返りを書きましょう。」 「次の時間は「国語の学びを振り返ろう」を学習します。」	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価と感想を記入する。 ・次時の見通しを持つ。

板書例

① 題材名「漢字3 送り仮名」を黒板に書く。

② 本時の目標を確認させる。
・「送り仮名についての理解を深めよう。」
・ワークシートを配付し、確認させる。

④ 導入の例から、送り仮名が漢字の読みを明らかに示すために付けられていることを確認させる。

⑤ 教材文を読み、送り仮名の付け方の主な原則と例外について理解させる。

漢字3 送り仮名

送り仮名についての理解を深めよう。

○送り仮名の役割

↓漢字の読みを明らかに示す

○送り仮名の付け方

①活用のある語

原則⇨活用語尾を送る。

例外

形容詞 語幹が「し」で終わる場合は

「し」から送る。

形容動詞

活用語尾の前に「か」「やか」「らか」を含む場合は、その部分から送る。

②活用のない語

名詞 原則⇨送り仮名を付けない

例外⇨「後ろ」「自ら」などは最後の音節を送る。

副詞・連体詞・接続詞

原則⇨最後の音節を送る。

○練習問題に取り組む。(解答はワークシート)

○学習を振り返る。

⑥ P223の練習問題に取り組ませる。
・ワークシートに書き込ませる。

⑦ 本時のまとめと次時の予告をする。
・「本時の振り返りを書きましょう。」
「次の時間は「国語の学びを振り返ろう」を学習します。」

76

題材名 「国語の学びを振り返ろう」①（第1時／全3時間）

目標 互いの立場や考えを尊重しながら話し合い，結論を導くために考えをまとめることができる。

領域名 言葉 情報 A 話すこと・聞くこと B 書くこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 5分	① 題材名「国語の学びを振り返ろう」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">壁新聞のテーマと内容を決めよう</div> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートを配付する。 声を合わせて読ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の目標を知る。 声を合わせて目標を読む。
展開 38分	③ 壁新聞のテーマを決めさせる。 <ul style="list-style-type: none"> 自分たちの変化（できるようになったことや考え方が変わったこと）と、そのきっかけになった教材を付箋に書き出させる。そこから「国語を学ぶ意義」を考えさせ、3人グループで壁新聞のテーマを一つに決めさせる。 P.6「学習の見通しをもとう」を開いて学習した内容を振り返らせるとよい。 ④ 壁新聞の内容を話し合わせる。 <ul style="list-style-type: none"> ③の活動で書いた付箋からテーマに合ったものを3つ選ばせ、新聞記事の内容を決めさせる。 新聞のレイアウトは時間短縮のため予め用意したものを使わせることとし、記事の優先順位を話し合わせる。 必要な写真や図を考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 1年間の国語の学習を振り返り、自分の変化を付箋に書き出す。 書き出した付箋をもとに国語を学ぶ意義についてグループで話し合い、壁新聞のテーマを決める。 グループで話し合い、壁新聞の内容、記事の優先優先順位、必要な写真や図を決める。 <p>評価 壁新聞のテーマと内容について、お互いの意見の共通点・相違点を明らかにしながら話し合い，結論を導いている。（ワークシート）</p>
終 2分	⑤ 本時のまとめと次時の予告をする。 「本時の振り返りを書きましょう。」 「次の時間は記事を書き、新聞を完成させます。」	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価と感想を記入する。 次時の見通しを持つ。

指導のポイント

1年間の学びを振り返ることが大切である。教科書だけではなく、ワークシートや作文なども見返して、自分の成長を実感させたい。また、話し合いが活動の中心になるため、はじめに話し合いの注意点を再度確認しておくことよい。

板書例

① 題材名「国語の学びを振り返ろう」を黒板に書く。

- ② 本時の目標を確認させる。
- ・「壁新聞のテーマと内容を決めよう。」
 - ・ワークシートを配付し、確認させる。

③ 壁新聞のテーマを決めさせる。

国語の学びを振り返ろう

壁新聞のテーマと内容を決めよう。

○一年間でできるようになったこと、考え方が変わったこと
とを付箋に書き出す。

← 「国語を学ぶ意義」を考え、壁新聞のテーマを決める。

○壁新聞の内容を決める。

- ・記事は三つに絞る
- ・レイアウトは共通のものを使う
- ・記事の優先順位を話し合う
- ・必要な図や写真を考える

○学習を振り返る。

④ 壁新聞の内容を話し合わせる。

- ⑤ 本時のまとめと次時の予告をする。
- ・「本時の振り返りを書きましょう。」
 - 「次の時間は記事を書き、新聞を完成させます。」

77

題材名 「国語の学びを振り返ろう」②（第2時／全3時間）

目標 読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、文章を整えることができる。

領域名 言葉 情報 A 話すこと・聞くこと B 書くこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 5分	① 題材名「国語の学びを振り返ろう」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">表現を工夫して壁新聞を書こう</div> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートを配付する。 声を合わせて読ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の目標を知る。 声を合わせて目標を読む。
展開 38分	③ 分担させて、記事の下書きをさせる。 <ul style="list-style-type: none"> 新聞にまとめることを意識させ、結論を見出しに、詳細を本文に書かせる。 新聞を書く目的は「国語で学んだことを伝えること」、相手は「クラスの友達」であることを伝える。 見出しを書く際は、「伝えたいことを簡潔に書く」「体言止めや省略などの表現の工夫を用いる」ことを意識させる。 ④ 下書きを推敲させ、記事を清書させる。 <ul style="list-style-type: none"> P.116「表現の効果を考える」を振り返らせ、観点を意識して下書きを推敲させる。 推敲させたのち、グループ内で記事の読み合わせを行わせ、互いにアドバイスし合ったり、文体を統一したりさせる。 パソコンで作成すると見栄えがよく、写真やイラストを挿入したりそれぞれの記事を貼り合わせたりするのも簡単である。 手書きの場合は、新聞用紙の記事ごとに切り分けて担当者に渡し、最後に貼り合わせるようにする。掲示のために拡大コピーすることを考え、清書の際にはペンで書かせる。 <p>※ワークシートはA4サイズで作成しているが、壁新聞として掲示する場合はA3に拡大するとよい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> グループで分担を決め、記事の下書きをする。 観点に従って下書きを推敲し、記事を清書する。 <p>評価 読み手の立場に立って推敲し、表現を工夫している。（ワークシート）</p>
終 2分	⑤ 本時のまとめと次時の予告をする。 「本時の振り返りを書きましょう。」 「次の時間は完成した新聞を読み合います。」	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価と感想を記入する。 次時の見通しを持つ。

板書例

① 題材名「国語の学びを振り返ろう」を黒板に書く。

② 本時の目標を確認させる。
・「表現を工夫して壁新聞を書こう。」
・ワークシートを配付し、確認させる。

③ 分担して、記事の下書きをさせる。

国語の学びを振り返ろう

表現を工夫して壁新聞を書こう。

【壁新聞づくり】

目的 「国語で学んだことを伝えること」
相手 「クラスの友達」

○記事の分担を決め、下書きをしよう。

記事を書く時には

- ・ 結論は見出しに書く。
- ・ 詳細は本文に書く。
- ・ できるだけ具体的に。
- ・ 伝えたいことは何かを意識する。

○下書きを推敲し、記事を清書しよう。

- ・ 116ページの観点に沿って。
- ・ 個人で推敲後、グループで読み合う。
- ・ 清書は読む人のことを考えて丁寧に、ペン書きで！

○学習を振り返る。

④ 下書きを推敲し、記事を清書させる。

⑤ 本時のまとめと次時の予告をする。
・「本時の振り返りを書きましょう。」
「次の時間は記事を書き、新聞を完成させます。」

78

題材名 「国語の学びを振り返ろう」③（第3時／全3時間）

目標 表現の工夫とその効果などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章の良い点や改善点を見いだすことができる。

領域名 言葉 情報 A 話すこと・聞くこと B 書くこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 5分	① 題材名「国語の学びを振り返ろう」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">壁新聞を読み合い感想を伝え合おう</div> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートを配付する。 声を合わせて読ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の目標を知る。 声を合わせて目標を読む。
展開 38分	◎? ③ 壁新聞を読み合わせ、感想を伝え合わせる。 <ul style="list-style-type: none"> 壁新聞を教室の壁に掲示し、読んで回ることができるようにしておく。 読み合いの観点を確認しておく。「見出しは工夫されているか」「本文は具体的に書かれているか」「視覚的にわかりやすい新聞になっているか」 それぞれの新聞の良い点や改善点を付箋に書かせ、新聞の下部に貼らせるとよい。 ④ 自分たちの新聞の良い点や改善点をまとめさせる。 <ul style="list-style-type: none"> 友達からの付箋をもとに、グループで自分たちの新聞の良い点や改善点を話し合わせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達の書いた新聞を読み、良い点や改善点を付箋にメモする。 友達からの付箋を読み、自分たちの新聞の良い点や改善点について話し合い、ワークシートにまとめる。 <p>評価 読み手からの助言を踏まえ、自分の表現についての良い点と改善点を見つけている。（ワークシート）</p>
終 2分	⑤ 本時のまとめと次時の予告をする。 「本時の振り返りを書きましょう。」 「次の時間は「木」を学習します。」	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価と感想を記入する。 次時の見通しを持つ。

指導のポイント

1年間の国語学習を振り返る題材である。じっくりと新聞を読み合い、お互いが国語の授業を通じて学んだことを知る機会としたい。時間があれば終末で教師から講評してやるとよい。

板書例

① 題材名「国語の学びを振り返ろう」を黒板に書く。

② 本時の目標を確認させる。
・「壁新聞を読み合い感想を伝え合おう。」
・ワークシートを配付し、確認させる。

③ 壁新聞を読み合わせ、感想を伝え合わせる。

国語の学びを振り返ろう

壁新聞を読み合い感想を伝え合おう。

○壁新聞を読み、それぞれの良い点や改善点について
アドバイスし合おう。

観点

「見出しは工夫されているか」

「本文は具体的に書かれているか」

「視覚的にわかりやすいか」

・良い点は青い付箋、改善点は黄色い付箋に書き、
新聞の下部に貼る。

○自分たちの新聞の良い点や改善点について
グループで話し合い、まとめよう。

○学習を振り返る。

④ 自分たちの新聞の良い点や改善点をまとめさせる。

⑤ 本時のまとめと次時の予告をする。
・「本時の振り返りを書きましょう。」
「次の時間は「木」を学習します。」

79

題材名 「木」 (第1時/全1時間)

目標 詩を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。

領域名 言葉 C 読むこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 5分	① 題材名「木 田村隆一」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">作者のものの見方について語り合おう</div> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートを配付し、確認させる。 声を合わせて読ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の目標を知る。 声を合わせて目標を読む。
展開 38分	③ 詩を通読させ、印象に残った表現を発表させる。 <ul style="list-style-type: none"> 教師が範読する。 各自で黙読させ、印象に残った表現に線を引かせる。 印象に残った表現について数名を指名して発表させる。 ④ 第1連から、「木」と対比されているものは何かを考えさせる。 「黙ってられない」「歩いたり走ったりする」「愛とか正義とかわめく」もの→「人間」ということに気付かせる。 ⑤ 「ぼく」の「木」に対する思いが「好きだ」から「大好きだ」に変わった理由を考えさせる。 <ul style="list-style-type: none"> 主に第3連に着目させ、「ぼく」が「木」をどのようなものだと認識しているか捉えさせる。 「人間」と「木」に対する「ぼく」の考えを踏まえて理由をまとめさせる。 まとめた理由と結びつくような知識や経験も書かせる。 ⑥ まとめたものを発表させる。 <ul style="list-style-type: none"> 発表を聞き、なるほどと思ったことはメモさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 詩を繰り返し読み、印象に残った表現に線を引く。 木と人間の対比に気付き、「ぼく」の人間に対する考えを読み取る。 第3連から「ぼく」の木に対する考えを読み取り、「ぼく」が木を大好きだと思う理由を考えてワークシートに書く。 評価 自分の知識や経験と結び付けて、作者のものの見方について考えている。(ワークシート) <ul style="list-style-type: none"> まとめたものを発表し合う。
終 2分	⑦ 本時のまとめと次時の予告をする。 「本時の振り返りを書きましょう。」 「次の時間は1年間の学習の振り返りをします。」	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価と感想を記入する。 次時の見通しを持つ。

板書例

① 題材名「木 田村隆一」を黒板に書く。

② 本時の目標を確認させる。
・「作者のものの見方について語り合おう。」
・ワークシートを配付し、確認させる。

③ 詩を通読させ、印象に残った表現を発表させる。

④ 第1連から、木と対比されているものは何かを考えさせる。

「木」 田村隆一

作者のものの見方について語り合おう。

○対比されているもの

木

人間

黙っている

歩いたり走ったりしない

愛とか正義とかわめかない

だから好き

だから…

○「好きだ」から「大好きだ」に変わった理由

木は愛そのものだ

木は正義そのものだ

愛とは？ 受け入れること？

正義とは？ あるべきところへ返すこと？

○学習の振り返りをしよう。

- ・読み取ったことを踏まえて理由をまとめよう
- ・自分の知識や経験と結び付けよう
- ・学習の振り返りをしよう。

⑤ 「ぼく」の「木」に対する思いが「好きだ」から「大好きだ」に変わった理由を考えさせる。

⑥ まとめたものを発表させる。

⑦ 本時のまとめと次時の予告をする。
・「本時の振り返りを書きましょう。」
「次の時間は1年間の学習の振り返りをします。」

題材名 「学習を振り返ろう」（第1時／全1時間）

目標 文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定のしかたなどを捉えることができる。
自分の立場や考えが明確になるように、根拠の適切さや論理の展開などに注意して、話の構成を工夫することができる。

根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。

領域名 言葉 情報 A 話すこと・聞くこと B 書くこと C 読むこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 5分	① 題材名「学習を振り返ろう」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">1年間の学習を振り返り、身に付けた力を確認しよう</div> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートを配付し、確認させる。 声を合わせて読ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の目標を知る。 声を合わせて目標を読む。
展開 38分	③ 3つの課題を確認させ、自分が取り組む課題を選ばせる。 <ul style="list-style-type: none"> P. 256-258の右側の確認欄を読ませ、どんな力を確認するための課題なのかを理解させる。 選んだ領域名をワークシートに書かせる。 ④ 各自で課題に取り組ませる。 <ul style="list-style-type: none"> 同じ課題を選んだ者同士でまとまって作業をさせるとよい。 ⑤ 課題に取り組んだ成果を発表させる。	<ul style="list-style-type: none"> 自分が取り組みたいと思う課題を選び、ワークシートに領域名を書く。 自分が選んだ課題に取り組む。 取り組んだ成果を発表する。 <p>評価</p> <p>読むこと 教科書と長編版の「アイズプラネット」とを比較して読み、登場人物の違いによって、どんな展開の可能性が加わるかを考えている。</p> <p>話すこと・聞くこと 贈る言葉を考え、出典や理由を明らかにして話の構成を工夫している。</p> <p>書くこと 気持ちや用件が的確に伝わるメールを書いている。 (いずれもワークシート)</p>
終 2分	⑥ 本時のまとめをする。 「本時の振り返りを書きましょう。」 「これで1年間の国語の学習はすべて終了しました。これまでに学んだことを復習し、3年生の学習に備えましょう。」	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価と感想を記入する。 次年度に向けて気持ちを新たに

板書例

① 題材名「学習を振り返ろう」を黒板に書く。

② 本時の目標を確認させる。

- ・「1年間の学習を振り返り、身に付けた力を確認しよう。」
- ・ワークシートを配付し、確認させる。

③ 3つの課題を確認させ、自分が取り組む課題を選ばせる。

④ 各自で課題に取り組ませる。

学習を振り返ろう

一年間の学習を振り返り、身に付けた力を確認しよう。

○三つの領域から課題を一つ選ばう。

①読むこと 小説の比較

②話すこと・聞くこと 贈る言葉の提案

③書くこと 電子メールの文章の推敲

○各自で課題に取り組もう。

・困ったときは、同じ課題を選んだ友達に相談してもよい。

○取り組みの成果を発表し合おう。

○本時の振り返りをしよう。

⑤ 課題に取り組んだ成果を発表させる。

⑥ 本時のまとめをする。

- ・「本時の振り返りを書きましょう。」
- 「これで1年間の国語の学習はすべて終了しました。これまでに学んだことを復習し、3年生の学習に備えましょう。」